

第65回徳島県図画工作教育研究大会

研究紀要



令和7年11月21日
徳島市不動小学校

は じ め に

第65回徳島県図画工作教育研究大会の会場として、本校の研究成果を発表できますことは、誠に光栄なことであり、教職員一同、感激の思いでいっぱいです。本研究大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では、本研究大会に向けた準備や研修を令和5年度よりスタートし、低学年、中学年、高学年での複式体制、チーム・ティーチングによる授業形式で研究に取り組んできました。複式の授業では、異なる学年の子どもたちが同じ空間で学び合う中で、多様な思考や表現が自然に交差します。そうした場では、学年の枠を越えたかかわりや、時には上の学年が下の学年をリードするような姿が生まれ、図工の特性を生かした異学年交流が実現しやすい環境であったように思います。教師側にとっては、複式・小規模という環境での造形活動の指導には工夫が求められました。異学年を同時に見ながらも、それぞれの発達段階に応じた支援を行うためには、教材の工夫、時間の使い方、個別支援と集団活動のバランスなど、多くの視点が必要になります。今回の研究を通して、T1・T2の柔軟な連携が、子どもたちの表現活動の支えとなり、より多様な学びの広がりにつながることを実感しました。

令和6年度からは、研究主題「豊かにかかわり つながり 『わたし』が広がる造形活動」のもとに研究を推進してきました。授業の中では、子どもたちが互いの作品に興味をもち、声をかけ合ったり真似たりしながら、活動が自然に展開していく様子が見られました。また、「どうしてこうしたの?」「ここ、すごくおもしろいね」といった自然な会話の中から、他者の表現を認め、自分の表現に取り入れる姿も見られました。このような学びのかかわりを通して、子どもたちは「自分とは異なる感じ方や発想がある」ことを受け入れ、「自分の思いを表現してもよい」という安心感を得ることができ、自己の世界を広げていくことができたのではないかと考えています。

本校の研究は、まだ発展途上ではありますが、ご参会いただいた先生方には、本日の授業や研究発表を通して、取組の一端が、明日からの皆様の実践に役立つことを期待しております。また、本校児童及び教職員のさらなる成長のために、ご感想やご助言をいただければ幸いです。本研究大会をもって、本校の研究も一区切りとなりますが、今後も「造形活動を通じたつながりや学びを深めていけるような授業づくり」を地道に続けていきたいと思っています。

結びになりますが、本研究大会を開催するにあたり、温かくご指導、ご支援いただきました指導助言の先生方、さらには本研究大会の運営に様々なご支援をいただきました徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、徳島県並びに徳島市小学校教育研究会図画工作部会の先生方、その他関係各位の皆様方に敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

令和7年11月21日

徳島市不動小学校長 橋本 賢治

目 次

I	研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	令和7年度 図画工作部会研究計画	
II	研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	1 学校・地域の概要	
	2 児童の実態	
	3 図画工作科における複式指導について	
	4 図画工作科における児童の実態	
	5 研究組織	
	6 研究のあゆみ	
III	研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	1 授業実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
	(1) 令和6年度の実践	
	(2) 令和7年度の実践	
	(3) 授業実践記録(令和6・7年度)	
	2 全校での取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
	(1) アートタイム	
	(2) 絵画教室	
	(3) スマイルアート集会	
	(4) 県立近代美術館での鑑賞	
	(5) ことばであらわそう	
	(6) 特別支援学級での取組	
	3 感性を育む環境づくり・・・・・・・・・・・・・・	99
	(1) 図工室の環境整備	
	(2) 児童玄関のスマイル美術館	
	(3) 校内掲示	
	4 こども園・中学校・家庭・地域とのつながり・・・・・・・・	104
	5 教職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	108
	(1) 主題研究・実技研究	
	(2) 教材研究・教材準備	
	(3) 言葉かけ集	
	(4) 図画工作科だより「パレット」	
	6 年間指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	113
	(1) 複式年間指導計画	
	(2) 技能系統表	
IV	研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	139
	おわりに	
	研究同人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	144

I 研究主題



令和7年度 図画工作部会研究計画

1 研究主題

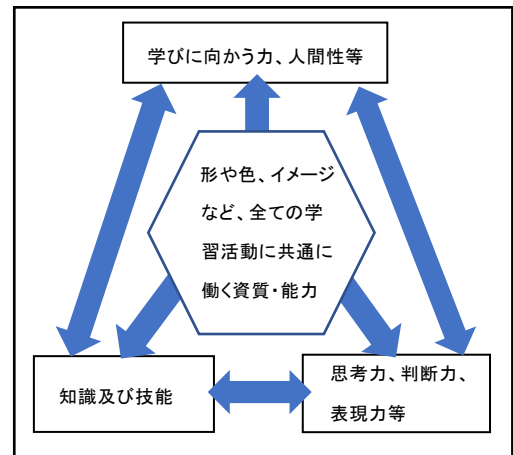
豊かにかかわり つながり 「わたし」が広がる造形活動

2 研究主題設定にあたって

図画工作科は、自由に想像を広げることができる楽しさや、思いのままに描いたりつくったりすることの面白さといった、よりよい表現を求めて試行錯誤することを通して、自分らしく創造していくことのできる教科である。表現されたものを鑑賞する際には、感じ取る楽しさに気付き、その形や色、イメージのよさや美しさを味わうこともできる。これらの図画工作科の学びによって児童は、感性や想像力を十分に働かせ、自分と対象や事象とのかかわりを深め、自分にとっての新しい意味や価値をつくりだし、造形的な資質・能力を育むことができる。また、自分にとっての新しい意味や価値をつくり出すということは、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる新たな自分自身をつくり出すことにもなる。この、新たな自分の見方・考え方を更新し続けることが、生涯にわたって学び続ける基礎となると考える。

図画工作部会では、これまで児童の実態に応じた「表現内容」、「表現材料」、「表現方法」と豊かにかかわることができるようにすることで、児童が表現したい思いを明確にし、その思いを実現しようと主体的に取り組むことのできる授業づくりを行ってきた。この取組の成果を生かしつつ、学習指導要領で示されている「育成を目指す資質・能力の三つの柱(図1)」の側面から、図画工作科の指導内容を整理し、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえた授業改善を行い、図画工作科で身に付けさせたい資質や能力の育成に努めたいと考え取り組んできた。表現活動では、児童同士や教師、そして自分自身との対話により、作品を見つめ直し、「つくり、つくりかえ、つくる」ことを行っている。鑑賞活動では、自他の作品のよさに目を向け、試みのよさを感じ取ることを通し、自分の見方や感じ方を広げたり、深めたりしている。

これまでの図画工作部会の研究を生かしつつ、昨年度は研究主題を「豊かにかかわり つながり『わたし』をつくる造形活動」、副主題を「造形的な資質・能力を高め、共感し合える喜びを感じられる授業づくり」とし、研究を推進してきた。造形的な資質・能力の育成のためには、児童の実態に応じた計画的かつ継続的な指導計画が必要だと考え、他校種とも協力をし、「幼稚園・小学校・中学校・高等学校の造形教育における系統性を踏まえた学習内容の一覧」を作成した。そうすることで、児童の学習内容のつながりを意識した授業実践・研究に取り組むことができた。さらに、児童が互いの活動や作品を見合い、感じ、考えたことを伝え合ったり、認め合ったりする活動を充実させた。共感し合える機会が増えることで、一人一人の児童が、自分や友達のよさや可能性を認識する一つの手がかりとなり、つくりだす喜びを共に味わうことができた。昨年度の研究で、他校種と協力することや人とのかかわり、共感し合うことなど、つながることの重要性を再確認することができた。これらのことを、さらに広げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていかななくてはならない。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させなが



〈図1 育成を目指す資質・能力の三つの柱〉

ら育成することや、生活や社会の中の形や色などに豊かにかかわる資質・能力を育成することについては、更なる充実が求められる。そこで、今年度は本主題を「豊かにかかわり つながり 『わたし』が広がる造形活動」とし、研究の方向性や具体的な改善策を明らかにし、図画工作科の指導の充実・改善を図っていく。

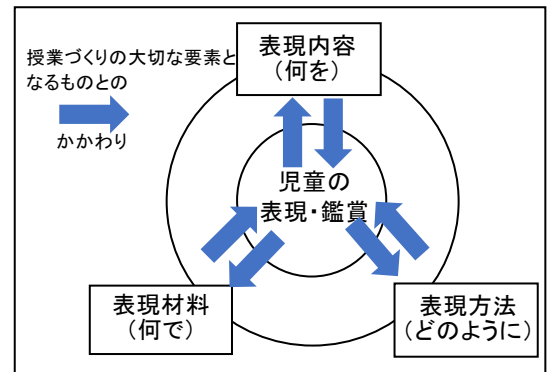
3 研究主題についての考え方

(1) 「豊かにかかわり」とは

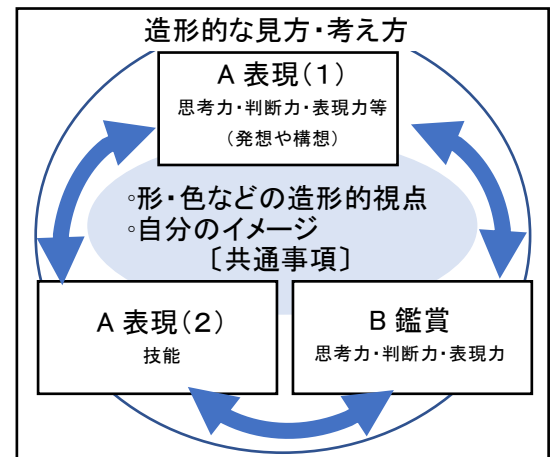
これまで図画工作部会では、造形活動において、「表現内容」(何を)「表現材料」(何で)「表現方法」(どのように)の3つの要素を明確にした授業づくりに取り組んできた。(図2) また、学習指導要領では、内容である表現や鑑賞と「共通事項」とのかかわりも整理され示されている。(図3)

表現活動では、児童が3つの要素をしっかりとつかんだ上でかかわり、主体的な学びの実現を図ることにより、自らつくりだす活動が促されると考える。自分の表したいことが決まっている児童は、3つの要素を関連付けながら、主体的に製作に取り組んでいく。

鑑賞活動では、3つの要素と形や色やイメージを基に友達の作品や親しみのある作品などを見ることで、自分なりの考えをもったり、感じ取ったりしやすくなる。このようにして感じた思いは、自分の表現活動を広げたり深めたりすることにもつながる。この時、「共通事項」の視点を踏まえた授業づくりをすることで、より豊かなかかわりのある活動とすることができる。さらに、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながらかかわっていくようにすることで、造形的な見方・考え方が高まっていく。



〈図2 表現や鑑賞における「かかわり」〉



〈図3 表現や鑑賞と「共通事項」とのかかわり〉

(2) 「つながり」とは

児童が夢中になって活動する授業とは、表現したいことを自分で見付け、表現方法を工夫し、試行錯誤を繰り返すことのできるものである。「豊かなかかわり」を通し、自分の考える形や色、イメージが具現化される中で、児童は自然と周囲とのつながりをもち始める。活動中に交わされる教師と児童、また、児童同士の対話の中で、児童は「それ、いいね」、「どうやったの」などの自分の表現を認めてくれる言葉に自信をもったり、新たなひらめきを得たりして活動に夢中になっていく。また、友達の表現から、「ああいう表現もあるのか…じゃあ、こうしたらどうだろう」と、刺激を受け、自分なりの意味や価値をつくりだすことが、新しい発想を生み出すことにもなる。教師が児童の活動を価値付けることにより、内省的な児童の気づきを促すこともできるであろう。時に、異学年集団で活動したり、作品を校内外に展示する機会を設けたりするなどのつながりも、児童の発想や構想の能力を高める場面となる。つながりで得られる共感や称賛の言葉から、児童は表現や鑑賞することの喜びを実感することができるのである。また、地域の身近な材料などの「もの」とのつながりや、身近な自然や行事、他教科などの「こと」とのつながりも造形的な資質・能力を高めることができる。

身近な「ひと」、「もの」、「こと」と児童がつながる場面を設けたり、社会とつながり協働的な活動を行ったりすることは、「思った通りできた」、「思いをうまく伝えられた」という達成感をもたせ、「自分の表現に自信がもてた」といった、自己肯定感を高める。また、「見てもらいたい」、「喜んでもらいたい」といった思いをもつことは、よりよいものをつくろうとする意欲を高める。さらに、達成感や表現の喜び、自己肯定感が、自他の造形活動について「話したい」、「聞きたい」、「伝え合いたい」などの主体性を育むことにつながっていく。このように、児童は学ぶ喜びを実感し、つながりを深めていくようにすることで、主体的に表現や鑑賞の活動へ取り組む意欲が高まる。そして、それが次の活動や学びへと結びついたり、生活や社会に主体的にかかわる態度を育成したりすることにつながる。

(3) 『わたし』が広がる」とは

図画工作科では、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる能力の育成を重視している。「生活や社会の中の形や色」とは、図画工作科の学習において、児童がつくりだす形や色、作品などや、家庭、地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などを示している。

造形活動を通して自分にとっての意味や価値をつくりだすことは、かけがえのない自分自身を見いだしたり、つくりだしたりするということである。学習指導要領に明記されている「自分にとって」や「自分自身」や「自ら」という言葉からも、造形的な創造活動では、まずもって、個が大切にされることが分かる。しかし、それは自分だけでよいという独りよがりなものを指しているわけではない。造形的な創造活動は、友達や家庭、地域といった人、学習の場、材料や用具、時間などといった児童を取り巻く環境の全てが感性を育んでいる。教師は一人一人の児童が、自らの可能性に気づき、自分にとっての意味や価値をつくりだそうとすることを大切にした指導を積み重ねることが重要である。そうすることによって、これまでの自分の経験や思いや考えを生かし、創造的な造形活動をしたり、形や色などと豊かにかかわる経験を重ねたりすることができる。それらが繰り返されることで、自分の造形的な見方・考え方を常に更新し続けていく、「わたし」をつくることになる。

ここでつくりだす喜びを味わった経験は、感性を育み、美しいものや優れたものに接して感動する豊かな情操を培う。培われた感性や情操は、一時的なものではなく、持続的に働くものであり、児童の学習活動を始めとして、身近な学校生活、家庭生活、社会生活への広がりをもつものである。自分の存在や成長を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにつながる。形や色などと豊かにかかわる資質・能力を働かせることが、楽しく豊かな生活を創造しようとするにつながり、『わたし』が広がる」ことになる。

4 研究内容

図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」、そして「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた授業改善のために、次のことを研究していく。

(1) 育成する造形的な資質・能力を明確にした指導計画の工夫

児童に育成を目指す資質・能力を明確にし、これまでの経験を生かしながら「造形的な見方・考え方」を働かせ、資質・能力を向上させることができるような題材を選択・配列し、適正な評価を考慮した題材の指導計画を作成する。その際、目の前の児童が成長してどんな学びをしていくかを見据え、就学前教育・中学校教育との接続や系統性を踏まえた指導計画をたてることが大切である。一つ一つの題材の内容が児童の実態に合ったものになっているか、学習を通して新た

な資質・能力を身に付けることができる内容になっているのかなどといった視点を持ち、系統性を踏まえた学びが展開できるよう工夫する。

指導計画の作成の際には、「A 表現（１）ア、イ」と「A 表現（２）ア、イ」、また「B 鑑賞（１）ア」をバランスよく配列することに留意する。「〔共通事項〕（１）ア、イ」の視点から題材の指導計画や内容、方法を検討し、目標の設定や具体的な指導と評価を考えることも必要である。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

①「主体的・対話的で深い学び」の充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせながら、造形的な資質・能力を関連させた学習展開を図ることである。題材の内容や時間のまとまりを見通すことにより、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指していかなければならない。そのために、児童が興味や関心を持ち主体的に取り組むことのできる題材を吟味することが重要である。児童は「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を通し、豊かに発想・構想したことや、系統的に身に付けた技能を発揮し、自分のイメージを作品として表現していく。そして、児童が自分の成長やよさに気付くことができるように、振り返りの場面を設ける。この繰り返しから深い学びを体得することとなる。

「造形的な見方・考え方」ができるようにするためには、授業の中に話し合うなどの対話を位置付けることも大切である。その際、形や色などの造形的な視点から、自分の考えなどを広げたり深めたりできるように留意する。「この形や色でいいか」、「自分の表したいことは表せているか」など、自分の表現のねらいや行為・活動を振り返り、感じたり、考えたりする場面（自己内対話）を大切にす。そして、友達の作品や活動、言語に関心をもつことができるような場面を設定するなどして、児童が自分や友達のよさや個性などに気付くようにすることが重要である。その際、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話し合うことから、つながりを深めていくことができるようにする。さらに、教師との対話、児童同士の対話だけでなく、保護者をはじめとする様々な人と活動したり交流したりする機会を設定することができれば、児童はより表現内容への新たな意味や価値をつくりだしていくことが可能になり「造形的な見方・考え方」が深まっていく。

②表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実

表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習とは、内容の取り扱いにある『A 表現』及び『B 鑑賞』の関連を図る」とつながっている。表現と鑑賞は、本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成することができる。つまり、一つの題材において表現と鑑賞とが往還するような学習過程を設定することが重要である。そうすることで、児童が表現したことを、自身で味わったり、友達と交流したりすることにより、表現が深まったり広がったり、味わったことを試したりすることができる。鑑賞の場面でも、表現と分けて設定するのではなく、感じ取ったり考えたりしたことを、試したり表現に生かしたりすることが考えられる。これらの活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指していく。その際、ICT 機器は表現や鑑賞の活動で学習のねらいに応じて活用することもできる。

③造形遊びの充実

造形遊びは、児童が材料や場所などに自ら進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通して捉えた形や色などから自分なりのイメージを基に発想や構想を繰り返し、思いのままに技能を働かせて表現する活動である。絵や立体、工作に表す活動のように主題や内容をあらかじめ決めるものではなく、児童が材料や場所、空間などと出会いかかわり、自分で目的を見付けて発展させていく

学習活動である。身近にある自然材や人工の材料を生かした題材を考えたり、発達段階や学習活動に応じた場所で活動を展開させたりすることで、造形遊びの充実が期待できる。

造形遊びは、児童が表現する過程そのものを楽しむ中で「つくり、つくりかえ、つくる」という学びの過程を経験できる重要な活動である。材料や場所を友達同士で共有するので、活動を通して共感し合い、気づきや発想が自然とつながりやすいという良さもある。そのため、主体的・対話的な学びが展開しやすいだけでなく、既習の経験や技能を生かして、新しい試みや価値を生み出すことができるので、深い学びにつなげていくこともできる。今一度、造形遊びの価値を確認し、どの学年でもそれぞれの発達の特性に応じた授業を実施することが大切である。

（３）指導と評価の一体化の工夫

学習評価では、児童の学習状況を的確に捉え、自らの学びを振り返り、次の学びに向かうことができるようにするとともに、教師が指導の改善を図ることにつなげることが重要である。図画工作科においては、完成された作品だけではなく、児童一人一人が表現及び鑑賞の活動の一連の学習過程の中で、育成を目指す資質・能力をいかに発揮しているのかを適切に評価することが求められる。事前に児童の思いや考えをつかんだ上で、目指す姿を設定し、授業の中でその姿を意識しながら声をかけたり支援したりすることで、児童の活動を価値付けていく。このことを通して、造形活動への意欲、資質・能力を高める指導につなげていくことが重要である。活動中の姿を評価することは、児童の表現の意図を理解することにつながり、指導（支援）する際の手がかりとなる。教師は、指導と評価が常に一体となっていることを認識しておくことが大切である。

図画工作科の「つくり、つくりかえ、つくる」学びの過程はRPDCAサイクルで回る。児童の実態・先行経験（R）⇒育成を目指す資質・能力を明確にする題材設定（P）⇒創造的な技能を生かした表現活動（D）⇒表現活動の振り返り（C）⇒新たな表現活動（A）となる。指導の在り方を常に確認し、児童一人一人が表現する喜びを感じることができるようになるため、教師は児童の表現や活動をしっかりと見取り、表現欲求に応えるべく個に応じた指導や、次の表現につながる適切な評価を行うことが求められる。

また、児童自らが学びを振り返り、次の学びへ向かうことができるよう、自他の作品や取組、行為のよさについて記述したり、話し合ったりする自己評価や相互評価などを行う場を設定することも大切である。教科の特性として、個々の活動が多様かつ同時進行していくため、ポートフォリオやICT機器を活用したデジタル記録、ワークシートの活用など、多様な評価方法を組み合わせることで、指導改善、学習改善につなげる評価を行う必要がある。児童のよさを認め、表現及び鑑賞の活動への自信と楽しさ、喜びを味わわせ、更なる表現活動への意欲をもたせるなど、指導に生きる評価方法を工夫していくことが大切である。

5 研究方法

- （１） 本年度は研究大会の会場校である、徳島市内町小学校・不動小学校を中心とした研究組織をつくり研究計画を立てる。また、発表担当の各郡市の研究組織と協働しながら事前研究や授業実践を行い研究内容の解明を図る。

徳島市内町小学校・不動小学校では、授業研究会を開催する。

造形遊びをする活動部会	○ 造形遊びをする活動を通して、活動を工夫してつくることができるようにするためにはどうすればよいか。 「知識及び技能」 ○ 造形遊びをする活動を通して、造形的な活動を思い付くことや活動の仕方について考えることができるようにするためにはどうすればよいか。 「思考力・判断力・表現力等」
絵や立体、工作に表す活動部会	○ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表し方を工夫することができるようにするにはどうすればよいか。 「知識及び技能」 ○ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表したいことを見付けることや、表し方について考えることができるようにするにはどうすればよいか。 「思考力・判断力・表現力等」
鑑賞活動部会	○ 鑑賞の活動を通して、造形的な魅力や造形的な表現の内容、方法、意図や特徴、表し方の変化などについて感じ取ったり考えたりし自分の見方や感じ方を広げたり深めたりするにはどうすればよいか。 「知識」「思考力・判断力・表現力等」

※上記に加えて、〔共通事項〕（１）は、すべての部会に関連付ける必要がある。

（２）各郡市研究会は、研究主題の解明に向けて共通理解を図り、研究や授業実践を行う。

引用・参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 図画工作編」平成 29 年
 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総則編」平成 29 年
 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 令和 2 年 3 月
 文部科学省「小学校図画工作科の指導における ICT の活用について」 令和 2 年 6 月
 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 第 110 回 資料 12
 「これからの社会を生きるすべての子供たちに求められる資質・能力の育成における芸術教科の意義」 令和 1 年 6 月
 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」 令和 3 年 1 月
 株式会社ぎょうせい「平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 図画工作」奥村高明 2018 年
 明治図書「小学校図工 指導スキル大全」岡田京子 2019 年
 明治図書「小学校新学習指導要領 図画工作科 題材&授業プラン」岡田京子 2020 年 10 月
 東洋館出版社「初等教育資料 2021 年 1 月号・11 月号 2020 年 10 月号」
 東洋館出版社「子どもスイッチ ON!! 学び合い高め合う『造形遊び』－豊かな学びの世界がひろがる図工の授業づくり－」岡田京子 2015 年

Ⅱ 研究の概要



Ⅰ 学校・地域の概要

本校がある不動町は、徳島市の中心から北西５キロメートルの地点にあり、町内を東西に横断する飯尾川を中心に、北を吉野川、南を鮎喰川の合流地点に開けた水と緑に恵まれた田園地帯である。また、不動町は、河川のもたらす豊かな土壌により、米作や野菜栽培等の農業振興地域であるとともに、西日本有数の設備をもつ徳島市立食肉センターがあることから食肉産業も盛んに行われ、徳島の食文化を支えている町である。

「人権の町」を表明している不動町は、同和問題の解決に向けて、地域・保護者・行政・不動学園（不動認定こども園、不動小学校、不動中学校の総称）の連携を大切にし、子どもたちの明るい未来を築くために、人権教育を中心とした活動を進めてきた。その結果、地域ぐるみで子どもを育てる教育的協力体制が整い、町内関係諸団体（人権教育推進協議会、仲よし子ども会、青少年健全育成会など）と不動学園が、「子どもは地域の宝」という考えのもと様々な学校行事や地域行事に協働して取り組んでいる。また、地域や学校の取組が保護者にも理解され、地域行事や学校行事に積極的に参加する保護者が増えてきている。

しかし、地域の中心となって活動してきた地域の方の高齢化や若い世代の不動町離れなど、今までの取組や地域行事をどのように持続させていくかが課題となっている。



２ 児童の実態

本校の児童数は４６名で、子どもたちは総じて素直で明るく活動的である。全校で「元気にあいさつ」「学校を美しく」「みんな仲良く」を合言葉に、あいさつや掃除などを中心に、物事に一生懸命取り組んでいる。また、スマイル班という異学年の児童で編成した班で清掃したり、学校行事に取り組んだりするなど、学年の枠をこえて活動する機会が多くあり、仲良く活動している。しかし、自尊感情が低く友達とうまく関わるできない児童もいることが課題である。

学習面に関しては、表現に関する項目で課題が見られる。友達の前で自分の考えや意見を発表しようとしている児童は全体の７割前後となっている。さらに自分の思いを表現することができるように、様々な教育活動を通して自分を肯定的に受け止め、大切な存在であると思う基本的自尊感情の育成と、互いのよさを認め合うことのできる仲間づくりに日々、取り組んでいる。

3 図画工作科における複式指導について

本校の児童数は年々減少傾向にあり、ほとんどの学年で10人に満たないという現状がある。そこで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、令和4年度より音楽科(3年以上)・図画工作科・家庭科・体育科の4教科については、1・2年生の低学年、3・4年生の中学年、5・6年生の高学年での複式体制で授業を行っている。教育課程については、主に下学年の内容を取り扱うA年度と、上学年の内容を取り扱うB年度として編成している。

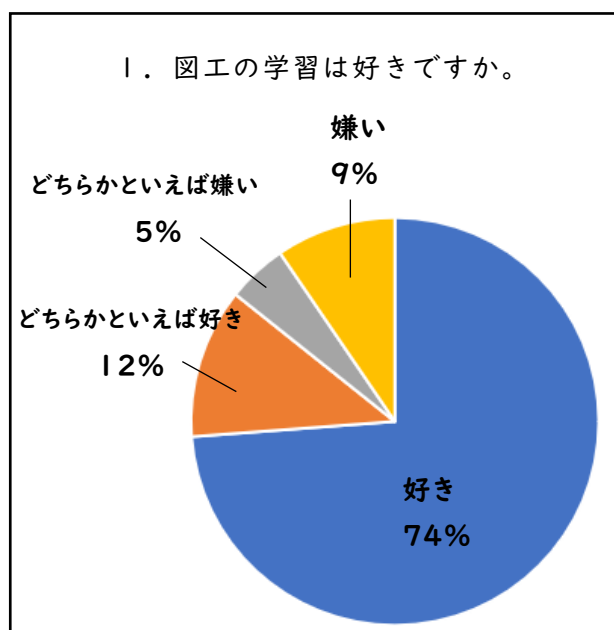
図画工作科においては、本校や児童の実態を考慮して本校独自の教育課程を編成するとともに、題材ごとに育てたい子どもの姿や主な学習内容、主な材料・用具、他教科・行事・地域・不動学園との関連について明記した年間指導計画を作成した。基本的にはA年度に上の教科書、B年度に下の教科書の内容を使用するが、年間でいくつかは上下の題材を入れ替えて、実施するよう計画を立てている。授業においては、2名以上の教員が指導にあたっている。相談して教材研究を行ったり、役割分担をして児童の様子を見取ったりすることで、指導と評価の一体化を図っている。また、児童は複式で学習することで、多様なアイデアや作品に触れることができ、互いに意見を出し合って考えや創造力を高めることもできている。また、上の学年が下の学年に道具の扱い方や、学習の手順などを教える姿も見られ、単学年で行うよりも教育的効果が上がっている。

1・2年 図画工作科 複式教育課程										
		1・2年 上 (A)				1・2年 下 (B)				
学期	月	上下	題材名	分野	時間	上下	題材名	分野	時間	
1 学 期 1 年 ② 2 年 ④	4	下	【2年】きせつをかんじて	絵	2	下	【2年】きせつをかんじて	絵	2	
		上	すきなかたちやいろいろな だんだんかくのはたのしいな (すきなものをあに)	絵	2	下	すきなかたちやいろいろなに ふしぎなたまご	絵	2	
		下	にぎにぎねん土	立	2	上	ねんどでごちそう なのつくろう	立	2	
	5	上	ちよきちよきざり	工	2	下	でこぼこはっけん	鑑	2	
		上	カラフルいろみず	造	2	下	①しんぶんしとなかよし ②つないでつるして (①②よりどちらか選択)	造	2	
		上	おってたてたら	工	4	下	どんなうごきにみえるかな	工	4	
	6 7	上	家焼き (いっしょにおさんぽ)	立	2	下	くしゃくしゃぎゅっ	立	4	
		上	すなやつちとなかよし	造	2					
		上	人権ポスター (せんせいあのね)	絵	6	下	人権ポスター (こんなことあったよ)	絵	6	
	2 学 期 ⑧	9	上	やぶいたかたちからうまれたよ	絵	4	下	とろとろえのぐで	絵	2
下			ひかりのプレゼント	造	2	下	ともだちハウス	立	4	
上			いっしょにあそぼうばくばくくん	工	2	上	べったんコロコロ	造	2	
10		上	たいせつボックス	工	6	下	わっかでへんしん	工	4	
		上	ならべてならべて	造	2	下	おとづくりフレンズ	工	4	
11		上	おはなしいすき	絵	4	上	すきまちゃんのすきなすきま	鑑	2	
		下	であって生まれるいろのせかい	鑑	2	下	おはなしからうまれたよ	絵	4	
12		上	わくわくおはなしすごろく	工	6	下	とびだせびょーん	工	6	
3 学 期 ⑩		1	上	うつしたかたちから	絵	4	下	たのしくうして	絵	4
			上	いっばいつかってなにしよう	造	2	下	だんボールに入ってみると!?	造	2
	2 3	上	スルスルビューン	工	4	下	はさみのあーと	絵	2	
		上	いろいろなかたちのかみに	絵	2	下	おもいでを かたちに	立	4	
		上	【1年】はこでつくったよ	立	4	上	【1年】はこでつくったよ	立	4	
		下	【2年】まどをあけたら	工	4	下	【2年】まどをあけたら	工	4	
		上	さわりごちはっけん	鑑	2	下	草花のおしゃべり	鑑	2	

4 図画工作科における児童の実態

図画工作科の研究を進めるにあたり、令和6年度6月に、図画工作科における児童の実態を知るため、全校児童を対象としたアンケートを実施した。

アンケートの結果から、本校では図工が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童は86%であった。「楽しい」「絵をかいたり何かをつくったりすることが好き」などと、大半の児童が図工の学習に対して肯定的である。一方で、「どちらかといえば嫌い」または「嫌い」と答えた児童は、絵や工作に対して苦手意識があることがわかった。特に高学年の児童は、否定的な回答が他の学年より多かった。思い通りにかいたりつくったりしたいという思いが強いがゆえに、イメージ通りに仕上がらないことから苦手意識が出てくると考えられる。



2. 図工の中で何が好きですか。(複数回答可)

①絵をかくこと	27	64.3%
②工作すること	31	73.8%
③粘土などで形をつくること（楽焼きなど）	28	66.7%
④いろいろな材料を使って、飾ったり 並べたりして遊ぶ	25	59.5%
⑤自分や友達の作品をみて楽しむこと	25	59.5%
⑥みんなで一緒に一つのものをつくること	28	66.7%
⑦好きなことがない	3	7.1%

(人)

図工の学習の中では、どの領域も半数以上の児童が好きであることがわかる。絵や工作など、自分の表現したいことを考え、それを表すために「つくり、つくりかえ、つくる」を実行している様子が、授業から伺える。しかし、回答の選択数には個人差があった。ほとんど全ての項目を選んでいる児童がいる一方で、1つの項目しか選んでいない児童もいた。高学年になるにつれて、得意・苦手を自覚するようになり、これにより、数名の児童は、1の問いに対して「どちらかといえば嫌い」とであると答えたのではないかと考えられる。

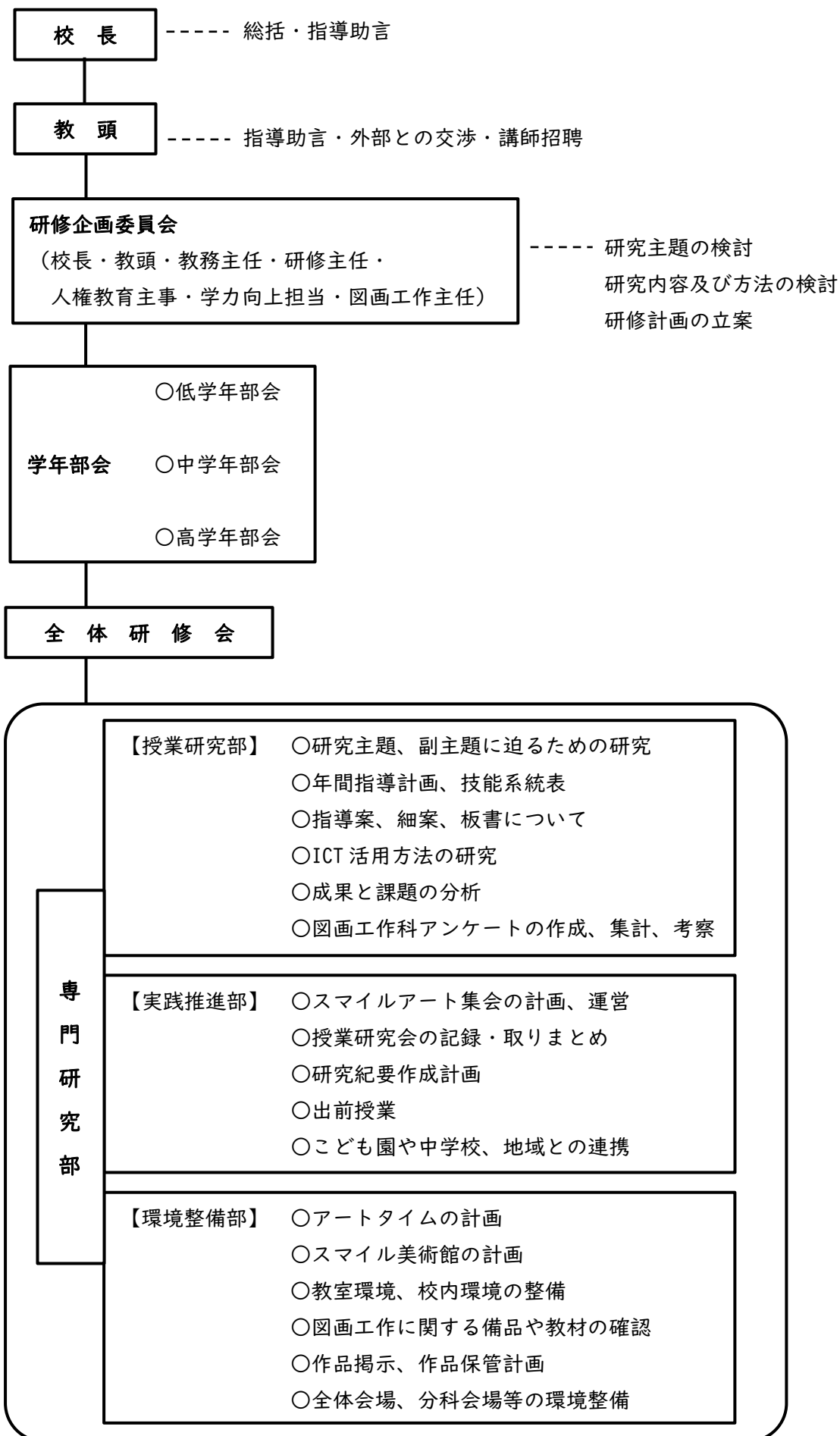
各領域への苦手意識については、約42%の児童が「ない」と回答した一方で、約38%の児童が「絵をかくこと」と答えた。かき方やつくり方といった「知識及び技能」の面や、自分の表現したいものを思い浮かべるといった「思考力、判断力、表現力等」の面で困り感があり、図工の学習をしていく中で身に付けたいと7割近くの児童が望んでいる。また、約6割の児童は、自分や

友達の作品を見てよいところを見つけられるようになりたいと感じている。鑑賞をする際には、どんな視点で作品を見るのか、どんな言葉で表現すればよいのかがわからず、活動が止まってしまっている児童がいた。また、「すごい」「いいと思った」など、短い言葉で書き表す児童も多く、語彙の少なさも課題となっていることが浮き彫りとなった。

以上のことから、児童が図工の学習を楽しんだり、好きになったりできるようにするためには、自分の思いをどのように表現するかを発想・構想する能力、そのイメージを作品にするために材料や用具を選択し、表し方を工夫する知識及び技能をバランスよく育成することが重要であると考え。また、感じたことや思ったことを言葉で表現するなどの言語活動の充実も、つくりだす喜びを味わうための大きな手立ての一つと考える。さらに、表現と鑑賞の一体化を実践していくことで、造形的な資質・能力が高まり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度の育成に繋がっていくと考える。

そこで、本校では、県の研究主題「豊かにかかわり つながり 『わたし』が広がる造形活動」を受け、（１）育成する造形的な資質・能力を明確にした指導計画の工夫、（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、（３）指導と評価の一体化の３点を研究の柱とすることとした。

5 研究組織



6 研究のあゆみ

【R6年度】

- 4月25日 徳島市・名東郡小教研図画工作部会
「研究主題、年間研修計画、研究計画について」
- 5月30日 校内研修「徳島県小教研図画工作部会研究主題説明等」
講師：大塚 芽依 先生（知恵島小）、藤本 賢春 先生（新町小）
- 6月 4日 絵画教室「季節の木を描こう」（全校）
講師：富本 七絵 先生（よんでん文化振興財団アーティスト派遣事業）
- 6月19日 第1回スマイルアート集会
「ペットボトルキャップアートをつくろう ～ふるさと不動 たなばた祭りにおけて～」
- 6月25日 研究授業（5・6年）「思いを伝える人権ポスター」
〈絵に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
授業者：野村 敏之 教諭、安原 千絵 教諭
- 6月27日 研究授業（1・2年）「ぺったん コロコロ」
〈造形遊び A表現(1)ア(2)ア、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
講師：森 裕二郎 先生（総合教育センター指導主事）
授業者：三浦 美穂子 教諭、高松 馨太 教諭
- 7月25日 校内研修「統一大会に向けての各研究部の取組及び授業実践説明・年間計画見直し等」
- 8月 1日 校内研修「徳島市・名東郡小教研図画工作部会研究授業内容検討（5・6年）」
- 8月 7日 徳島市・名東郡小教研図画工作部会夏季研修会
「子供の創造性を育む図画工作における具体的指導について」
講師：山田 芳明 先生（鳴門教育大学）
- 8月22日 校内研修「徳島市・名東郡小教研図画工作部会研究授業指導案検討（5・6年）」
- 8月29日 校内研修「統一大会に向けての各研究部での取組計画及び実践」
- 9月19日 研究授業（1・2年）「のりのり おはながみで」
〈工作に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
授業者：高松 馨太 教諭、三浦 美穂子 教諭
- 11月13日 研究授業（3・4年）「まぼろしの花」
〈絵に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
授業者：小原 樹 教諭、徳永 裕一 教諭
- 11月21日 徳島市・名東郡小教研図画工作部会研究授業（5・6年）
「光を変化させると・・・～自分だけのかがやきオブジェ～」
〈工作に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
講師：川真田 心 先生（附属小）
授業者：安原 千絵 教諭、野村 敏之 教諭
- 11月22日 第33回四国造形教育研究大会高知大会参加（1名）
- 11月26日 四国造形高知大会研修報告
- 12月 6日 第2回スマイルアート集会
「手形アートをつくろう」

- 12月18日 第1回スマイル鑑賞会
 2月 6日 校内研修「学習に関するアンケート（図画工作）の結果考察」
 2月 7日 研究授業（特別支援学級・自立活動）
 「きせつのせいさく～卒業式・入学式のけいじぶつを作ろう～」
 授業者：吉田 紘子 教諭、田中 由佳理 教諭

【R7年度】

- 4月17日 校内研修「統一大会に向けての取組及び共通理解について」
 4月24日 徳島市・名東郡小教研図画工作部会
 「研究主題、年間研修計画、研究計画について」
 5月17日 不動さつき祭り「フラワーボードをつくろう」
 5月22日 校内研修「研究授業指導案検討会（中学年）」
 5月26日 校内研修「研究授業指導案検討会（高学年）」
 6月 2日 校内研修「研究授業指導案検討会（低学年）」
 6月 4日 第65回徳島県図画工作教育研究大会事前打合せ会（附属小）
 6月12日 研究授業（3・4年）「ぬのでえがくと」
 〈絵に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
 講師：大塚 芽依 先生（知恵島小）
 授業者：小原 樹 教諭、徳永 裕一 教諭
 6月16日 研究授業（5・6年）「ようこそ！だんボール島」
 〈立体に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
 講師：古林 賢一 先生（高志小）
 授業者：宮本 拓海 教諭、吉田 紘子 教諭
 6月19日 徳島市・名東郡小教研図画工作部会研究授業 参加（北井上小）
 6月27日 研究授業（1・2年）「つくって わくわく カラフル いろみず」
 〈造形遊び A表現(1)ア(2)ア、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア(1)イ〉
 講師：山田 芳明 先生（鳴門教育大学）
 授業者：安原 千絵 教諭、三浦 美穂子 教諭
 7月15日 校外学習（3・4年）「作品鑑賞」（徳島県立近代美術館）
 7月24日 校内研修「統一大会に向けた指導案検討及び環境整備」
 7月29日 校内研修「統一大会指導案検討会（中学年）」
 7月30日 校内研修「統一大会指導案検討会（高学年）」
 7月31日 校内研修「統一大会指導案検討会（低学年）」
 8月 6日 第65回徳島県図画工作教育研究大会第1回県事前研究会
 講師：山田 芳明 先生（鳴門教育大学）
 古林 賢一 先生（高志小）
 大塚 芽依 先生（知恵島小）
 参加者：会長、副会長、提案発表者、事務局
 8月21日 校内研修「校内掲示物作成について」
 8月28日 校内研修「図画工作準備室、多目的室の環境整備と校内掲示」

- 9月 4日 校内研修「統一大会に向けた校内掲示の試作・準備等」
- 9月 9日 校内研修「低学年教材研究」
- 9月11日 研究授業（1・2年）「やぶいたかたちから うまれたよ」
 〈絵に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア(1)イ〉
 授業者：三浦 美穂子 教諭 、 安原 千絵 教諭
- 9月19日 研究授業（5・6年）「消してかく」
 〈絵に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア(1)イ〉
 授業者：吉田 紘子 教諭 、 宮本 拓海 教諭
- 9月24日 第3回スマイルアート集会
 「みんなでつくろう『しゃぼん玉の絵』」
- 9月25日 研究授業（3・4年）「空きようきの へんしん」
 〈工作に表す A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア(1)イ〉
 授業者：徳永 裕一 教諭 、 小原 樹 教諭
- 9月30日 第2回スマイル鑑賞会
 校内研修「高学年教材研究」
- 10月16日 校内研修「統一大会での本校の取組についてのプレゼン検討」
- 10月20日 第65回徳島県図画工作教育研究大会第2回県事前研究会
 講師：山田 芳明 先生（鳴門教育大学）
 古林 賢一 先生（高志小）
 大塚 芽依 先生（知恵島小）
 参加者：会長、副会長、提案発表者、事務局
- 11月21日 第65回徳島県図画工作教育研究大会
 講師：山田 芳明 先生（鳴門教育大学）
 古林 賢一 先生（高志小）
 大塚 芽依 先生（知恵島小）

Ⅲ 研究の実際



Ⅰ 授業実践

(Ⅰ) 令和6年度の実践

第1・2学年 図画工作科学習指導案

令和6年6月27日(木)5校時

1年6名 2年7名

指導者 T1 三浦美穂子

T2 高松 馨太

授業場 体育館

- 1 題材名 ペったん コロコロ
「造形遊び A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、体全体を使って身近材やローラーなどのいろいろな材料を写す活動を通して、自分の感覚や気持ちを生かしながら形や色を生み出す楽しさを味わい、積極的に試したり工夫したりして表すことをねらいとしている。また、自分や友達が写した表現を見合って、形や色の造形的な面白さや楽しさを感じ取り、伝え合うことで、新たな意味や価値を見出す力を育てることができる考える。本題材は、自分の使いたい用具や材料を選び、版遊びをする中で、手や体全体を使って自分の思いのままに形を生み出していく活動であるため、どの児童でも取り組みやすい内容であると言える。また、大きな紙を用意することで、失敗を気にせず何度も試すことができ、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を繰り返す中で、自分の気に入ったものや新しい良さや価値を見付けることができる題材であると考えた。

1・2年生の児童は、こども園の頃から共に活動することも多く、皆顔見知りで1年生が入学してから、一緒に学習することをお互いとても楽しみにしていた。絵を描くことが好きな児童もあり、図画工作の時間を楽しみにしている児童が多い。1学期に行った工作に表す題材「つるしてゆらゆら」では、紙コップや紙皿を切って連ねてひもでつるし、揺れると楽しい飾りを考えた。廊下の天井からつるした作品が風に吹かれて揺れる様子を見上げ、友達の表現の面白さを感じることができた。また、「しんぶんしとなかよし」の造形遊びでは、新聞を破る、丸める、折る、巻くなど様々に加工したり、かぶる、敷く、覆う、身にまとうなど自分が思い付いた「やってみたいこと」を体全体で楽しみながら表現したりする姿が見られた。「えのぐじま」では、共用の絵の具を使い、島の形や色などを想像して、腕を動かしたときの筆の感触や色使いを楽しみながら画用紙いっぱい好きな線や模様をかいて絵に表した。1・2年生の発達段階として、体全体を使って材料に働きかけることで、新しいことを思い付いたりイメージを膨らませたりすることが多い。そこで、児童の発達段階を踏まえ、ローラーを長く転がしたり、版を次々に押すことを試したりしながら、偶然できる形の面白さやつくりだす喜びを味わい、自分の見方や感じ方を広げることができるようにと考え、この題材を設定した。

指導に当たっては、様々な材料を試すことができるように、家庭にも呼びかけて写す材料を事前に見付けたり集めたりしておく。また、体全体を使ってのびのびと写す感覚や行為を楽しめるように体育館の床にロール紙を広げ、十分な活動場所を確保するなど場の設定を工夫する。複数人で共同で活動することで、友達とかかわり、交流しながら活動でき

るようにする。活動の支援として、第1次の導入で、集めた材料やローラーを写して試したものを写真に記録しておき、第2次の学習でいつでも見られるように掲示し、イメージに合わせた工夫ができるようにする。自分なりのイメージを膨らませ、新しい形をつくりだしている児童には共感的な声かけをしたり、他の児童にも紹介したりして形や色への気付きや新たな価値付けをし、表現と鑑賞が一体的にできるようにする。一方で、「写す」という行為だけに没頭したり、単なる色遊びに展開してしまったりしている児童には、めあてを確認するなどして、いろいろな形を「見付ける」「つくりだす」ことを大切にするように促す。活動が進まない児童には、友達の写し方を見せたり、教師と一緒に材料を選んで試したりして、自分の思いが表現できるよう支援していきたい。第3次では、自分や友達の表し方のよさや面白さを感じたり、交流したりしながら、形や色、表し方の工夫などの見方や感じ方を広げることで、新たな表現活動へと向かう意欲へとつなげていきたい。

3 題材の目標

(1) ・材料に絵の具を付けて形を写すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付く。

・スタンプの材料、共用の絵の具やローラーなどに十分慣れるとともに、写してできる形や色を並べたりつないだり重ねたりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる。

(知識及び技能)

(2) ・写してできる形や色などを基に、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。

・写してできる形や色などの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) ・楽しく体全体を使っていろいろな材料の形を写す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料に絵の具を付けて形を写すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。 ・スタンプの材料、共用の絵の具やローラーなどに十分に慣れるとともに、写してできる形や色を並べたりつないだり重ねたりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくっている。	・いろいろな形や色などを基に自分のイメージをもちながら、写してできる形や色などを基に、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・いろいろな形や色などを基に自分のイメージをもちながら、写してできる形や色などの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい、楽しく体全体を使って、いろいろな材料の形を写す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全3時間 本時2／3）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・版に写す方法を知り、ローラーの種類や扱い方に慣れる。 ・身近な材料から写してできる形の面白さに気付いたり考えたりして、版に試す。	技 ○ 知 ○	・ローラーの動かし方や版に写す様子を観察し、指導に活かす。 (観察・対話) ・身近材の中から、スタンプにできそうなものを見つけて試している様子を観察し、問いかけ、記録に残す。 (観察・対話・撮影)
2	・ローラーや身近な材料などを使い、思い付いたことを試し、いろいろな形や色を見付け、新しい形を生み出すことを楽しむ。	思 ◎ (発想や構想) 技 ◎	・いろいろと試しながら表す様子を観察したり、どのようなイメージをもっているか対話したりして把握し、記録に残す。 (観察・対話・撮影・つくったもの) ・ローラーやスタンプなどを適切に扱うとともに、写してできる形や色を並べたりつないだり重ねたりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくっている様子を捉え、記録に残す。 (観察・対話・撮影・つくったもの)
3	・自分たちが写した形や色の面白さや楽しさについて感想や考えを伝え合う。	思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	・自分や友達の表現物を見て、よさや面白さ、表し方の工夫などについて感じ取り、伝えている様子を観察する。 ・タブレット端末を使って、学習状況を把握し、記録に残す。 (観察・対話・発言・タブレット端末) ・体全体を使ってつくりだす喜びを味わい、思い付いたことを工夫してつくる学習活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して把握し、記録に残す。 (観察・対話・撮影・つくったもの)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に活かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時

(1) 目標

材料や用具に絵の具を付けて形を写すときの感覚や行為を通して、自分のイメージをもち、いろいろな形や色から造形的な活動を思い付いてつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	・指導上の留意事項 ○評価【観点】（評価方法）
5 分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてを確認する。	・前時の学習を振り返り、本時の活動の見通しをもたせる。
	たのしいかたちを	みつけたり つくったりしよう。
30 分	2 材料や用具を選び、いろいろと写す活動を試し、表したいことを思い付き、造形活動を行う。	・ロール紙を準備し、十分な活動場所を確保するとともに、4人グループで活動することを伝える。 ・写す行為を試しながら、自分の思いを表現している児童を承認したり、賞賛したりすることで、形や色への気付きや、新たな意味や価値に気付くことができるようにする。 ・友達の活動を紹介したり、自由に見て回ってもよいことを伝えたりして、活動が停滞している児童への発想・構想のヒントとなり、試してみたい活動を思い付くことができるようにする。 ・デジカメやタブレット端末を活用し、児童の気に入った表現物を教師と一緒に撮影し、鑑賞等に役立たせることができるようにする。 ○手や体全体を働かせ、自分のイメージをもちながらどのように表すか考えている。 【思考・判断・表現(発想や構想)】(観察・対話) ○写してできる形や色を並べたりつないだり重ねたりして、活動を工夫してつくっている。 【技能】(観察・対話・撮影・つくったもの)
10 分	3 本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。	・自分の活動を振り返ったり、友達と交流したりする場面を設定し、工夫したことや感想などを伝え合う。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・絵の具を付けて写す行為を試す中で、自分のイメージを膨らませ、次々に造形活動を思い付き、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・活動のめあてを振り返るとともに、教師と一緒に友達の写し方を観察したり、材料を選んで試したりしながら、自分のイメージを膨らませ、活動を思い付きやすくする。

第1・2学年 「ぺったん ころころ」授業記録

教師のはたらきかけ	児童の反応
I 前時の学習を振り返る。 ○今日は「ぺったんコロコロ」2回目ですね。 この前したこと覚えていますか？ ○ローラーとか、家から持ってきた箱って、こんな模様が出るって確かめましたね。 ○この前は、こんな小さい紙にしましたね。 今日は何で体育館？先生方、お願いします。 (ロール紙を出す) ○今日は、こんな大きな紙に好きなだけぺったんしていきます。	 ○うわあ。 ○いえーい。
たのしい かたちを みつけたり つくったりしよう。	
○どんな風にぺったんコロコロしたら楽しい形や、おもしろい形になるのかな。 ○どんな風にぺったんしたらいい？ どれもおもしろいね。 (前時の児童の作品例を示しながら) ○いろんな色を使うと、おもしろいかもしれないね。	○思いっきり。 ○ななめとか、ジグザグとか。 ○ぐるぐる。 ○形と形を合体。
	
○おもしろいコロコロの形。今日は紙が大きいから、どんなことができるかな。	○うねうね。ななめに。 ○円を作る。その中にまた円を作る。 ○重ねる。 ○星形にする。

教 師 の 発 問	児 童 の 反 応
○向きを考えてもいいね。 ○種類を変えてもおもしろいかもしれませんね。いろいろ試してみてください。 ○約束の確認 ・歩いて移動。道具は両手で持つ。 ・手が汚れたら、バケツの水で洗う。 ・使い終わった道具は戻す。 ・作品をまたがない。 ○失敗を恐れずに、どんどんやっていきましょう。失敗は大歓迎です。何度もチャレンジしよう。 ○友達の工夫を見に行ってもいいです。	 
2 グループに分かれて活動する。  ○手を洗ったら、最初のところに集まりました。	 ○(初めはローラーやスタンプ材などを使って試していた児童も、次第に直接手型を押し始めた。)

教 師 の 発 問	児 童 の 反 応
3 活動を振り返る。 ○ぜひ私の見てほしい、という人？ ○何でメロン作ってる？楽しい形はどれ？  ○どんな楽しい形ができた。 ○何をイメージしてる？ ○これは何をつかってできたの？ ○・・・さんらしいのができたね。 ○いろんな向きに試していたね。 ○色にこだわってローラーしていたね。 ○今日はどうだった？ ○手が楽しんだ証拠だね。 ○今日紹介できていない人もいるので、明日もっといい所を見つけたり、自分のお気に入りなところを見つけたりしましょう。	(たくさん手を挙げる) ○メロンにした。 ○段ボールと、あみ。 ○ここらへんの。手で描いた。  ○恐竜とスイミー ○ローラーで。これは手でした。  ○楽しかった。 ○気に入ったのができた。

I 課題点

- (1) 場の設定・用具の準備について
- (2) 効果的な導入の方法について
- (3) 指導と評価の一体化について

2 解決の一方策

<課題点(1)について>

- (1) 今回はロール紙をコの字型に3枚広げて、中央に用具置き場を配置したが、中央寄りの片方の辺から活動することが多かった。用具置き場から放射線状に置いたり、用具をいろんな場所に配置したりすることによって児童がロール紙のいろいろな方向から活動できるような工夫があればよかった。ブルーシートを敷いて、裸足で活動する方法も考えられる。
- (2) 絵の具の粘度がさらさらで、インクが紙にしっかりと付いていないところがあったので、もう少し濃い絵の具を用意した方がよかった。版に表す題材のときは、スタンプやローラーなどの用具と絵の具などの材料との相性を事前に確かめておくといよい。
- (3) 人数のわりに大きい用紙が用意されていたためか、児童が友達の作品と重なってはいけな
いと思い、自分のかくスペースを決めてしまっていた。そのため、左右に広がることが少なく、友
達と協働して活動する場面が少なくなってしまう。友達と一緒に活動している場面を見付
けたときに教師が紹介することで、他の児童へと広げていくことができるのではないか。
- (4) 広い場所で活動したり大きな用紙で思い切ってかいたりする経験が少ないと、活動の幅が広が
ることは難しい。多様な大きさや素材の材料などを扱って、経験を増やしていくといよい。

<課題点(2)について>

- (1) 絵の具を使った他の題材では、教師が試しに見せた模様が皆がまねすることがあったので、今
回はあえて絵の具を付けずにローラーを転がすだけをして見せた。結果、イメージが湧きにくく、
活動が小さくなってしまい、広がりや大胆さが見られなくなってしまった。
- (2) 教師が実際に大きなロール紙に遠慮なくのびのびと大きくかく様子を見せれば、児童ももっと
思い切って活動できたのではないか。児童が自分のかくスペースと思った場所から活動が広がら
なかったのも、場所を大きく使ってよいことを導入の時に見せたり確認したりしておくことで、
活動の広がりや、子どもどうしの対話の広がりも見られたかもしれない。
- (3) 低学年から中学年は、教師がやってみせることで活動に入りやすくなるものもある。また、最
初に全員で端から端までローラーで走ってみようなどという活動を取り入れてみるという方法
もある。

<課題点(3)について>

- (1) 指導と評価の一体化は、難しかった。T1とT2が役割分担しながら授業を進めていくとよいと思う。本校独自の「声かけ例」を参考にしながら、児童の意欲が湧くような言葉をかけていくよう配慮した。今回は活動が滞っているような児童は見られなかったが、めあてからずれた活動になりそうな児童には、めあてや学習内容を確認するよう心がけた。声をかけるタイミングや回数についても今後検討が必要である。
- (2) 「黄色が入ってあざやかになっていたのがよかったね。」「色のことが意識できたね。」という具体的な言葉がけて、本人もまわりの児童も表し方のよさや面白さに気付くことができるようにする。具体的に評価し、それが次の活動に生きてくると、評価が指導になる。
- (3) 材料集めも評価の一つ。たくさん持ってくる児童は意欲がある。集めたり選んだりしている最中に、「これを使って〇〇をつくるんよ。」と考えている児童も評価できる。
- (4) 造形遊びはもともと自分の中にテーマがなくてよい。立体や工作はテーマに沿って活動するが、造形遊びはイメージがなくてもいいし、途中でかわってもよい。いろいろと試している児童が何かを思い付いて活動が発展すれば評価できるところになる。最後の作品だけで評価してしまわないようにする。

3 今後の課題

- (1) 言語活動の充実については、指導要領にもあるので意識したい。今回は、導入や振り返りで言語活動が充実していた。教師が児童の発言から広げていったり、板書に書いたりすると図工的な語彙が増える。それを重ねていくようにする。
- (2) 図工でいちばん大切なのは、色や形をどれだけ意識できるかということ。造形遊びは、「楽しかった」だけで、後は何も残らないというのでは困る。そうならないためにも、授業の中で色や形をしっかり意識させる活動をつくる。
- (3) ICTの活用については、今回のような版遊びをする造形遊びの場合は、活動の合間で児童が端末を使うことは難しいので、教師が写真を撮ればよい。そうでない場合は、授業の最後で1枚写真を撮っておくだけで自分の記録になる。経験を重ねていくと、写真を撮っておすすめのポイントに印をつけてコメントを書くということも簡単にできるようになるので、今後も活用していく。

第5・6学年 図画工作科学学習指導案

令和6年11月21日(木)5校時

5年7名 6年7名

指導者 T1 安原 千絵

T2 野村 敏之

授業場 体育館

- 1 題材名 光を変化させると・・・～自分だけのかがやきオブジェ～
「工作に表す A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア [共通事項](1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、目的や用途を意識しながら、LED ライトの光を、紙類や不織布などの身近にあるものと組み合わせて変化させ、自分の表したい表現を追求する題材である。LED ライトは、紙や不織布などと組み合わせることで、光の見え方や広がり方が変わる。さらに、材料の組み合わせ方や光を当てる角度を変えることで世界に一つしかない自分だけの光の効果をつくりだすことができるのである。そして、何度もつくりかえる活動を繰り返す中で、自分の気に入った光があることに気付いたり、友達の活動や作品を見て、造形的なよさや美しさを感じ取り、新たな価値を発見したりすることができると思った。

5・6年生の児童は、図画工作科の学習が好きで、意欲的に取り組んでいる児童が多い。自分の思いが作品に表れるように工夫しながら表現している姿も見られる。1学期に行った絵に表す題材「私のお気に入りの場所」では、各々が自分のお気に入りの場所を校内で見付け、その場所への自分の思いを絵に込めた。「わくわく」「癒し」などの思いを、色の鮮やかさや筆遣いを工夫することで表すことができた。また、工作に表す題材「木と金属でチャレンジ」では、流木や木材と針金を中心に、自分のつくりたいもの考えた。針金の特徴を生かし、ねじったり巻き付けたり穴に差し込んだりと試しながら世界に一つだけのオブジェをつくった。身近にある材料で自分のつくりたいものを自由に表現できる楽しさを感じている児童もいた。工作が好きな児童が多いため、この題材では児童が生き生きしながら活動している様子が多く見られた。そこで今回は、紙類や不織布などの身近にあるものとLED ライトを組み合わせる題材を選んだ。普段明かりとして使っている光について、見え方や広がり方に着目しながら自分の思いやつくりたいものを表現する活動を通して、造形的な資質・能力を高めたいと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、さまざまな色や種類の紙類や不織布を用意しておき、児童が光の効果を感じる存分試すことができるようにする。材料を変えることで光の見え方や広がり方も変わることを、活動を通して児童に気付かせたい。第1次では、光の効果を感じる存分に試す活動を行う。活動場所を暗室となる体育館にし、光の透過や広がり方などを感じ取りやすくする。さらに、「こんなことをしたい」「こうしてみたらどうなるかな」などという児童の発想が広がるように、友達の活動を見たり、友達と関わったりしながら活動を展開していく。材料を重ねたり加工したりして光を変化させている児童を紹介することで、試す幅を広げることができるようにする。そして、目的や用途を意識しながら、児童自身が、思い付いたり、考えたりしたことをアイデアスケッチに表して、想像したり計画を立てたりする。第2次では自分の表したい光の世界をオブジェとしてつ

くっていく。光を通しやすく、加工もしやすい紙類や不織布を主材料とし、LED ライトとの組み合わせ方を考えながらつくる。活動の支援として、前時での活動の様子を撮影し、写真を掲示しておくことで、イメージを広げたり、イメージに合った工夫をしたりできるようにする。また、自分の作品がどのように見えるのかを確かめ、つくりかえたり工夫したりすることができるように、暗転タイムを設ける。その際には、自分の作品だけでなく、友達の作品も見ること、アイデアを共有することができるようにする。さらに、確かめながら表したいことを考えられるようにするために、その場で暗くする暗転ボックスを用意する。第3次では、完成した作品をお互いに紹介し合う。作品のよさを認め合うことで、自分の思いを表現する楽しさを味わい、自信につなげることができるのではないかと考える。

本題材を通して、身近にある材料で新しいものを生み出すことができることに気づき、つくりだす喜びを味わうことで、豊かな生活を創造していこうとする態度を養いたい。

3 題材の目標

- (1)・LED ライトと紙類や不織布などのさまざまな材料を組み合わせながら光の効果を試す感覚や行為を通して、動きやバランス、色の鮮やかさを理解するとともに、LED ライトや材料特徴を生かしながら、その組み合わせ方や表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。

(知識及び技能)

- (2)・LED ライトと紙類や不織布などの身近な材料と組み合わせることができる光の効果を基に、自分のイメージをもちながら、どのように表すか考える。

- ・自分や友達の作品や生活の中の造形の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3)・友達と関わりながら主体的に光の効果を試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・LED ライトと紙類や不織布などのさまざまな材料の組み合わせながら光の効果を試す感覚や行為を通して、色の鮮やかさを理解するとともに、LED ライトや材料の特徴を生かしながら、その組み合わせ方や表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。	・LED ライトと紙類や不織布などの身近な材料と組み合わせることができる光の効果を基に、自分のイメージをもちながら、どのように表すか考えている。 ・自分や友達の作品や生活の中の造形の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	・つくりだす喜びを味わい、さまざまな材料と組み合わせる光の効果を生かしてつくる学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全6時間 本時3/6）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・身近な材料と光が生み出す光の効果に気付いたり、考えたりしながら試す。	知 ◎	・身近な材料との組み合わせや光の当て方をさまざまに試している様子を観察し、記録に残す。 （観察・対話・撮影・タブレット）
2	・友達の活動も参考にしながら、さまざまな光の効果を見付け、自分の表したい世界を思い付く。	思 ◎ （発想や構想）	・友達と対話をしながら、自分がつくりたい世界のイメージをもつことができているか観察し、問いかけ、記録に残す。 （観察・対話・撮影・アイデアスケッチ）
3 、 5	・表したいものに合わせて材料を選び、その特徴を生かしたり組み合わせたりしながら、光の色や広がり方などを工夫して表したいものをつくる。	思 ◎ （発想や構想） 技 ◎	・どうしてその材料を選んだのか、どのようなイメージをもって活動しているのか等を対話し、記録に残す。 （観察・対話・撮影・作品・タブレット） ・光を当てた時の色の鮮やかさや広がり方を考えながらつくっている様子を観察し、記録に残す。 （観察・対話・撮影・作品・タブレット）
6	・お互いの作品を鑑賞し合い、表し方の工夫を見付けたり、作品のよさを味わったりする。	思 ◎ （鑑賞） 態 ◎	・自分や友達の作品について、表現のよさや工夫を感じ取り、伝え合っている様子を観察する。 （観察・発言） ・児童の考えや感想をタブレット端末で記録に残す。 （観察・発言・作品・タブレット） ・身近にあるものから新たなものをつくりだす喜びを味わい、工夫してつくる活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 （観察・対話・撮影・作品）

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

光の効果をもとに、どうすれば自分のイメージに沿うのかを考え、材料の組み合わせ方を試しながらつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
8 分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてを確認する。	・ 前時までの活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつことができるようにする。
	自分のイメージに合う材料と光を組み合わせ、自分だけのかがやきオブジェをつくろう。	
32 分	2 自分のイメージに沿って、材料と LED ライトを工夫して組み合わせる。	・ それぞれの材料の特徴やよさを生かしながら自分のイメージに近づくような表現を考えるように声をかける。 ・ 活動の最後に暗転タイムを設け、自分の作品の光を確認できるようにする。この際、友達の作品も見に行き、今後の参考にすることができるようにする。 ○LED ライトと紙類や不織布などの身近な材料と組み合わせでできる光の効果を基に、自分のイメージをもちながら、どのように表すかを考えている。 【思考・判断・表現（発想や構想）】（観察・対話）
10 分	3 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。	・ タブレット端末を用いて、思い付いたことや、感じたり考えたりしたこと、つくりかえたところを写真とともに記録しておくことで、次時の活動への見通しをもつことができるようにする。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・ 目的や用途を考えながら、自分のイメージに沿った作品になるように、いろいろな材料を使って光の効果を試行錯誤しながら、どのように表すか積極的に考え、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 前時までに撮影した写真を見せながら、それぞれの材料と組み合わせた時の光の効果を確認、自分のイメージに近いもので試してみるように声をかける。 ・ 暗転タイムの際に、友達の作品からヒントになるような組み合わせを見付けるように声をかける。 ・ 暗転ボックスで、光の効果をいつでも何度も試すことができるように声をかける。

第5・6学年 「光を変化させると・・・自分だけのかがやきオブジェ～」授業記録

教師のはたらきかけ	児童の反応
1 めあての確認 ○今日はいよいよ、オブジェを本格的に作ります。それを形にしましょう。 ○どんな材料で、どんなことをしますか。 ○色を試したい。どんな色。 ○どこに当てたい。 ○昨日イメージがあったね。自分が考えているように作りたいね。 2 自分のイメージに合う材料と光を組み合わせ自分だけのかがやきオブジェをつくる (机ごとに作品づくり) ○どこから光を当てるの？ ○どこにライトを置くといいかな。 ○光らせてみて。 ○イメージに近いですか。 ○色は変えたい。全部（の面）の大きさが同じではないんだね。 ○もっと火っぽくするにはどうすればいいかな。 ○すてきな形になってきたね。 ○（塔のように組み合わせた作品について）立てられそうですか。 ○もう少し安定させるには、どうしたらいいかな。 ○カラーセロファンとかもあるよ。 ○ベッドの下に置くんだね。どうしたらリラッ	○カラーセロハンと不織布を重ねる。 ○白と赤でピンクを作る。 ○光の当たる場所を調整したい。 ○紙のここ。（手で示しながら） ○いろいろなものをのりでつけたい。 ○画用紙と不織布をあわせる。 ○（トレーシングペーパーと不織布を合わせて光らせる） ○少し近いと思う。 ○（竹3本をテントのように立てた作品の側面にカラーセロハンを貼っている） ○ここを青色にする。 ○（竹3本を塔のように立てた作品に何を貼るか考えている）

クスできる光になるかな。

○暗転ボックスに入れてみよう。

○みんなの作品を見てみるといいよ。

○・・・さんの見てごらん。二重にしているね。

○中にふわっと入れるのもいいね。



3 暗転タイム（室内を暗くする）

○全員ライトで光らせておきましょう。

消してください。



○（全員の作品が机の上で光っている）

○すごくいい。（友達の作品を見て）

○まだ端が付けられてないよ。

○あまりできなかった。

○火があまり映ってない。

○火を光らせたかったけど、光が届いていなかった。次は火が光るようにしたい。

○画用紙だけだと（イメージと）違ったけど、セロファンをのせるとイメージに近づいた。

○いろいろな色に光らせたい。

○写真が撮れたら、友達の作品を見に行ってみよう。

○イメージに近づけましたか。

○他の人はどうですか。

○イメージ通りに行きましたか。

○イメージ通りにできた人も上手いかなかった人も、ロイロノートに振り返りとして書き込んでおいてください。

4 振り返り

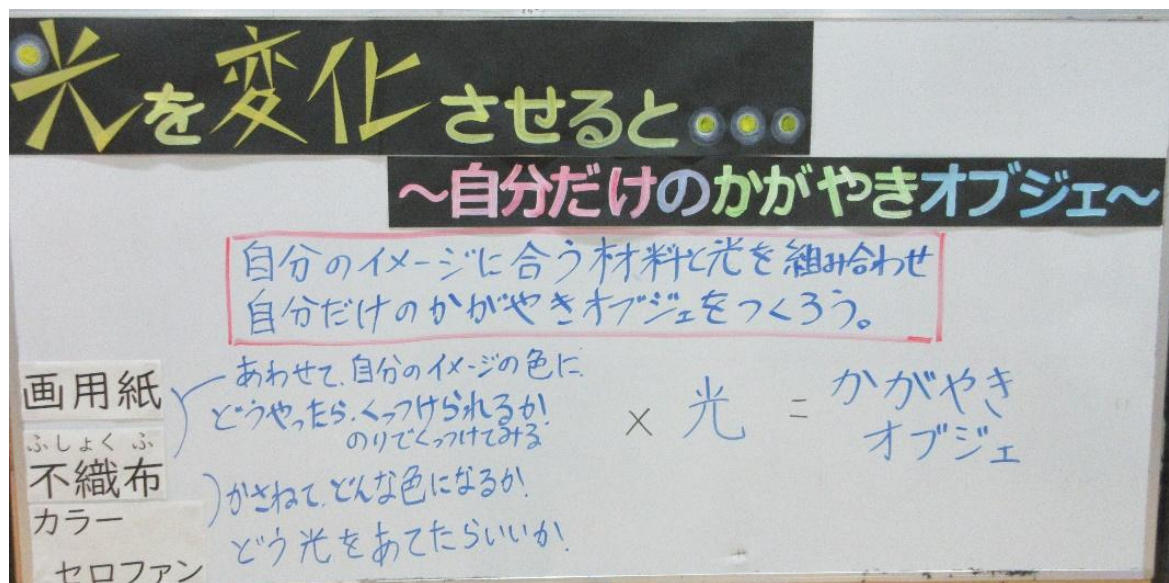
○ロイロノートを開きましょう。次どうしたい
か、書きましょう。

○次の時間は、振り返りを生かして作品を考えたいと思います。



○（振り返りをロイロノートに記録する）

板書等



I 課 題 点

- (1) 場の設定や材料について
- (2) 導入と振り返りの進め方について
- (3) 対話的で深い学びについて
- (4) ICTの活用について

2 解決の一方策

<課題点(1)について>

- (1) 光を変化させて表現する題材であったため、活動場所は教室や図工室よりも暗室にしやすい体育館で実施し「暗転タイム」という時間を設けた。また、段ボールで作った「暗転ボックス」を各班に用意し、いつでも試したり鑑賞したりできるようにしていた。真っ暗な空間や体育館というダイナミックな活動スペースという点では効果的であったが、グループ間の距離が離れしまい、他のグループの児童と関わる機会は少なかった。
- (2) 中央の机に材料や用具が豊富に準備されており、児童が発想したものを再現する手助けとなっていた。紙の種類や厚さのバリエーションをもう少し増やすと表現がより豊かになるだろう。また、体育館での実施だと子どもの材料に対する急なニーズに答えきれない場合があるので、多様な材料が常備されている図工室で実施するのも一つの方法である。
- (3) 今回、暗転ボックスに使用した大きな段ボールは町内にある段ボール工場から譲っていただいたものだったり、材料の竹は地域に自生するものを活用したりと地域素材も使われていた。今後も、地域とのつながりを意識した材料や題材の開発や、造形作品を生活や地域に返していく活動も進めていくとよい。

<課題点(2)について>

- (1) 単元前半の「試す活動」が十分できていたため、本時では各自が作りたいもののイメージをもっていた。本時の導入では、言葉での説明が多かったため、前時の活動でつくった児童の作品の写真を見せると、本時のめあてを考えると意見が出やすくなる。児童が少し緊張気味だったので、音楽を流したり体を動かしたりしてリラックスしてから活動に入るのもよい。
- (2) めあてに沿っていない児童には、めあてを確認したり、全員を一箇所に集めて参考になる作品を共有したりするとよい。振り返りでは、自分や友達の作品についてもっと気軽に伝えさせたかったという思いがある。暗転したままでみんなに作品が見えるようにしたが、可能であれば作品を一箇所に集めて近くで鑑賞すると感動も大きくなり、意見に深まりが出て次時へのさらなる意欲にもつながっただろう。
- (3) 表現と鑑賞が相互に関連する、今回ならば暗転ボックスを使っていつでも鑑賞できるという環境をつくることで子どもの資質能力が高まっていく。指導と評価の一体化については、具体的な子ど

もの姿を見て、教師の授業はどうだったかを見直していくことが大切である。

<課題点(3)について>

- (1) 研究主題「豊かにかかわり つながり 『わたし』が広がる造形活動」からも、ひと・もの・こととの対話的な活動は大切にしたい。前時の試す活動のときにはもっと友達と話したり、素材の組み合わせ方や暗転タイムでの活動で盛り上がったりしていたが、今回の授業では、児童一人一人がアイデアスケッチに込めた思いを形にすることに集中していたため、対話的な場面は少なかった。活動の途中で友達と作品を見合い、自分の作品に生かしたり、近くの友達と話することでその言葉がアドバイスやひらめきの助けになっていたりする様子も見られたことから、さらに対話が生まれるように教師が、悩んでいる児童を友達どうしてつなげるような声かけを増やしたり、材料を取りに行ったときに他の作品が見えるといった動線の工夫をしたりするとよい。

<課題点(4)について>

- (1) ロイロノートを使って学習の足跡や振り返りが残されているため、次の課題の見通しがもちやすくなっているのがよかった。タブレットを活用すると、学びの積み重ね（作品の途中経過）や友達との意見交換もタブレット上でできるという利点がある。
- (2) ロイロノートに記入した振り返りの内容を、次時の導入のときに確認すると前時とのつながりが明確となって効果的である。

3 今後の課題

- (1) 今回、児童が「自分だけのかがやきオブジェ」を主体的に表現しようとする姿は十分に見られ、多様な作品が生まれていた。それは、前時までの試す活動や豊富な材料の準備、暗転ボックスの活用などが効果的であったと考えられる。しかしその一方で、対話的で深い学びや多様な他者と協働しながらの学びの部分においては課題が見られた。これらは、場の設定や教師の働きかけ、鑑賞の時間のもち方によって解決に向かっていくのではないかという方策が研究会で挙げられた。今後は、この授業から学んだことを生かした実践をそれぞれの学校で実施し、その成果を持ち寄ることで、対話的で深い学びや多様な他者と協働しながらの学びがもたらす図画工作科の役割について考えていきたい。
- (2) 研究会の中で講師先生より、めあては児童と一緒に考えていったり、児童から出てきたものをめあてにしたりする方法もあることを教えていただいた。このようにすることで、より児童主体の授業になっていくだろう。自分だけでは考えもつかなかったアイデアがあちこちに溢れる授業であれば、自然と児童どうしの交流も増えていくのではないだろうか。

(2) 令和7年度の実践

第3・4学年 図画工作科学習指導案

令和7年6月12日(木) 5校時

3年6名 4年8名

指導者 T1 小原 樹

T2 徳永 裕一

授業場 図工室

1 題材名 めのでえがくと

「絵に表す A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、さまざまな布の形や色、模様、触った感じや、それらの組合せによって生まれる感じなどを味わい試しながら、自分のイメージに合った表し方を模索することをねらいとする。材料との出会いを大切に、布を見たり触ったりした感じから、それぞれ違った特徴を感じられるよう材料と触れる時間を十分にとりたい。布に触れて親しんだところで、布を用いて絵に表す活動の見通しがもてるようにする。次に、思いに合わせて布を加工してもよいことを伝え、切り裂く方法を知り、はさみを使って切ったり布を裂いたりしていく。布によっては、布の模様の一部や色面を表したいものに見立てて、作品に生かすこともできる。布を並べたり重ねたりすることを試しながら、自分が表したいことを見付け、絵に表していく。さらに、水彩絵の具を使って、かき加え、自分のイメージに合うようにかいていくことができるようにしたい。

3・4年生の児童は、図工の学習が好きと答える児童が多く、どの領域の題材でも楽しんで活動している。4月に行った「かいて見つけるわたしのすきなもの」では、自分の好きなものを思い浮かべながら、表したいことについて考え、表現することができた。「食べ物」「時間・天気」「場所」「匂い・音・触ったもの」の4つの観点を示し、それぞれ好きなものを出し合った。友達の意見を聞くことで自分の好きなものを思い浮かべ、かく意欲を高めていた。また、クレヨンやパスを使って、ティッシュペーパーや指でぼかして、自分の表したいことに近付けられるよう表し方を工夫している姿も見られた。5月に行った「絵のぐ+水+ふで=いい感じ!」では、絵の具と水を使って、水の量で色の濃淡の違いがあることや筆の感覚の違いを感じることができた。絵の具を混ぜて色が変わることを試し、色の組み合わせや重なりによる色の変化を楽しんでいる様子も見られた。そこで、児童が絵の具以外の材料でも、材料の形や色、模様を組み合わせで生まれる感じを味わい絵に表すことによって、自分の見方・感じ方が広げられるよう本題材を設定した。

指導に当たっては、児童が扱いやすいさまざまな大きさや色、手触りの布を十分に用意する。色の組合せが意識できるように、材料は色ごとに整理をして準備しておく。同じ色でも、模様や触った感じの違いに気付く、それらを組み合わせる楽しさを感じられるようにする。画材は段ボールを使用する。段ボールの上で、並べたり重ねたりして、布を少しずつ動かしながらイメージを広げることができるようにする。接着は、木工用接着剤と木工用接着剤を水で薄めたものを用意し、布を浸したり筆で伸ばしたりして、布を貼り合わせていく。さらに、自分の表したいことを、より豊かに表現できるように絵の具を使っ

て色をでかき加えていく。活動が滞っている児童に対しては、一緒に材料を選んだり、友達の作品を紹介したりして、イメージがもてるような支援や言葉がけを行いたい。表現活動の途中でも友達と交流しながら、それぞれのよさや面白さを感じ取り、表現と鑑賞の往還ができるような学習の場を設定したい。

3 題材の目標

(1)・布の形や色や模様、触った感じを味わい、試しながら表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かる。

- ・布や水彩絵の具を適切に扱うとともに、前学年まではさみや接着剤などについての経験を生かし、手や体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(知識及び技能)

(2)・布に触れて感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかを考える。

- ・布や自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力・判断力・表現力等)

(3)・進んで布の形や色や模様、触った感じを味わい、試しながら絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・布の形や色や模様、触った感じを味わい、試しながら表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 ・布や水彩絵の具を適切に扱うとともに、前学年まではさみや接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて、表し方を工夫している。	・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、布に触れて感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、布や自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい、進んで、布の形や色や模様、触った感じを味わい、試しながら絵に表す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全5時間 本時3／5）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・さまざまな布を見たり触ったりして、布の形や色などの感じを捉える。	知 ○	・材料を見たり触ったりして、形や色などの感じ、手触りなどについて、伝え合っている様子を観察する。 (観察・対話・タブレット)
2 3 4	・材料を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを考える。 ・表しながら考え、さらに材料を工夫して表現を深める。	思 ◎ (発想や構想) 技 ◎	・材料の形や色の感じから表したいことを思い付き、どのように表すのか考えている様子を記録に残す。 (観察・対話・作品) ・表したいことに合わせて、材料や用具の使い方を工夫して表している様子を記録に残す。 (観察・対話・作品)
5	・作品をじっくり見て題名を付ける。 ・自分や友人の作品を見合い、面白さや表し方の工夫を感じ取り、気付いたことや思ったことを話し合う。	思 ◎ (鑑賞) 知 ◎ 態 ◎	・自分や友人の作品を見ながら、面白さや表し方の工夫を感じ取っている様子を記録に残す。 (観察・発言・ワークシート) ・自分や友人の作品を見て、形や色の感じやそれらの組合せによる感じ、色の明るさなどについて感じ取っている様子を記録に残す。 (観察・ワークシート) ・布の形や色、模様、触った感じを味わい、組合せを何度も確かめ、試しながら絵に表す活動に取り組もうとしている様子を記録に残す。 (観察・対話・作品・ワークシート)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

自分のイメージに合わせて、布を並べたり、重ねたりしながら、工夫して絵に表す。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5 分	1 本時のめあてを確認する。	・ 前時の作品を提示し、色や形から感じるよさを見つけて活動の方向性を共有し、本時のめあてをつかみ、活動の見通しをもつことができるようにする。
	布を並べたり重ねたりして、自分のイメージしたことを工夫して絵に表そう。	
35 分	2 布を並べたり重ねたりして、自分の表したいことを考え、工夫して表す。	・ 自分の思いを表現している児童を承認したり、賞賛したりすることで、形や色への気付きや価値を自覚することができるようにする。 ・ 活動が止まっている児童に対しては、友達の活動を紹介したり、友達の作品を見ることを促したり、材料の選び方を演示したりして、自分なりのイメージがもてるように支援する。 ○材料の形や色の感じから表したいことを思い付き、どのように表すのかを考えている。 【思考】(観察・対話・作品)
5 分	3 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・ 友達と交流し、よさを伝え合う場面を設定することで、自分自身の活動に自分なりの意味付けや価値付けができるようにする。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・ 布を並べたり重ねたりする行為を試す中で、材料の形や色の感じから表したいことを思い付き、どのように表すのかを考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 児童とともに、友達の作品を鑑賞したり一緒に材料を選んだりして、イメージを膨らませながら活動することができるようにする。

第3・4学年 「ぬのでえがくと」授業記録

教師のはたらきかけ	児童の反応
Ⅰ めあての確認 ○写真を見ながら今までの振り返りをします。 自分のイメージはふくらんできましたか？ ○・・・さん、これはどんなことをしている様子なの？ ○これは模様ごとに集めているね。 ○これは何ができているの？ 上手に切っているね。 ○これは、何を描いてるの？ これからどんどんできていきそうだね。 ○布の素材を生かして作品をつくりましょう。 今日のイメージはできている？ ○今日のめあてを確認します。 「布を並べたり重ねたりして、自分のイメージしたことを工夫して絵に表そう。」 ○どんなことが工夫かな。 例えば、ここに黄色の布があります。 横にこの布を並べるとどんな感じがする？ ○並べる色を変えてみます。 ○どんな感じがする？ ○同じ黄色の布の横に違う色を並べると感じが違って、おもしろいね。 ○次はこれ。 ○確かに。白が雪っぽいね。 降らしてみよう。何色かな。 ○この上に白だけ置いても雪に見えないけど、 青の上に置くと・・・。 ○この布の上に、他の布を置くと・・・。	 ○サメと船とクジラをつくる。 ○サメと海。  ○あたたかい。あざやか。まぶしい。 ○くらい。つめたい。くすんだ。  ○氷みたい。かすれた感じ。 ○山があるような・・・。

○重ねる布によって感じが変わるね。

今日は並べたり重ねたりするのはできそうですか。

T2○布の切り方を確かめます。

布をしっかり持って、刃の奥の方で切ります。

はさみではなく、布を動かすと切りやすいです。

2 布を並べたり重ねたりして、自分のイメージしたことを工夫して絵に表す。

(机ごとに作品づくり)

T1○どんな形にするの？

○違う色や柄の布を選んできてもいいよ。

○柄のとおりに切ったんだね。

○こんな触り心地の布があったんだね。

○どんなイメージにするの。

○向きを変えたらどうだろう。

○布を伸ばしているのはどうして？

○布がどんどん重なってきたね。

T2 ○・・・さん、だいぶ進みましたね。違った色の布がきましたね。これは何？上手に切りましたね。

○すごくカラフルになりましたね。・・・さん、これはどんなイメージ？

○いっぱいはりつけましたね。水色系の布をいっぱい選んだんだね。

見に行きますか？

○ボンドで試してみる？(ボンド原液を用意)くっつきそうですか？べったりでもいいよ。(タブレットで撮影)

(手伝いながら)



○下の布の柄が透けるように。



○さかな。

○異世界。

もうちょっと、うめよう。

○これ、ふじ山！

○ほかの色、取りに行ってもいい？

(分厚い布)

○どうやって、はりつけたらいいかな。

○もう少し切り込み入れたらいいよ。どんなイメージかな？布にボンドが染みこむのでくっつきやすそうですね。

○いっぱい敷きつめましたね。この後が楽しみやなあ。

○机の上に置いてしますか？

花がどこにいくか楽しみですね。また来ますね。

3 振り返り

T1○並べたり重ねたりして、どんな工夫があったのか、紹介しましょう。

○赤の上に乗せて、色が引き立っていいね。

○布を伸ばすというおもしろい工夫をしていた。どうしてだと思う？

T2○これはどんな工夫をした？

○これはどんなイメージ？

T1○色に違いがあっておもしろいね。

○次の時間も続きをします。まだ布で描きたい人もいますが、さらに素敵な作品にするために、絵の具も使っていこうと思います。

○（切るのが）かたいので手伝ってください。

（花柄に沿って切っている子）

○難しい。



○重ねたり並べたりしました。

○下の布の模様が見えるように。

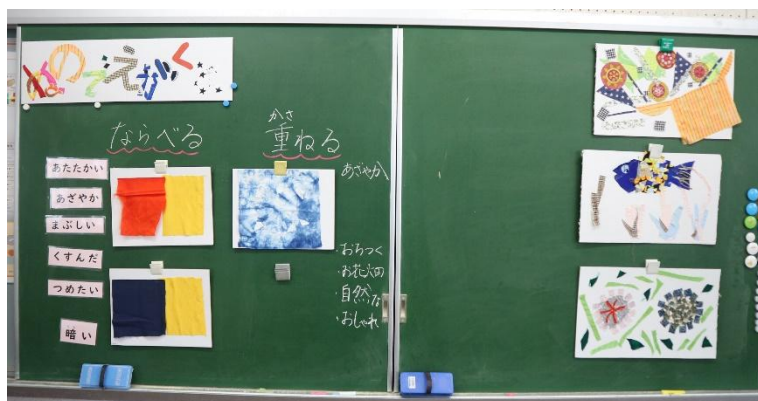
○見えた。

○雲の形と種類。これは竹。

○宇宙の背景。できるだけ紺色を貼った。



板書等



I 課 題 点

- (1) 場の設定や材料について
- (2) 導入と振り返りの進め方について
- (3) 対話的で深い学びについて
- (4) I C Tの活用について

2 解決の一方策

<課題点(1)について>

- (1) 絵をかくことに苦手意識があったり、かきたいものが思い浮かばなかったりする児童が多いため、今回は、布を使って絵にすることで何度も表し方をかえることができるようにした。本時でも、実際に並べてみると自分の思っていたものと違った様子になったと感じた児童は、何度も布を選び直していた。しかし、中には、最初に自分が持ってきたものを使おうとずっと悩んでいる児童もいたため、選び直してもよいという声かけができたらよかった。
- (2) 様々な柄や色の布が豊富に準備されていることは、児童が発想したものを再現する手助けとなっていた。一方で、自分の思った通り布を切ることができず、嫌になっている児童がいたため、切りやすい布も用意されていると、自分がイメージしたものにより近づくことができたかもしれない。
- (3) 布の色や模様、感触などを味わいながら、この先どのように進めて行くかじっくりと考えている児童もいれば、イメージがすぐに浮かび、黙々と絵をかき進めている児童もいた。そして、どの児童もいきいきと活動している様子だった。材料の布の大きさを自分で変えることができるだけでなく、台紙の段ボールの大きさも選ぶことができることで自由度が高い点はよかったが、逆にどのくらいの大きさにするのか迷ってしまう児童もいたため、児童への声かけがもう少し必要だった。

<課題点(2)について>

- (1) 本時の導入では、色の関係性や重ね方を変えることで模様見え方が変わることを、一か所に集まって全員で確認することができていた。その際に「～みたい」「～に見える」など、児童から出てきた言葉で表現させていたが、活動の中でそれが生かされている場面があまり見られなかったため、その時間を縮めて作業の時間に充ててもよかった。
- (2) 活動に入る前に裁ちばさみの使い方を説明したが、児童は本時まで裁ちばさみを使った経験がなく、うまく使うことができていない児童が少なかったことや、グループに1つしか用意できる数がなかったことなどの理由から、今回の授業では裁ちばさみは使わなくてもよかったかもしれない。
- (3) 「並べる」「重ねる」の2つのポイントを意識させ、児童はそれぞれが自分の表現したいもの

のイメージをもち、スムーズに活動に入ることができていた。授業の振り返りでは、どのようなイメージで布を並べたのかを聞いたが、数ある布の中からその布を選んだ理由や、布の種類を変えた理由など、もう少し詳しく丁寧に質問をすると、児童のイメージや表し方の工夫について全体で共有でき、見方や感じ方が広がるのではないかと。

<課題点(3)について>

- (1) 本題材において、前時では、自分が表現したいものを教師や友達と共有するような対話もあったが、今回の授業では、児童一人一人が思いを形にすることに集中していたため、対話的な場面は少なかった。活動の途中で友達の作品を見て自分の作品に生かしたり、近くの友達と話すことでその言葉がひらめきの助けになったりすることもあるため、教師が声かけをする回数を増やしたり、意図的に児童同士で作品について話をする時間を設定したりして、対話が生まれるような工夫をする必要がある。

<課題点(4)について>

- (1) ロイロノートを使って、題材全体を通しての学びの足跡や作品をつくる上でのイメージなどが示されているため、次の課題の見通しがもちやすくなっている。タブレットを活用すると、学びの積み重ね（作品の途中経過）もタブレット上で確認できることや、前の画面等に映して全体で共有できるといった利点がある。
- (2) ロイロノートに振り返りの内容を記入しておくことで、次時の導入のときに確認することができ、前時とのつながりが明確となり効果的である。

3 今後の課題

- (1) 今回、T1とT2の役割があまり明確ではなかったところが見られた。本校の図工の授業では、T1とT2の役割が課題となってくる。どこまでをT1が進めて、T2は何をするのかを入念に打ち合わせして決めておくことで、授業がスムーズに進むだろう。授業準備から授業中の声かけなど含め、今後はT1とT2のどちらが授業をしても同じように進められるようにしておくことが必要である。
- (2) 研究会の中で講師先生より、鑑賞の時間を取って設けず、自分がいつでも友達の作品を見に行けるような習慣を、普段の授業から作っておくことが大切だということを教えていただいた。今回の授業のように、教師が意図的に材料を机の真ん中に配置し、児童が材料を取りに行ったときに友達の作品が見られるようにするなどの工夫を考えながら、対話が生まれるような授業づくりを日頃から行っていきたい。
- (3) 教師が児童と一緒に悩み、児童の思いを大切にしているところがすばらしいという意見を講師先生よりいただいた。「この後どうなるのか楽しみです。」などの声かけがあることで、児童はイメージしたものに近づけようと一生懸命考えながら取り組む姿を見せてくれるだろう。教師の声かけ一つで、自分だけでは考えもつかなかったアイデアが生まれることにも繋がってくるため、児童にかける言葉について、さらに研究を進めていきたい。

第5・6学年 図画工作科学学習指導案

令和7年6月16日(月) 5校時

5年8名 6年7名

指導者 T1 宮本 拓海

T2 吉田 紘子

授業場 図工室

1 題材名 ようこそ! だんボール島

「立体に表す A 表現(1)イ、(2)イ、B 鑑賞(1)ア [共通事項] (1)ア、イ」

2 題材設定の理由

本題材は、段ボールを加工してできた形や、その組み合わせ方をいろいろと試しながら自分の表したい物を発想し、段ボールの材料としてのよさを生かしながら立体に表現する題材である。段ボールは切ってそのまま使うだけでなく、折ったり、曲げたり、水につけて剥がしたりと様々な方法で加工することができる材料である。そこで、まずは児童がしっかりと段ボールに触れる時間を確保し、材料としての可能性を存分に味わわせる必要がある。そうすることで、児童はつくることができる形への理解が深まり、表したいものへのより具体的なイメージをもつことができると考える。また、友達の活動や作品を見て、造形的なよさや発想の面白さを感じられるようにしたい。

児童は、図工の授業に意欲的に取り組み、様々な色や技法を組み合わせながら、自分らしさを発揮して製作や鑑賞を楽しむ様子が見られる。4月に行った絵に表す題材「心のもよう」では、様々な技法を用いてカードにかいた色や形から、様々な気持ちを感じ取り、それらの組み合わせ方を工夫して表現した。カードの並べ方や、台紙に用いる色画用紙との組合せをいろいろ試しながら製作を楽しむ姿が見られた。また、昨年度に行った、工作に表す題材「木と金属でチャレンジ」では、流木や木材と針金を用いて、自分のつくりたいものを考え、それらの特徴を生かして、部屋に飾りたくなるようなオブジェを製作した。工作が好きな児童が多いため、針金の特徴を生かし、様々なその形を変化させることを試しながら、進んで活動に取り組む姿が見られた。そこで今回は、段ボールという身近にある材料の特徴を生かしながら、その形を様々な加工し、イメージを膨らませながら、思いを形にする題材を選んだ。梱包材や災害時の非常用ベッドなどにも用いられるほど固く、丈夫であり、自在な加工が難しい印象のある段ボールを、折ったり曲げたりして表現したいものをつくる活動を通して、造形的な資質能力をさらに高めたいと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、まず、第1次にて段ボールを加工する経験を十分に積ませることで、「段ボール＝固くて加工が難しい」という印象を取り除き、つくることができるものへのイメージの幅を広げられるようにする。使用する段ボールは、地域にある段ボール工場から譲り受けたもので、児童はこれまでも発表会等で何度か使用してきている身近な材料である。一般的な茶色いものに加え、片面や両面が白いものや、波状の部分が表に出ているものも用意し、イメージに合わせて色や形の工夫もできるようにしたい。活動の支援として、つくりたいものが決められない児童には、教師の提示した他の学校の児童の作品を参考にして、つくることができるものへの具体的なイメ

ージをもつことができるようにする。第2次では、そのイメージを基に、自分の表したいものをつくっていく。様々な方法を組み合わせ、自由に製作を進められるようにするとともに、カッターナイフや段ボールカッターといった安全に注意が必要な用具を適切に使用して活動できるようにする。活動への支援として、前時で児童らが見つけた段ボールの加工方法を教師用タブレット端末で撮影してロイロノートに掲示し、授業中いつでも見られるようにしておくことで、前時で加工方法が十分に定着していない児童もスムーズに活動を進められるようにする。そして第3次では、完成した作品を互いに紹介し合う時間を設ける。友達とお互いの作品のよさを認め合い、作品に込めた自分の思いを共有することで、自分の思いを表現することの楽しさや自信につながると考える。

本題材を通して、身近な材料のもつよさに気づき、それを生かしてイメージを形にする喜びを味わうことで、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養いたい。

3 題材の目標

(1)・段ボールを材料とした表現を通して、動きやバランスを理解する。

・段ボールの特徴を生かし、カッターナイフなどの用具を活用しながら折り方や曲げ方、組み合わせ方などを工夫する。

(知識及び技能)

(2)・段ボールを折ったり曲げたりしてできた形や組合せから表したいものをイメージし、どのように表すか考える。

(思考力、判断力、表現力等)

(3)・段ボールの特徴を生かしてイメージを形にする喜びを味わい、主体的に活動に取り組むことで、楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・段ボールを材料とした表現を通して、動きやバランスを理解している。 ・段ボールの特徴を生かし、カッターナイフなどの用具を活用しながら折り方や曲げ方、組み合わせ方などを工夫している。	・段ボールを折ったり曲げたりしてできた形から表したいものをイメージし、どのように表すか考えている。	・段ボールの特徴を生かしてつくることの楽しさを味わい、主体的に活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全6時間 本時3/6）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・段ボールの形を変える方法をいろいろ試し、材料のよさや面白さを見付ける。	知 ◎	・段ボールの形を変える方法をさまざまに試している様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影)
2	・前時にできた形からイメージを広げ、友達と対話しながら自分の表したいものを思い付く。	思 ○ (発想や構想)	・友達と対話をしながら、自分がつくりたいもののイメージをもつことができているか観察し、問いかけ、記録に残す。 (観察・対話・撮影・アイデアメモ)
3 、 5	・表したいものに合わせて、段ボールの形を変え、そのよさを生かしたり組み合わせたりしながら、表したいものをつくる。	思 ◎ (発想や構想) 技 ◎	・どうしてその形を選んだのか、どのようなイメージをもって活動しているのか等を対話し、記録に残す。 (観察・対話・撮影・作品) ・段ボールの形の生かし方を考えながらつくっている様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影・作品)
6	・お互いの作品を鑑賞し合い、表し方の工夫を見付けたり、作品のよさを味わったりする。	思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	・自分や友達の作品について、表現のよさや工夫を感じ取り、伝え合っている様子を観察する。 (観察・発言・タブレット端末) ・児童の考えや感想をタブレット端末で記録に残す。 (観察・発言・作品・タブレット端末) ・身近にある段ボールの特徴を生かしてつくることの楽しさを味わい、工夫してつくる活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 (観察・対話・撮影・作品)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

段ボールを折ったり曲げたりしてできた形のよさを生かし、それらを組み合わせることで、自分の表したいものをつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
5 分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてを確認する。	・ 前時までの学習を振り返り、本時の活動の見通しをもつことができるようにする。
	だんボールの形の変え方や、組み合わせ方を考えて、自分の表したいものをつくろう。	
35 分	2 自分のイメージにそって、段ボールの形の変え方や、組み合わせ方を考えて、自分の表したいものを工夫してつくる。	・ 段ボールを加工してできた形の特徴を生かせるように声をかける。 ・ 友達とそれぞれの工夫を見合ったり、教師が紹介したりすることで、できた形をどのように生かすかの参考にすることができるようにする。 ○段ボールを加工してできた形のよさを生かして組み合わせ方を選び、自分のイメージをもって活動している。 【思考・判断・表現（発想や構想）】 （観察・対話・撮影・作品）
5 分	3 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	・ 振り返りを通して、本時の目標に対する達成状況を確認し、次時の活動に生かせるようにする。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・ 自分の表したいものに合わせて段ボールを加工し、自分のイメージに沿った組み合わせ方を試行錯誤しながら、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 第1次で友達が見つけた加工方法をタブレット端末で撮影し、ロイロノートに掲示しておき本時の活動中にいつでも見られるようにすることで、スムーズに活動を進められるようにする。 ・ 友達の活動を見たり、対話したりするように声をかけることで、自分の表現したいものに合った加工方法を選ぶようにする。

第5・6学年 「ようこそ！だんボール島」授業記録

教師のはたらきかけ	児童の反応
I めあての確認 T1○たくさんの材料が準備されていますが、何を作ろうと思っていますか？ ○これまで使ってきたどんな技を使ってみたい？ ○今までのことを思い出して、それらを使ったり組み合わせたりして、今日のめあて「だんボールの形の変え方や、組み合わせ方を考えて、自分の表したいものをつくろう。」 ○どんな技があったかな？ T2○丸める、差し込む、曲がる向き、折り筋を入れるときれいに曲がる いろいろ組み合わせて (前時の様子の写真をプロジェクターで写す) ○何に見える？ ○これから何かできそう？どうやったの？ ○…さんが組み合わせてたよ。ボンドがなくても、くっついてたよ。 組み合わせて自分のイメージに近づけてくさい。 T1○使っているものが増えます。グルーガンです。今回は先生につけてもらってください。 ボンドの使い方のポイント カッターナイフを使うときのポイント 段ボールカッターを使うときのポイント ○自分が作りたいものはどんどん変わっていったらOKです。では、作業に入りましょう。スタート。	○(数名の児童が手を挙げる。) ○差し込む。  ○(数名の児童が手を挙げる。)  ○横にしたら望遠鏡。 ○これを差し込んだ。  ○(口々にポイントを答える) 

2 自分のイメージに沿って、段ボールの形の変え方や、組み合わせ方を考えて、自分の表したいものを工夫してつくる。

T1 (机間指導)

○どこかに生かせるかな。

これがどう変化するか楽しみだな。

○見えてきたね。

なるほどね。いいね、そのこだわり。作品に生きるといいね。

○形はできたから、これからどうしようか。

試しに持って行ったら。使えるかもよ。

○あの中からやってみたら。

(手本の作品を指さす)

切り込みを入れるか差し込むか。…さんが似たようなことをしていたから、聞いてみたら？

○10秒間しっかり押さえておくと、ボンドもくっつくよ。

先生のも触ってみて、しっかりくっついてるよ。

○なるほど、これはどうかな？よかったら使ってみてね。

○さっきより進んでいますね。

反対側から見てみたら？どうする？

ここからどうなるの？

ほう、束ねるんだ。

○カッターもあるけど。もうちょっとはさみでがんばりたい？

T2 ○何作るの？

どれくらいの大きさ？(タブレット見せる)
練習した切り込みを入れたら土台ができるよ。

○いくつ切れ目入れたらいい？

二つ入れたら三角。三つ入れたら四角。

○土台できた？どっちの色が外？

○これどうしようかな。(のせてみる)



○今まで作ったものが大きすぎたので、作り直してる。

○これ使えるかな。



○どうやったの？

○グルーガン。

○同じようなものを作りたい。

○橋。

○ボンドの力で。

○先生、かばのしっぽがうまく切り抜けません。

○二階建てのおうち。



○下まで切らずに、切り込み入れよう。

○洗濯ばさみを使って留めてもいいよ。どんなのができるか楽しみだね。

○長さがたりないならこの折る場所を変えるといいよ。

○お城のどの部分になりそう？

○ここから上に作っていくんだね。

○底ができ始めたね。

○素材を見にいってみる？

○ちょっと見ない間にすごい！

T1○残り1分。作業中の人は、きりのいいところで。

3 振り返り

T1○どこが難しかったですか？



○船を作る。

どうしよう、ボンドでくっつけようかな。

○長さがたりない。

○土台

○どうすればいいかな？

(上にのせてみる)

○城なので意外と難しく、もっと時間がかかりそう。

○橋が簡単だと思っていたけど、意外と難しく、これからどうしたらいいか、考えています。

T2〇ここができたでもいいよ。

〇これ何に見えますか？テーマは公園です。
動かして大丈夫？

〇波段ボールで差をつけているという工夫で
すね。

T1〇ではこの続きは次の図工で。

〇土台ができたから、この上に何をつけようか
考えてます。

〇滑り台。

〇段を固めるのに苦勞しました。



板書等



I 課題点

- (1) 場の設定や材料について
- (2) 導入と振り返りの進め方について
- (3) 対話的で深い学びについて
- (4) ICTの活用について

2 解決の一方策

<課題点(1)について>

- (1) 児童が活動するスペースが狭かった。児童それぞれが作る作品のスケール感が異なったので、一人一人に応じた活動スペースの確保が難しかった。ミニチュアの自分を作ったり、大きな島に乗せる意識で作ったりしていたので、何か基準を用意することで、スケール感を統一させることができたと考えた。
- (2) 黒板の右側にプロジェクターを設置する関係で、教室後方の一角を材料置き場とした。しかし、友達がどんな活動をしているのかが目に入りにくかった。材料置き場を教室中央に置くことで、自然と友達の様子をみることができたのではないかと考えられる。
- (3) 本題材で使用した段ボールは、地域の工場から譲っていただいた。段ボールは、児童にとっても身近な素材であるが、大きさや厚みが異なる段ボールを工場から提供していただいたことで、素材の特性に対する興味や関心が高まった。
- (4) 段ボールの接着に関して、難しさを感じる児童が多かった。事前に朝の時間に実施しているアートタイムを活用して、ボンドでの接着方法の確認や練習は行っていた。グルーガンの準備もしていたが、危険を伴うためどうしても必要な場合はという声かけがあったからか、進んで使用する児童はいなかった。辺と辺の接着が難しいので、ボンドだけでなく養生テープを用意することで、見えないところはテープで留めたり仮留めしたりしてする手立てを用いることが有効だったと考えられる。

<課題点(2)について>

- (1) 前時の活動を写真で振り返り、児童の活動を紹介した導入だったが、表現活動に入ってから手が止まっている児童が見られた。作品例を写真で提示したので、平面ではなく実際に作品を見せた方がより立体として捉えられ、細部まで確認することができたのではないかと考えた。実物を確認することによって、自分の作品に生かそうとすることができたのではないかと考えた。
- (2) めあてには、「組合せ」という言葉が使われていたが、加工したものを組み合わせるまでに到達していない児童が多かった。児童の活動の様子を見てみると、どんな表し方にしようか考えている場面が多かったので、本時のめあてとしては、ふさわしくなかったのかもしれない。また、本時のめあてをつかむための導入の工夫が必要である。

- (3) 振り返りでは、自分の活動について発表していた。似ているテーマで作品をつくっている児童もいたので、比較して紹介することで、自分の作品に取り入れたいと思えたのではないかと考えた。また、本時の活動内容だけでなく、次時のことも必ず問うことが大切である。「これからどうなるの」「どんな風になるのかな」と発問することによって思考が働き、次時の活動について考えることができる。

<課題点(3)について>

- (1) 今回の授業では、児童の活動場面を大切にしたいという思いから、困っている児童に声をかけず、教師が見守る場面が多かった。講師先生から、児童を困ったままにすると、時間がもったいないので、教師から積極的に子どもが考えることができるように提案をしていくことが有効であるとのお話があった。教師から提案すると押しつけになってしまうのではないかと懸念される声もあるが、取り入れるかどうかの選択は児童がするので積極的に提案するとよいということであった。活動している児童でも、細かい全体像は決まっていなかった。対話することによって、どうしようかなと思考が働く。また、困ったり悩んだりしている児童に対して、「自由に歩いて見てもいいよ」「タブレットを見てもいいよ」と教師からの声かけはあったが、自分から動ける児童がいなかった。活動が停滞していて、一人で悩んでいる児童もいたので、普段から教科を問わず自由に動ける雰囲気づくりをしておくことが大切である。困ったときに自ら動ける経験を積んでおくことが必要である。

<課題点(4)について>

- (1) 段ボールの加工方法を写真で記録し、ロイロノートに貼り付けていた。自分以外の友達の作品をいつでもタブレット端末を使って見えるように設定されており、記録としても手引きとしても活用できていた。
- (2) 導入の段階で、これまでの学習を振り返るスライドを提示し、時間をかけずにたくさんの技法に触れることができていた。児童の作品をスクリーンに映し出した際、児童への賞賛や価値付けもできていた。

3 今後の課題

表現活動では、児童自身がどんなものをつくりたいかという思いが一番大切である。そのために、題材との出会わせ方が重要になってくる。児童の実態に合わせた、児童が興味をもてるようなしかけを用意する。題材と児童を近づけることによって、自由な発想が生まれていく。つくりたいものが決まれば、児童は自然と工夫したくなる。しかし児童は、思いがあっても発想段階では霧がかかっていることが多い。霧を晴らす対話を行い、言語化していくことで、自然と児童の思いがより明確に出てくる。対話したことは、記憶に残りやすいので、児童の表現活動の過程を教師が記録するという面でも、児童がさらにイメージを膨らませるという面でも、非常に大切な手立てである。今後も児童の思いを大切にしたい授業構想を行っていく必要がある。

第1・2学年 図画工作科学習指導案

令和7年6月27日(金) 5校時

1年10名 2年6名

指導者 T1 安原 千絵

T2 三浦 美穂子

授業場 児童玄関

1 題材名 つくって わくわく カラフル いろみず

「造形遊び A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、色水をつくる活動に楽しんで取り組む中で、新しい色を見付けたくさんの色をつくることから、活動を思い付いたり考えたりする力や、考えた活動を実現するために色の並べ方を工夫する力を育てることをねらいとしている。また、自分の活動に価値を見いだしたり、友達の活動の面白さや楽しさを感じ取ったりする力を育てることができると考える。本題材は、様々な色や濃さの色水を作る中で、何かに見立てたり自分の好きな色を集めたりして並べていく活動であるため、どの児童も意欲をもって取り組むことができる活動である。色水をつくりながら並べることを何度も試すといった「つくり、つくりかえ、つくる」活動を繰り返すことを通して、自分の発想を広げたり、友達の活動から新しいよさや価値観を見付けたりすることができる題材であると考えた。

1・2年生の児童は、こども園からともに過ごし、お互い顔なじみである。特に2年生は、1年生が入学してから、一緒に学習することをとても楽しみにしていた。授業が始まってからは、1年生の作品を鑑賞することにも意欲的に取り組んでいる姿が見られた。1年生も、「2年生の作品のここがすごい」などと、自分の気持ちを伝えることができていた。1学期に行った鑑賞「すきなかたちやいろなあに」では、大きな板の上に様々な形や色の物が並んでいるのを見て、自分が気に入ったものを見付け、その理由を「きらきら光っているから」「この形がかっこいい」などと、形や色の観点から発表した。友達の意見を聞き、「確かに光っていてきれい」と新たな発見をしたり、「〇〇みたいな形だね」と自分の考えとつなげたりすることもできていた。工作「ちょきちょきかざり」では、折り紙を小さく折って一部を切り、開くと様々な形になることを楽しみながら、世界に一つしかない飾りを作った。偶然できた形に感動する児童や、「ここをこう切ったらこんな形になったから、次はこうしてみる」などとできあがりのイメージをもって取り組む児童の姿が見られた。このようなことから、本題材では、単に色水をつくるだけではなく、自分がつくりたい色をイメージし、それに近づけるために考えたり試したりしながらできた色の面白さを感じたり、できた色水から新しいことを思い付いたり、イメージを膨らませながら並べるなどつくりだす喜びを味わったりして、自分の見方や感じ方を広げることができるようにしたい。

指導に当たっては、児童がやってみたいことをいろいろと思い付くことができるように、色水をつくる時間を十分に確保する。色水をつくる際はペットボトルを使用し、できた色水は、プラスチックコップやふた付きのビン、プラスチックケースなど、様々な形状の容器に入れて、並べたり、色を混ぜたりすることができるようにする。いくつかの大きさや形の容器を用意することで、色の集め方や並べ方を様々な思い付き、活動を意欲的に進めることができるようにする。また、今回は、色付けの材料として共用の絵の具を使用する。絵の具の量を変えることにより、児童は、色の違いを楽しみながら、イメージした色をつくっていくことができるので

はないかと考える。さらに、活動場所を児童玄関とすることで、光を多く取り入れることができるとともに、段差やスロープ、机などを利用でき、児童が思い付くままに並べられる空間も確保できる。また、広い空間で活動することで、友達の色や形への気付きに共感したり、自分がつくったものを友達に紹介したりすることで、児童がお互いの活動に意識を向け、表現と鑑賞が一体的にできるようにする。色水をつくることだけに没頭している児童にも、つくったたくさん色水をどのように置いているのかなどと対話し、並べることに自然と繋がるように活動を促していく。活動が進まない児童には、好きな色を尋ねたり、友達の活動を見て、できた色水から何ができるかと声をかけたりするなどして、自分の思いが表現できるように支援していきたい。本時の最後には、並べた色水を全員で鑑賞する時間を設ける。自分や友達の表し方のよさや面白さを感じたり、友達の考えを聞いたりしながら、形や色、表し方などの工夫について、自分の見方や感じ方を広げ、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造していこうとする態度を養いたい。

3 題材の目標

(1)・色水をつくったり並べたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな色や形などに気付く。

- ・共用の絵の具に十分に慣れるとともに、色水を混ぜたり並べたりするなど手や体全体の感覚など働かせ、活動を工夫してつくる。

(知識及び技能)

(2)・色水の色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。

- ・色水やつくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を広げる。
- ・いろいろな色や形などを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力・判断力・表現力等)

(3)・楽しくいろいろな色水をつくることから思い付いたことを試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、色や形などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水をつくったり並べたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな色や形などに気付いている。 ・共用の絵の具に十分に慣れるとともに、色水を混ぜたり並べたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してついている。	・いろいろな色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、色水の色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・いろいろな色や形などを基に、自分のイメージをもちながら、色水やつくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を広げる。	・つくりだす喜びを味わい、楽しくいろいろな色水をつくることから思い付いたことを試す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全2時間 本時2/2）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	- 色水のつくり方を知り、いろいろな色の色水を、絵の具の色や量を試しながらつくる。 - 絵の具の色や量を変えたり、色水同士を混ぜたりして、自分の好きな色の色水をつくる。	知 ◎ 技 ◎	- 自分のつくりたい色の色水をつくらうと様々に試している様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) - どのようにつくった色なのか、どのようなイメージをもってつくったのかなどと対話をし、記録に残す。 (観察・対話・撮影)
2	- 色や形に着目して並べるなど、色水をつくることで思い付いた活動に取り組む。 - 友達の活動を見合い、つくりだしたものの楽しさや活動の工夫を感じ取る。	思 ◎ (発想や構想) 思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	- 色や形に着目しながら様々に並べている様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) - 自分や友達の活動について、色や並べ方などの面白さや楽しさを感じ取っている様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・撮影) - つくりだす喜びを味わい、楽しくいろいろな色水をつくることから思い付いたことを試す活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 (観察・対話・撮影)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

色水の色などを基に自分のイメージをもち、感覚や気持ちを生かしながら、造形的な活動を思い付いてつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
10分	1 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	・色水を混ぜたり集めたり並べたりしていたことを振り返らせ、意欲をもって活動に取り組むことができるようにする。
	いろみずを つくったり ならべたりして、もっとわくわくしよう。	
25分	2 前時につくった色水から、思い付いた活動に取り組む。	・校舎の中だけではなく校舎の外にも活動範囲を広げることで、色水に光を取り入れたり、発想を広げやすくしたりする。 ・色水がなくなったり、他の色をつくりたくなったりしたら、その都度、色水をつくってもよいことを予め伝えておくことで、何度でも試しながら活動を進めていくことができるようにする。 ○色水をつくることでやってみたいことを思い付き、色水をどのように並べたり集めたりするか考えている。 【思考・判断・表現】(観察・対話) ・並べた色水を自分の好きな角度からタブレットで撮影する時間を設け、作品を記録に残すことができるようにする。
10分	3 本時の活動を振り返る。	・児童と一緒に作品を見て回り、児童の発言を受け止めながら全体に広めていく。 ○自分たちがつくった色や並べ方などの面白さや楽しさを感じ取り、色や形に対する自分の見方や感じ方を広げている。 【思考・判断・表現】(観察・対話・作品)

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・色や形などを基に自分のイメージをもち、色水の色や量を変えながら、どのように表すか積極的に考え、色水を並べたり集めたりしている。(発想や構想) ・友達の作品や発言から、色や形に対して共感や称賛をしている。(鑑賞)
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・どうしてそのような色を作ったのか、その色水をどうすればもっとわくわくできるかなどと尋ねる。 ・友達の活動の様子と一緒に見て回り、活動への見通しや意欲をもつことができるように声をかける。(発想や構想) ・色水の色や並べ方、集め方などについて感じた面白さや楽しさを尋ねる。(鑑賞)

第1・2学年 「つくってわくわく カラフルいろみず」授業記録

教師のはたらきかけ	児童の反応
I めあての確認 T1○前の時間に、やったことが残っているね。 色を混ぜてみた人？ ○びんとかカップに入れて楽しんでいる人？ ○いろんな場所に置いてみたり、濃さを変えたり、並べたりしている人がいましたね。 ○どんなことしたいか決まった人いますか。 ○・・・さんが面白い色の混ぜ方をしていましたね。 ○色が変わりましたね。 ○他に思いついた人いますか。 T2○・・・さん、面白いことしていなかった？ T1○混ぜるときにカップを使いたい人はたくさんカップがあります。いろいろなびんや、いろいろな形の入れ物もあります。 ○前の時間、わくわくしましたね。 そこで今日のめあては「いろみずをつくったりならべたりしてもっとわくわくしよう」 ○三浦先生からお約束の確認があります。	○（数名の児童が手を挙げる。）  ○いろいろな色を混ぜてみたい。 ○（前で実演）  ○びんに入れて色を変えたい。 ○丸い台に置いたり並べたりして地域の人に見てもらいたいです。 ○いろいろな色でいっぱいになりたい ○今持っている色を全部混ぜたい ○濃い色を作りたいです。 

T2○作った色水を並べたい人や置きたい人もいます。今日は外やタイルのところも上靴で行っていいです。

T1○□組の前にコーンがあるのでそれが目印です。

T2○同じ場所に置きたい人がいたらどうしますか？

○けががないようにあせらずに落ち着いて行動しましょう。

2 色水をつくったり並べたりするなど、思い付いた活動に取り組む。

T1○何かに入れたい？

○やってみて。

○振りたいならペットボトルがいいよ。

○この色びんにつめたの？いいね。

○新しい色をどんどん作っていますね。

○いろいろな色ができているね。

○こっちの緑色と比べてどうですか？

○何でここに置こうと思ったの？

T2○（テーブルにたくさんある色水を見て）ここ満タンだけどどうする？

○色変わるかな？

○ちょっと変わってきたね。

○・・・さんが想像していたのは何色？

○この色もいい色だね。

○テーブルがいっぱいになってきたね。ここでいい？

○外に置いてみてどう？



○「一緒に置こう」って言う。

○譲り合う。



○（カップを指さして）これがいい。

○プリンの容器に入れて振ってみたい。

○凍っているみたい。

○濃いのと薄いのができた。

○おしゃれな感じがするから。

○テニスボールの容器にうつしたい。



○紫色

○次は赤色を多くしてみる。

○ここでいい。

○外に置いたらきれい。



○（△に並べているのを見て）おもしろいね。

T1○自分のタブレットで色水の写真を撮ってみましょう。

3 振り返り

T1○こんな風にやったよって紹介してくれる人。

○見に行ってみよう。

T2○すごい、階段を使ってハートを作ったんだね。

T1○他に教えてくれる人？

○どこに置いたの。

○素敵だね。

T1○またやりたいと思う人。

○おうちや休み時間にやってみてください。



○色水をハートの形に並べました。

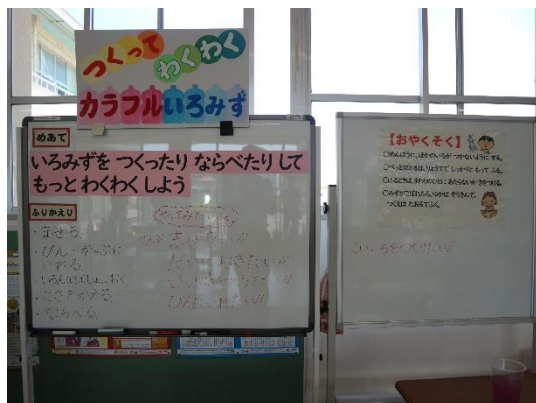


○色んな色水を使って楽しかったです。

○太陽に当たっている方がきれいかなと思って外に置きました。

○多くの児童が手を挙げる。

板書等



I 課題点

- (1) 場の設定や材料について
- (2) 導入と振り返りの進め方について
- (3) 対話的で深い学びについて
- (4) ICTの活用について

2 解決の一方策

<課題点(1)について>

- (1) 色水を自然光に当てたり、外に置きに行ったりできるように、活動場所は児童玄関で実施し、机や台を設置した。机や台の設置は、何もない場所よりは置くことができる場所が増え、活動の幅が広がったという点では効果的であったが、逆にそれが「ここに置かなければならない」という考えになってしまい、児童の多様な発想に繋がらなかったのではないかという意見が出た。また、普段の児童玄関とは様子が違っていたため、元からある段差を生かしたり、教師と一緒に置きたい場所を探しに行ったりするなどの方策もあったと考える。
- (2) ホワイトボード前にプラカップやびんといった容器が豊富に準備されており、作った色水同士を混ぜやすくなっていた。混ぜるだけでなく、できた色水を並べて楽しむよさをさらに多くの児童に共有できれば、表現がより豊かになるだろう。また、プラカップ等の口の開いた色水を混ぜやすい容器に比べ、びんなどの蓋がついた容器を使用する児童が多かった。これは、蓋がある容器はペットボトルと同じように振って混ぜることができるためであると考えられる。
- (3) 今回はそれぞれの児童に思い思いの容器を選ばせようと様々な種類の容器を準備したが、それがどれを使うべきかという迷いに繋がってしまったのではないかと考えられる。容器の種類をある程度少なくすることで、児童らは限られたもので活動しようと試行錯誤し、思考が深まるのではないだろうか。

<課題点(2)について>

- (1) 前時での「色水を作る活動」が十分とれなかったため、本時の導入・活動の際、まだ「色水をつくりたい、混ぜたい」という思いをもったまま活動に向かい、色水を並べることにあまり意欲的でない児童が見られた。活動の時間が十分でなかった原因として、全2時間の単元構成で時間に余裕がなかったこと、そして連続した2時間でなく、前時との間に切れ目があったことで一度仕切り直しになってしまい、説明のために活動の時間がさらに削られたことが挙げられる。
- (2) 本時のめあてにある色水を並べる活動に至っていない児童には、もう1時間とり、満足できるまで色水作りをさせてあげることで、自然と並べたり、色の種類や自分の好みに合わせて分類したりし始めると考えられる。また、振り返りでは時間が足りず全員で何名かの作品を鑑賞していく形となったが、より多くの児童の作品に触れられるような方法を設定すべきである。

- (3) 指導と評価の一体化については、具体的な子どもの姿を見て、教師の設定した質的な深まりや高まりがみられるかを見て判断していくことが大切である。本時では、自分のイメージをもって色水の色や量を工夫し、積極的に表し方を考えて活動することや、友達の発言・作品の色や形へ共感・称賛することに重点を置いており、授業者からはそれらを引き出そうとする声かけが見られた。

<課題点(3)について>

- (1) 本時では、児童は自分の色水を作る活動に集中していたため、対話的な場面は少なかった。活動の途中で教師の声かけにより、自分が今していることを近くの友達と話すことで、その言葉が相手の活動の幅を広げる助けになる様子も見られた。そのことから、さらに対話が生まれるように教師が、児童同士をつなげるような声かけを増やすとよい。また活動の中で、自分や友達の作品を自由に紹介しあう時間や、自由に見回る時間を設定することも効果的である。

<課題点(4)について>

- (1) 発達段階的に学習支援アプリの活用が困難な低学年児童でも、タブレット端末のカメラ機能で作品を撮影することで、長く置いておくことが難しい色水の様子を写真に残し、振り返り等に生かすことができる。

3 今後の課題

- (1) 造形遊びは「こと」を起こす活動なので「どんなものをつくりたいか」ではなく「どんなことをしたいか」を聞くのが大事であり、本授業ではそれを実践できていた。一方で、導入の際に児童から出た「したいこと」が「色を混ぜたい」だったことから、本単元における色水を作る時間を増やし、児童が十分活動に浸れるだけの時間を確保する必要がある。
- (2) 声かけに関して、造形遊びは教師がゴールイメージを安易に示すと、児童は「それをしなくてはいけない」という考えになってしまう。そのため、何を作っているのかを教師が安易に確定させないように配慮し、「おもしろいね」などの価値付けする声かけを行うことで意欲をもたせ、「この後どうしていくの」などと声をかけてイメージを広げてあげるとよい。イメージが浮かばない児童には「たとえばこういう風にしてみたら」と提案するのもよい。教師は様々な手段を用意し、児童に合うものを提案できるようにする必要がある。
- (2) 図画工作科における評価に関して、研究会の中で講師先生は、十分満足できる児童に関しては、「質的な深まりや高まりがみられるか」で判断すべきであり、その「質」とは授業者にゆだねられているものとおっしゃった。例えば、思いを問われて答えることや知識を答えられることに授業者が「質」を設定しているなら、それができている児童を評価するべきであり、どんな行動が想定されるかを事前に想定して評価を設定するとよいとお話いただいた。単元を通して育みたい「質」とは何なのかを明確にしながら授業を構想する必要がある。

(3) 授業実践記録(6・7年度)

1・2年	題材名 わくわくビニルテープ(造形遊び)
概要 学校の廊下や階段、児童玄関等の広い床面をキャンバスにして、カラフルなビニルテープを材料に、やってみたい活動を思いついてつくる、造形遊びの題材である。簡単な導入とビニルテープという身近な材料を提示した後は、自分たちがやってみたいことを考えて活動に移った。時期的に、卒業を控えた6年生への感謝やお祝いの気持ちも込めて活動してもよいことを伝え、6年生の教室へと続く道ができたり、そのまわりにいろいろな絵柄が現れたりし、思い思いに活動を楽しむ様子が見られた。テープを押さえる子と切る子が必要なため二人組で活動を始めたが、そうすることで自然と対話が生まれる様子も見られた。	
実際 たくさん色や数のビニルテープを用意し、児童が十分活動できるようにした。教室の大型テレビで活動のおおよそを知ると、「早くやりたい」との声があがり、早速廊下へ。「テープを長く伸ばして線路みたいにしたい」「星の形や花の形もできるよ」「電車を走らせよう」など、作ったものからいろいろなイメージが広がり、思いついたことを各自が自由に表現することを楽しんだ。	
 ここは曲げてみよう。	 こうしたらおもしろいな。  6年生の教室へ続く線路
	廊下や児童玄関が楽しく変身したね。やったあ！ 
成果と課題 テープの長さや色、重ね方、並べ方などを考え、自分たちでどんどん活動することができていた。2時間の学習時間であったが、用意したビニルテープは全てなくなり、床面に楽しい絵柄が広がった。休み時間になって通りかかった異学年の児童や先生方が「これ、何?」「廊下が変わってる!」と驚く様子を見て、得意そうに説明する姿も見られた。また、自分が汽車になって「シュッシュッ ポッポ」と、線路に見立てたテープの上を走る他学年の児童も現れ、製作後もしばらく全校児童みんなで楽しむことができた。ただ、使用したビニルテープは再利用が難しいため、SDGsの観点から考えると材料や表現する場には再考すべき点がある。	

3・4年	題材名 つながれ、広がれ！だんボール（造形遊び）
概要 本題材は、身近にある段ボールを切ったり、つないだり、組み合わせたりしながら、試す楽しさや思いついたことを実現させる喜びを味わうことができる。また、友達と力を合わせて思いのままに活動することを楽しむ造形遊びの題材である。つなぐ作業では結束バンドを通す穴を割り箸で開ける工程に苦戦する児童もいたが、慣れてくると児童は思い思いに選んだ段ボールをつなぎ、箱型にして入ったり、かぶったりしながら作りたいイメージを広げ、活動していた。	
実際 段ボールカッターで好きな大きさに切ったり、結束バンドで段ボールを手際よくとめたりしながら作品を完成させていく。   同じ高さにそろえた段ボールをいくつか重ねてつないでみよう。 友達と相談しながらつなぎ合わせたり、作品をイメージしたりしながら完成させていく。   箱にして組み合わせてみよう。	
成果と課題 段ボールを切る際、段ボールカッターを使用した。切る時間はかかったが、怪我をすることなく作業することができた。経験としてカッターも使用できればよかったが、カッターマットを置いて作業するスペースの確保が必要であったため、今回は使用しなかった。その分、室内に広く作業の場所が確保できたので、作品の大きさを気にせず作品づくりができた。乗り物や建物、かぶり物など、児童のイメージを制限せず自由に表現することができ、とても満足そうであった。 今回、完成した作品は授業の最後に片付けをしたが、可能であれば何日か展示して他学年にも見てもらったり、一人一人の作品を撮影して掲示したりするなど、他の児童にも作品を紹介できる場を設けることができればよかった。	

概要

本題材では、新聞紙を丸めて棒状にした線材をつないだり、組み合わせたりしてできる形の面白さを味わうことから学びを広げていく。導入では、活動のめあてや流れ、材料の扱い方などを説明した。児童は、線材を四角や三角などの形にして組み合わせたり、自立させて高くさせたりするなど様々に試す姿が見られた。新聞紙の結束には、セロハンテープを用いた。線材の数や組み合わせ方を変化させ、どんどん大きくしたり、作品の中に入り見る方向を変えたりする児童の様子なども見られた。製作の様子を見ながら、教師は作品が自立する新聞紙の位置を一緒に探したり、作品をいろいろな方向から見てみることを促したりするなどよりよく作業ができるように支援した。児童は友達と協力した作品を作ったり、個人の納得のいく作品づくりに没頭したりしていた。

実際

新聞紙を丸めた棒を材料にして、セロハンテープでつなぐ。組み合わせていろいろな形を作る。



細く、細く。たくさん作ろう。

どうすれば立たせることができるかな。



中から見てみよう。

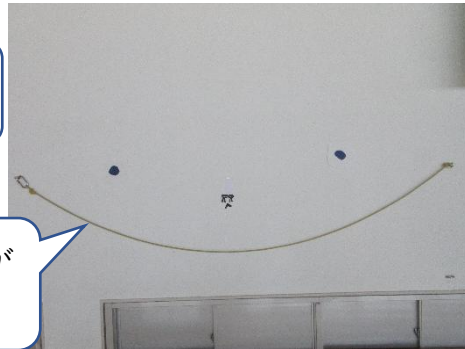


形を組み合わせたり、作品を見る位置を変えてみたりしながら工夫して取り組んだ。

成果と課題

児童は、作品を立たせるために線材をどのように組み合わせるとよいか試行錯誤しながら製作していた。友達が「こうすればいいと思う」のように声をかけながら、自然と製作を手伝ったり、三角形をたくさん組み合わせ、黙々と作品を仕上げたりするなど夢中になって取り組む姿が見られた。作品の自立や線材の組み合わせをサポートしたり、肯定的な声かけをしたりすることで積極的に作業をすることができていた。

課題は鑑賞の時間である。友達の作品を紹介し合う時間が十分に取れず、一つ一つの作品を丁寧に鑑賞することができなかった。また、展示場所までの作品の移動が難しく、他学年の児童に作品鑑賞の機会を設けることができなかった。活動場所の工夫も必要であった。

5・6年	題材名 学校へようこそ（造形遊び）
概要 本題材は、学校の敷地内の様々な場所の特徴を生かし、学校に来た人が楽しいと思えるような空間づくりの活動を通して、発想・構想する力を培う造形遊びである。児童の実態を踏まえ、今回は、つくるものを顔や体に限定した。各グループに分かれ、下学年や来校者が見て楽しめるようにと工夫しながら意欲的に活動していた。最初はアイデアがなかなか出なかったグループも、他のグループの活動を見て、発想を膨らませていた。完成した作品はタブレット端末で撮影し、ロイロノートで共有した。	
実際 グループで校内を回り、壁や扉の一部が顔の一部分に見えるような場所を探した。その後、画用紙で顔や体をつくり、壁や扉などに貼って完成させていた。 材料を持ち歩き、色や大きさなどを考えながら表現していた。少し離れた場所から確認し、全体のバランスを考えている姿も見られた。  これが顔に見えるよ。 ロープが口に、留め具が鼻に見えるね。  活動の最後には、グループごとにロイロノートに写真を貼り付け、全員で共有することで、「こんな見立て方もあるのか」と気付いたり「あそこにも作ることができそう」と発想を膨らませたりしていた。  ② もともとあったフックを象の鼻と見立てて作りました。  扉を開けると隠れて扉を閉じると見えます。  看板が、あったので目のところに出っ張りがあったので目にしました。  なくなっているが目と思ったのでかおしました。  ねじを顔の目と見立てて全体の顔を作りました。	
成果と課題 校内にあるものを顔の一部分に見立てて顔を出現させると限定したことで、普段なかなか発想が膨らみにくい児童も「これを目にしたらどうかな」「これは鼻に見えるね」などと友達と話しながら活動を進めることができた。もう少し時間を多く取ることができれば、顔以外のものをつくったり、画用紙以外の材料を使ったりし、もっと幅広い発想で活動することができたのではないかと思います。自分だけのアイデアを考えるための手立ても、普段の授業から行っていくことが必要であると感じた。	

1・2年	題材名 カラフル シャボンあわで（絵）
概要 ポスターカラーを混ぜたシャボン液をカップに入れ、ストローでぶくぶく吹いて盛り上がった泡を画用紙につけて、偶然できた模様から発想を広げて絵に表す題材である。まず、二人組になって交代で泡の模様をつくっていく。色や、泡をつける場所などを考えながら協力して進めていく。シャボン液を描画材料に使うことは初めてで、泡をつくるという活動や生まれる形の面白さを感じながら、表し方を試したり工夫したりすることができる。次は、画用紙を回転させて、できた模様がどの方向から見たら面白い形に見えるか考え、模様をいろいろなものに見立てて、クレパスで絵をかき加えていった。	
実際 第1時：何色のぶくぶく泡にしようか、できた泡をどこにつけようか、ストローを吹く側が主体となり、二人で相談しながら楽しそうに模様をつけていく。  ここに付けたいから、持ててね。 たくさん泡の模様ができたね。  第2時：泡模様の中にかき込んだり、まわりにかき加えたりしながら自分がイメージした世界に表現していく。  きょうりゅうみたいにに見えるな。 大きな木にしようかな。  作品例→	
成果と課題 第1時のシャボン液を吹く活動は、手を絵の具まみれにしながら、泡の感触やできる形の面白さを楽しんで活動する姿があった。「次は何色にする？」と確認したり、「変な形ができた！」と歓声があったりと、二人組で対話する様子もたくさん見られた。第2時の絵をかき加える活動では、泡の形からいろいろと想像をふくらませてどんどんかき進めていく児童がいる一方で、「何をかいたらいいかわからない。」と手が止まってしまっている児童も数人見られた。教師が隣に寄り添って、いろいろな方向から見ながら一緒に考えたり、友達の作品を見て回ったりしながら少しずつかきたいものを探すようにした。イメージが広がりにくい児童への言葉かけ、指導や準備の工夫を考えていくことが必要だと感じた。	

1・2年	題材名 やぶいたかたちから うまれたよ（絵）
概要 紙を破いて偶然できた形から何かに見立てるなどして面白さを見だし、発想を広げて自分なりの表現につなげる絵の題材である。紙を破いたりちぎったり、それらを並べたりして思い付いたことを表すときの感覚や行為を大切にしながら、いろいろな色や形に気付いたり、表したいことを工夫して表したりできるようにしたい。また、破いた紙をいろいろな向きからよく見て発想を広げるために、導入時に一つの形からどんなものが思い付くかみんなで共有したり、互いのアイデアを認め合ったりするような時間を設けた。また、破いた形が何に見えるか思い付かない時は、近くの友達に尋ねるなどして対話的に学習が進められるようにした。	
実際 第1時で新聞紙や画用紙を破いたりちぎったりする活動を十分にとり、第2時で教師が破いた形を写真に撮り、タブレット端末を使って線などをかき込み、それぞれの見立てたものに変身させた。  やぶるの楽しいな。 同じ形でも、うさぎになったり飛行機になったり、いろいろ変身できるね。  第3時から、自分が破いた紙をいろいろな方向から見て、自分の思い付いた楽しいものに変身させて、台紙の色画用紙の上に並べて貼り付けたり、クレパスで絵をかき足したりしていった。  これ、何に見える？  見て見て！ぼうしみたいだよ。  【作品例 『カミナリビカビカ島』】  こう並べると おもしろそうだね。	
成果と課題 4人組の班で活動したが、友達の作っている作品を見て面白さに共感したり、何に見えるか一緒に考えたりする姿がたくさん見られた。ただ、作っていく中で「偶然できた形から何かに見立てる」から、「魚が一つできたので、次は海にいる生き物を作っていく」というふうに、意図して紙を破っていく活動へと移行している児童も見られた。そこで、破り終わった後の残りの紙をすべて中央の机の上に集め、人が破った紙から面白い形を見付けて表現していけるよう活動の進め方を見直した。そうすることで、新しい形の発見や多様な色づかいが増え、表現に広がりが見られるようになった。今後も児童の活動の様子を見ながら、手立てを修正したり付け加えたりしていきたい。	

3・4年	題材名	まぼろしの花（絵）
概要 自分だけのまぼろしの花を思い浮かべ、その花の感じに合う形や色を見付け、咲く場所や周りの様子なども考えたり、思いに合わせ紙の形や材料を工夫したりする活動を通して、豊かに想像する力や工夫して表す力を育てる題材である。想像を広げられるように、教科書のモデルが複数見られる場の設定、技法を動画で確認し、試してみる場の設定、花が咲く場所や周りの様子を整理するための思考ツールの活用など、個に応じて学ぶことができる環境設定に努めた。		
実際 自分が学んだ技法を試す活動を行った。ブラシやストローなど筆以外の道具を使ったり、絵の具の水分量を変えたりして、自分の表したいことを表現できるように活動に取り組んでいた。		
		
思考ツール 「くまでチャート」を活用して、複数の観点を示し、自分のまぼろしの花についてイメージをより明確化できるようにした。		学習のふりかえり 今日は、「まぼろしの花」を書くために学習計画を立てました。私は、まず「色々な花を調べる」のがいいと思いました。自分では、たくさん花を思い浮かべられないので、調べることにしました。調べたことを、思考ツールのイメージマップでつないでいこうと思います。5時間のうち3時間「絵をかく」ことにしました。はじめの2時間は、調べたり、やってみたりする時間にしました。5時間、全部の学習計画を立てて楽しかったです。 イメージマップで想像して花を書いてみたけど、色や形咲いている場所を想像しただけでは、あまりかけなかったです。他にもくきの太さや花の大きさを考えてからがいいと思いました。次の学習で、少し今日できなかった事を少ししてから計画していたことに取り組もうと思いました。 今日の学習でストローで花を描きました。最初に絵具の青をつかって花を描きました少し後にストローの動画を見てやってみました。最初はあまり出来なかったけど後からできるようになりました。先生に凄いと褒められました。最後に金色を使ってしました。花と言うより太陽みたいな形になりました。次の時間もストローで花を完成させたいです。
	友達は、どんな「まぼろしの花」をかくのかな。タブレットを使って見てみよう。	
成果と課題 第1時に、オリエンテーションを設けて、それぞれが学習計画を立案した。学習計画を立案することによって、学習の見通しをもって活動に取り組むことができた。鑑賞では、「花びらが舞っているような様子をかきたい」「つるがぐるぐるまわっているのがおもしろい」など、自分もまねしたいみたい、やってみたいという視点で、学習活動に取り組んでいた。自分で学習活動を選択することによって、手が止まることなく一人一人が「表したいこと」を見付けようとしていた。 自覚的に学べるように、振り返りには「めあて達成度」を設けて、4段階で自己評価できるものを用意した。しかし、多くの児童が時間配分などしたことだけを振り返り、学習内容についての振り返りを書けずに終わっていた。それぞれの学習活動での目標を具体的に示せば、児童の学習目標が変わり、振り返りも学習内容の自覚や自己の変容について捉えることができたと思う。		

3・4年	題材名 絵のぐ+水+ふで=いいかんじ！（絵）
概要 本題材では、水彩絵の具で試しながら思いのままに絵に表す活動を通して、自分がいい感じと思う色や形、自分なりの筆の扱い方を見付け、絵の具の味わいを感じ、工夫して表す力を育てる。 児童は、筆やパレット、筆洗の使い方について説明を聞いた後、さまざまな表し方を試していた。加える水の量で好きな濃さに色を調節したり、筆の動かし方でギザギザにしたり、カーブさせたりするなど作品づくりに取り組んだ。納得のいく色がつくれるよう慎重に色を混ぜたり、作品を何かに見立てて形や色を組み合わせたりするなど、集中して取り組んでいた。混色について特に制限を設けず、児童自身がよいと感じる色や形を大切にできるよう心がけた。	
実際 絵の具の基本的な使い方を確認。パレットでの混色、筆洗などの使い方を聞いて実践。	
成果と課題 児童は、パレットの中で納得のいく色がつくれると、悩むことなく画用紙に表すことができた。筆先を使って細くかいたり、太くかいたり、にじませたりするなど、様々な技法を試しながら取り組んだ。水を交換する際に友達の作品を見て、技法や色の作り方を学んだり、自分の作品で試してみたりするなどの姿も見られた。画用紙は大きさの異なる物を用意した。作品が完成したら、次の作品に取りかかれるようにし、授業の最後には鑑賞の時間を設けた。作品のすてきなところを探したり、何に見えるか聞いてみたりしながら、友達の作品をじっくりと鑑賞することができた。 課題は、対話を通した活動の深まりである。児童が友達や教師との対話をより広げることができれば、さらによさを伝え合ったり見付けたりすることができたのではないかと考える。発想を膨らませ、深い学びとなるような言葉がけや工夫が必要である。	



いろんな線を組み合わせよう。

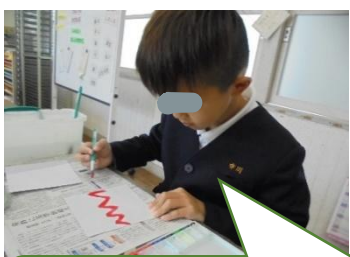
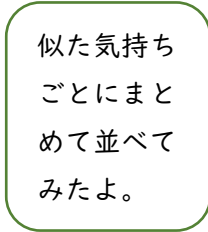
水を混ぜて色をにじませてみよう。

この色がすてきだな。どうやってつくったんだろう。



色、形、それらの組合せなど、自分のイメージを作品にすることができた。

5・6年	題材名 思いを伝える人権ポスター（絵）
概要 本題材は、人権についての自分の思いをもち、材料や用具の性質や特徴を生かして、表し方を工夫して表す内容である。人権について自分が表したいことを考え、高い意欲をもってポスターをつくっていくことができるようにした。 第1次には、ポスターをつくる意義や、例示したポスターからどのような思いが伝わってくるかを考えさせることで、様々な表現方法があることや、相手意識をもってかくことが大切であることに気付けるようにした。また、それぞれの思いを表すことができるように、画材やかき方は自分で選べるようにした。完成後は、MetaMoji に写真とともに振り返りを書き込んだり、友達と作品を見合い、鑑賞をしたりした。	
実際 人権についての考えや自分の思いを明確にし、自分がどのような人権ポスターをかきたいかを考えた。自分が表したい人権ポスターを、タブレット端末を用いてイメージマップに表現することで、相手意識や見通しをもって製作に取り組むことができるようにした。 イメージマップを基に、自分の思いを大切にしながら、色使いや絵の構成、文字のバランスなどを工夫して絵に表した。また、タブレット端末を活用することで、イメージマップを確認したり、ポスターの例を参考にしたりしながら活動を進めていく児童もいた。	
自分の思いを伝えるためには、どんなデザインにするといいかな。 わたしは、絵の具でかこう。	
成果と課題 地域を大切に思う気持ちや、差別をなくしたいという願いなど、今まで学んできた人権学習と連動した一人一人の思いを人権ポスターに表すことができた。伝えたい思いを、イメージマップを用いてできるだけ具体的に書かせることにより、それぞれが目的意識と高い意欲をもって取り組むことができていた。 一方で、デザインや画材に選択肢があることで、どのようにかくとよいか悩む児童もいた。教師がサポートするだけでなく、作成しているところを自由に見合ったり、相談したりするなど、児童同士が対話的に学ぶことができるような手立てが必要だと感じた。	

5・6年	題材名 心のもよう（絵）
概要 水彩絵の具や様々な用具を使って、自分の「気持ち」を表したり、生まれた形や色の中から自分の「気持ち」を見付けたりしながら、自分の見方や感じ方を深めることをねらいとする題材である。前学年までに習った様々な技法（スパッタリング、マーブリング等）や水彩絵の具による様々な表現方法の工夫（筆の使い方、色の濃淡やにじみ等）を生かして小さく切った画用紙に思いのままに表すことを楽しむ。また、できた「気持ち」カードを台紙に並べて構成し、台紙の形や色も工夫するようにした。	
実際 第1時：いろいろな描画材を使って「気持ち」カードをつくる。  ギザギザにするとどんな気持ちかがするかな。  ビー玉を転がしたら、迷った感じみたい。  次はやさしい気持ちを表したいな。 第2時：できた「気持ち」カードを好きな色の台紙に並べる。  並べ方を変えると印象が変わるなあ。  似た気持ちごとにまとめて並べてみたよ。 	
成果と課題 前学年までに習った表現方法を確認してから作業を行うことで、様々な方法を試しながら、思いのままにカードにかき表す姿が見られた。また、目に見えない心や気持ちを形や色に表すことや、できた形や色から気持ちを感じ取ることを楽しみながら取り組むことができた。さらに、できた「気持ち」カードを並べて構成し、好きな色の台紙に貼り合わせる活動を行うことで、さらに自分の見方や感じ方を広げることができた。一方で、気持ちや心を言葉で表すことに難しさを感じている児童が見られた。友達にどんな気持ちに見えるか尋ねるよう促したり、感じ方や気持ちを表す言葉を提示したりしながら、自分が表した「気持ち」カードに合った言葉を一緒に考えるようにした。鑑賞活動の中で、形や色から感じたことを言葉で表す活動を充実させていく必要があると感じた。	

5・6年	題材名 消してかく(絵)
概要 本題材は、コンテで塗りつぶした画用紙を、消しゴムで消しながら現れてくる形から表したいことを思い付いて絵に表す活動を通して、自分の見方や感じ方を深めることをねらいとする題材である。力の入れ方を変え、消したりかいたりを何度も試しながら表したいもののイメージを広げたり、自分の主題に合わせて納得のいくまで工夫して表したりすることを楽しむことができる。また、自分や友達の表し方の違いやよさなどを感じ取れるよう、表しつつある作品を見て、話したり聞いたりする言語活動を設定した。	
実際 1. コンテで塗りつぶされた画用紙(八つ切)に消しゴムでいろいろな線をかいてみる。 2. 体全体を使って、コンテで画用紙(四つ切)を塗り込む。 3. 消して生まれた形から表したいことを見付け、工夫しながら絵に表す。	
力を入れて消すと線がはっきりするよ。 真っ黒な画面をつくりだそう。 不思議な感じがするね。 木が重なっているみたい。	  作品例 
成果と課題 導入で、八つ切の画用紙に様々な消し方を試すことで、力の入れ方や手の動かし方によって様々な線や形が生まれることに気付くことができた。児童からは「もっと大きな紙にかいてみたい。」という思いが自然と出てきた。作品づくりでは、前時で見つけた様々な表現方法をもとに表したいことに合わせて表し方を工夫するとともに、活動の途中で互いの作品を見合うことで、友達の表し方のよさを感じ取り、自分の作品に生かそうとする姿が見られた。しかし、互いの作品のよさを伝え合う場面や、自分の作品を見て題名を考える場面では、上手く言葉で伝えることが難しく、言語活動の充実を図る必要があると感じた。	

1・2年	題材名 きょうりゅうがあらわれた（立体）
概要 「じぶんだけのきょうりゅうをつくろう」をめあてに、粘土を使って表し方を工夫し、自分の願いを実現させようと材料に働きかけ、創造することに喜びを見いだせるような活動内容とした。導入で絵本や図鑑などを見てきょうりゅうのおおまかな姿をいくつか紹介した後、自分が表したいきょうりゅうをイメージし、活動に入っていった。楽焼き用の土粘土をひねりだしたりつまみだしたりして、首や足のいろいろな形を見付けていった。また、「ねじれた首」「えさを持っている」「赤ちゃんが頭に乗っている」など、オリジナルの工夫も入れるよう促した。色付けして焼成した後、みんなの作品を集めて「ふどうきょうりゅうパーク」と題し、共同作品のように展示した。	
実際 「どんなきょうりゅうをつくってみたいかな」と問いかけながら活動を進めていった。    大きな口を開けてみよう。 子どもをだっこさせるよ。 ぼくだけのかわいいきょうりゅうができたよ。 粘土の色付けも初めて経験した。きょうりゅうが住む世界は、紙粘土を使って表現した。     火山や川もつくろう。 できたよ。ふどうきょうりゅうパーク！ 下の方からのぞいてぬろう。	
成果と課題 ひねりだしなど粘土の扱いが難しい児童には一緒にやってみたり、やり方を見せたりして自分のイメージした物に近づくよう支援した。粘土の特性として、「つくり つくりかえ つくる」が何度も繰り返される利点を生かし、足の広げ方や首の向き、口の開け方などをいろいろ変えながら自分の気に入った形になるよう試す姿が見られた。楽焼きのため、色付けで工夫することもでき、思い思いに「自分だけ」のきょうりゅう作りに取り組めた。ただ、今回は机を離して個々の活動にしてしまったが、互いの作品をさまざまな角度や方向から見たり、話をして思いを広げたりしながら活動できるようなグループ活動に設定した方がよかったと感じた。	

1・2年	題材名 つるして ゆらゆら (工作)
概要 本題材は、紙コップや紙皿などの身近な材料にさまざまな加工を加えて、形を変えることを楽しむ題材である。材料には、給食に出たデザート空きカップや、色画用紙を切断したときにできた端切れなども利用し、SDGsの視点から制作に取り組めるよう工夫した。また、入学して間もない1年生には、はさみの使い方も確認し、練習できる内容となっている。完成した作品は、廊下の天井からつるして、たくさんの人の目に触れるよう配慮した。窓から風が流れ込むと、作品が揺れたり、くるくる回ったりする様子を見て、楽しい気分になったり、「すてきだね。」と声をかけてもらったりして、自分の作品への愛着を高めることができた。	
実際 紙コップに切り込みを入れたり、紙皿をらせん状に切ったりしてつるして揺れたときに、楽しくなる方法をいろいろ試す様子が見られた。	
成果と課題 日頃から、材料を集めておくことで、活動の幅を広げることができた。児童も、普段から「これ、図工に使いそう。」などといって、身近な材料を造形活動へ活用しようとする意欲が高まってきている。また、作品を他学年も通る廊下にすることで、たくさんの人の目に触れ、ほめてもらうことができ、作品を通して人とつながり合うこともできた。 今回は、はさみを使う題材であったが、連続して切り進めていく技能に課題が見られた。授業に入る前に、もう少しはさみの扱い方について練習する時間が必要だったと感じた。また、自分なりの発想で飾りを考えることに悩む児童がいたため、アイデアが浮かばない児童への手立てを考える必要があると感じた。	



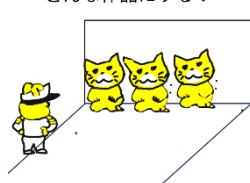
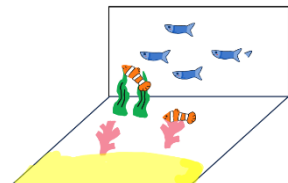
細い紙の先をくるくる巻いてみるとおもしろいな。

つるして飾ると揺れてすてきだね。

空きカップをたくさん重ねてみると、楽しくなったよ。



1・2年	題材名 のりのりおはながみで（工作）
概要 本題材は、お花紙を手でちぎったり、はさみで切ったりしながら、自分が好きな並べ方や重ね方を見つけて洗濯のりで固め、工作に表すものである。普段あまり触れる機会の少ないお花紙を使ってできそうなことを考えながら、お花紙を折ったり丸めたりなどいろいろと試し、工夫して活動していた。完成した作品を光に透かして見ると、お花紙の良さが出て見え方や感じ方が変わり、子どもたちは喜んでいる様子だった。	
実際 色の違うお花紙を重ねて色の変化を感じたり、大きさの違うお花紙を丸めて、小さい順に並べたりする姿が見られた。  この色を重ねると きれいだな。 お花紙を丸めると どうなるのかな。  自分で海や空などの世界を想像し、そこに住む生き物などを、どのようにお花紙を使えばつくることのできるのかを考えながら、表現していた。  	
成果と課題 第1時の活動の初めに、みんなで一緒にお花紙を「折る」「ちぎる」「丸める」など、お花紙でできることを共有した。そうすることで、自分のイメージに合うように工夫して作品に表すことができた。第2時では、お花紙で構成したものにのり水を染み込ませ、タオルで押さえて乾燥させた。完成後は、作品に光を当てるとして鑑賞し、透け感のある色の感じを味わった。 課題としては、子どもたちは、お花紙を重ねることによってどのように色が変わるのかをイメージできていなかったため、重ねるという思考にならなかったことが挙げられる。お花紙を重ねることのよさを子どもが実感できるような導入の工夫があれば、いろいろな色のお花紙を重ねて色の変化を味わったり、光に透かしたときの見え方を工夫したりできていたと考えられる。また、今回の授業で児童同士での対話がほとんど見られなかったため、グループごとにお花紙でできそうなことを話し合うような時間を取ってもよかったと感じた。	

3・4年	題材名 本から飛び出した物語（工作）
概要 本題材は、自分の紹介したい本の一場面から発想を広げ、つくり方を工夫しながら工作に表していく。絵の具を混ぜた紙粘土を使って、児童が選んだお気に入りの場面を段ボールの土台に立体的に表現していく。紙粘土でできた形は乾かした後に、土台に接着していく。具体的に表現したいイメージをもっている児童にもリアルな表現を追求するのではなく、一つ一つの表現は単純化させてつくるようにアドバイスしたり、面白い、楽しいと感じられるように肯定的な声かけをしたりした。完成した作品は児童玄関に飾ることで、全児童に鑑賞してもらうことを意識した、こだわった作品づくりができた。	
実際 選んだ本について、ロイロノートを用いて、どのページを作品にするのか選び、作品のイメージをイラスト化した。 ①本の題名 「ふしぎな ひきだし」 ②作品にしたい場面・ページ ・ページ「14・15ページ」 ・場面「子供たちが花畑で遊んでいるところ」 ①本の題名 「小さなりゅう」 ②作品にしたい場面・ページ ・ページ「53ページ」 ・場面「竜の子供が山の上から炎を出す場面」 どんな作品にする？  どんな作品にする？  イメージが決まったら、紙粘土に色を混ぜて作品づくり。台紙に紙粘土の作品を貼り付けていく。   どんなキャラクターにしようかな。 完成した作品をみんなに見てもらう。   作品例	
成果と課題 図工が好きな児童が多い中、粘土を使った作品づくりに苦手意識があるという声が数名から聞かれていた。しかし、製作に取りかかると、どの児童も意欲的に作品づくりを進めることができた。イメージする作品に近づくことに苦戦している児童も、教師が肯定的な声かけをしたり、サポートしたりすることで楽しみながら作業をすることができていた。 今回選んだ本は、児童が普段から読み慣れた本が多かった。挿絵のキャラクターや登場物を作品に近づけたいという意識が強く、よりイメージを膨らませ、表現することが十分ではなかった。製作に取りかかる前に、表したい場面についてキャラクターの気持ちを考えたり、表現したいポイントなどを考えたりしておくことなどが必要だったと感じた。	

3・4年	題材名 空きようきのへんしん（工作）
概要 本題材では、空き容器から自分の生活が楽しく、豊かになるものをつくる活動を通して、自らの生活を基にして発想や構想をする力、思いに合わせて工夫する力、形や色などに関わり生活を豊かに創造しようとする態度を養う。 児童は、作品に何を入れるか、どこに置くか、どんな形や色にするかを考え、用意した空き容器を様々に組み合わせていた。容器の接着には粘着テープを用意し、ペットボトルなどの容器を加工して使いたい児童にはきりで穴を開けてリサイクルばさみで切る方法を伝えた。組み合わせた容器に紙粘土を貼り付けていき、容器を変身させていく。タブレット端末で容器を写真に撮り、どのように紙粘土を貼り付けていくか、色粘土の量も見当を付けておくために簡易の設計図を作った。最初に容器を覆うように土台となる粘土を貼り付け、その上から飾りや模様などを付け、製作に取り組んだ。	
実際 タブレット端末を用いて①何を入れたいか②どこにおくか③どんな入れ物にするか（形や色）について考えた。紙粘土の設計図は、組み合わせた容器を写真に撮り、画像に記入することでイメージを膨らませて製作に臨んだ。 つくりたいものを 思いうかべよう 「せっけい図」をつくろう いちごやぶどうを付けよう。 何をかざろうかな。 まわりをしっかりと覆うよ。 荷台の部分が動くんだね。	
成果と課題 児童は、様々な容器を用途に合わせて選び、加工したり粘着テープで組み合わせたりしながらイメージを膨らませていった。一人一人が自分なりの発想で想像を広げて、表すことを楽しむ姿が見られた。空き容器を組み合わせて芯となる部分ができた後、色粘土を貼り付けていったが、容器全体を覆っていく作業が思ったより難しかった。必要な色をどのくらいの分量つくればよいのか見当をつけたり、少しずつ薄くのばして貼っていたりすることを丁寧に説明してから進めた方がよかったと感じた。また、鑑賞のポイントも造形的な視点を示し、着眼点を明確にすることが必要であった。	

5・6年	題材名 木と金属でチャレンジ（工作）
概要 本題材は、木材や金属の加工技能を組み合わせる総合的に発想しながら表現したいものをつくる内容である。流木や運動場に落ちている木の枝を集め、自然にできた形を生かした面白さを見いだせるようにした。また、部分的に木材を利用して表現した児童もいた。接着はボンドのみとし、針金を固定するものとしても使うことを考えることができるように工夫した。完成後は、MetaMoji に写真とともに振り返りを書き込んだり、友達と作品を見合い、鑑賞をしたりした。	
実際 第1次： 流木や運動場に落ちている木の枝を見たり拾ったりしながら、作りたいオブジェをイメージした。その後、針金でどのようなことができるかを考えた。針金に触れることで、曲げたり何かを留めたりする他に、2本束ねてねじっていくと飾りにもなることを発見していた。	
第2次： 木と金属を組み合わせ、工夫しながら自分のイメージしたオブジェをつくった。	
 木に穴を開けて木を差し込むと、高さを出せそう。	 穴に針金を差し込んで巻くと、接着剤なしで固定できそうだなあ。
	 作品例「公園」
成果と課題 最初に流木や木の枝を見たり拾ったりすることで、つくりたいもののイメージができ、活動がどんどん進んでいった児童が多かった。また、木や針金といった身近な材料を使ってものをつくりだす楽しさを味わうことができた。導入で、児童と一緒に木を探したり針金でできることを考えたりすることで、「こんなものをつくりたい。」というイメージをもちやすかったと感じた。 一方で、つくりたいもののイメージが浮かびにくかったり、針金との組み合わせ方を考えにくかったりする児童や、オブジェというイメージが定着していないために、作品の完成がイメージしにくかった児童もいた。導入で、材料をどのように使ってどんなものをつくるのか、児童と共通認識できるような、導入のさらなる工夫が必要であると感じた。	

1・2年	題材名	すきな かたちや いろ なあに（鑑賞）
概要 本題材は、大きな段ボール板の上に広げられた、身の回りにある様々な物を見ながら、自分の好きなものや気付いたことを自由に話したり、友達の好きなものを聞いたりすることを通して、いろいろな形や色に気付くことをねらいとしている。また、見付けた好きな色について理由を尋ねることで形や色に関する発言を引き出したり、「似ている形」や「同じ色」などと比較するように促したりして、造形的な視点で見ることを提案する。児童が同じもの、違うものに関心をもってのことを取り上げ、そのことに共感したり感心したりして見せることで、児童が自分なりの見方や感じ方で捉えることの大切さを感じ取れるようにする。		
実際 「じぶんのすきな かたちやいろ、にている かたちやいろを みつけよう」のめあてを確認すると、板のまわりにみんなで集まり、どんなものがあるか見て、その中から自分の好きなものを探した。 いろいろなものがあるね。どれにしようかな。 わたしはこれがすき。花の形がかわいいから。 次は、形や色が似ているものを探し、見付けたことを伝え合った。「まるい」「さんかく」といったものから、「とがっている」「細長い」「〇〇のような」といった言葉へと広がっていき、自然とよく似たものを集めたり、仲間分けをしたりしながら活動を楽しむ様子が見られた。 さんかくのものは、ここに集めよう。 児童が見付けた似ている形や色		
成果と課題 本来、教科書の図版を拡大して行う学習であったが、児童がものと出合ったときの感動や気付きを広げるために、今回は実物を使って学習した。入学して間もない1年生は、言葉での表現がまだ十分でないため、教師がつぶやきをひろったり、気付きや思いを引き出したりしながら学習を進めた。2年生は昨年の経験もあり、多様な言葉で表現することができており、1年生にとってよいモデルとなった。今後も、造形的な面白さを感じ取ったり、語彙を増やしたりするような活動を進めていきたい。		

1・2年	題材名	めだまでへんしん（鑑賞）
概要 本題材は、身の回りにあるものに目玉を付けることで、命が吹き込まれ、生きているかのように変身する面白さを感じながら、日常の生活空間やものの形への関心をもたせることがねらいである。本時のめあてとタブレット端末（パドレット）の操作について確認した後、活動に移った。 活動は、大小2種類の目玉とタブレット端末を持って教室内や学校の中を歩き、目玉を付けると面白そうなものを探すといった内容である。自分が目玉を付けて変身させたものはタブレットで撮影し、パドレットに貼り付けた。教室に戻った後は、撮影したものを友達と見合い、面白さや楽しさを伝え合った。		
実際 学校の中を歩き回り、教室や廊下にある身の回りの様々なものに目玉をつけて、生き物のように変身させる姿が見られた。目玉の裏には練り消しゴムを付けておき、何度も貼り変えながら複数枚撮影していった。 楽器や学校の備品など、みんなそれぞれ違ったものに目玉を付けて、楽しく変身させていた。活動が終わった後も、しばらくそのまま残しておくのと、校内で他学年の児童が見つけて楽しむ様子が見られた。 作品例		
成果と課題 目玉を付けるときの感覚や行為を通していろいろな形に気付くことができていた。また、身の回りのものの形の造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げていることが感じられた。タブレット端末で撮影することで、変身させたものをたくさん保存したり、後で友達と見返したりすることができるといよかった。しかし、写真を撮影して紹介し合っただけで終わってしまったため、お互いにじっくり実物を鑑賞できるとよかったと感じる。今回は1人2種類用意した目玉を何度も付け替えて変身を繰り返したため、写真でしか記録が残らず、実物を見て面白さや楽しさを目で感じられると、さらに学びが深まったように感じる。目玉をもっとたくさん用意し、全員が一通り撮影した後、そのまま残して後からも鑑賞できるようにするなど、改善できる点はあると感じた。		

概要

絵を見て感じた音のイメージを形や色に表すことを通して、互いの感じ方の違いやよさを味わい、楽しみながら見方や感じ方を深めることをねらいとする鑑賞の題材である。

まず、1枚の絵を眺めて、聞こえる音について話し合った。たくさんの音を見つけた後に、音のイメージを画用紙にクレパスで表現する活動に移った。形や色を言葉のように使う造形的な感覚の面白さを味わい、何枚もかけるようにした。それぞれがかいたものを班や全体に紹介し、感じたことを伝え合った。

実際

1枚の絵から見つけた音について話し合った。音を見つける中で、絵の細部まで想像を働かせ、絵の雰囲気について考えたりしていた。



まるいものが何個も
転がっていて、「ゴロ
ゴロ」って音が聞こえ
てくるよ。



画用紙の大きさを正方形にし、カードのように小さくすることで、天地の区別なく捉えられるようにした。画用紙の枚数も1枚に限らず、何枚も製作することができ、友達の製作の様子を見て、もっとかきたいという思いをかき立てられていた。

個人のタブレット端末でも絵の鑑賞ができるようにし、ズームして細かい部分まで目を配り、形や色の組合せを楽しんでいた。



画用紙を見せ合ったり、並べたりして、同じ音だと似ている線がかいていることや自分とは違う表現の仕方をしていることに気づき、面白さを感じていた。

成果と課題

絵を見て、感じたことを話したり、感じたイメージを形や色に表したりすることができた。「絵の色が暗い感じがする」「まだ夜明けなのかな」「日が暮れる時間なのかもしれない」と友達の発言から想像を膨らませていた。また、感じた音を表現するときには、形や色を言葉のように造形的な感覚の面白さや楽しさを味わっていることが感じられた。しかし、今回の授業では鑑賞と表現を往還し、それぞれの学びを深めていくことに難しさを感じた。1枚目の絵では、全体で対話的に鑑賞した。2枚目は発展的に自分で音を探すように設定したが、2枚目の絵の方が同じような音を選んでカードに表現していたため、もっと時間をとって鑑賞を行うべきだった。また、鑑賞の場を班やペアなどに設定することで、さらに見方や感じ方が変わったり広がったりして表現の面白さが広がったように感じた。鑑賞活動において、対話的に鑑賞するよさが改めて分かった。

2 全校での取組

(1) アートタイム

本校では、朝の時間に基礎学力の向上のためにモジュール学習等を行う15分間の「不動タイム」を実施している。その時間に、昨年度から図画工作科の取組として、月に一度「アートタイム」を行い、図画工作科に関わるスキルアップの時間として設定した。

ここでは、授業で使う用具の扱いに慣れたり、想像力を膨らませてデザインなどを考えたりする経験を通して、授業の中で自分のイメージや思いを表現する力に繋げることを目的としている。内容は、15分間でできて児童が達成感を得られるようなものに設定した。また、多くの作品に触れ、見る楽しさや友達との感じ方の違いを味わうことができるよう、アートカードによる鑑賞活動も取り入れた。

アートタイム実施計画（R7年度）

	低学年		中学年		高学年
5月	はさみ名人になろう ＊ちよきちよきかざり		はさみの使い方を練習しよう		デッサンあそび
6月	いろいろぬりえ		チョンチョン塗りあそび		ボンドの使い方を練習しよう
7月	ねん土をつかったあそび		色を塗り分けるあそび		色を塗り分けるあそび
9月	色ぼかし		にじみ絵		マーブリング
10月	クレパスでぼかしあそび ＊おはなしだいすき		クレパスを使ったあそび ＊ことばから思いうかべて		ドリップングあそび
11月	アートカードをつかって		アートカードをつかって		ラジオペンチの使い方を練習しよう
12月	絵の具を使ったあそび ＊うつしたかたちから		文字や数字をアレンジするあそび		アートカードをつかって
1月	のり・ボンド名人になろう ＊はこでつくったよ	カッターナイフ名人になろう ＊まどをあけたら	ボンドの使い方を練習しよう ＊いろいろうつして	彫刻刀の使い方になれよう ＊すってほって見つけて	スチレンボード版画 ＊ほり進めて刷り重ねて
2月	お花紙を使ったあそび		のこぎり・くぎ打ち ＊トントン どんどん くぎうって		お花紙を使ったあそび

*は、関連する題材名



【児童玄関にアートタイムでの活動を掲示】

アートタイムで製作した作品は児童玄関に掲示し、お互いに鑑賞し合うことができるようにしている。月ごとに掲示される他の学年の作品を見て、色づかいの良さを実感したり、新たなアイデアを発見したりすることができている。鑑賞し合ったことで、次のアートタイムで見る人を楽しませるようなオリジナルのデザインを意欲的に考えたり、図工の授業で色の塗り方を工夫したりする児童が増えた。

1・2年生の取組



【接着剤をつける練習】



【オリジナルのデザインを考える様子】

3・4年生の取組



【絵の具の練習】



【タブレットを使ったドット絵の製作】

5・6年生の取組



【マーブリングを行う様子】

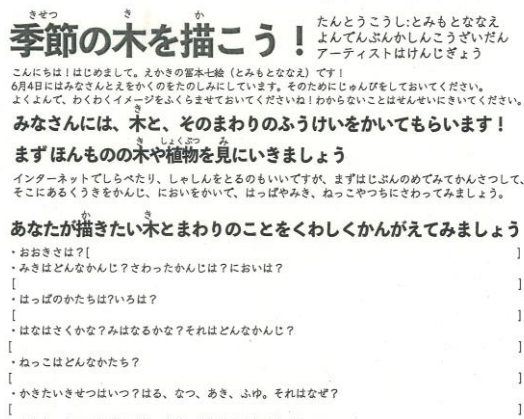


【道具を扱う練習】

(2) 絵画教室

「よんでん文化振興財団アーティスト派遣事業」を活用し、日本画家の富本七絵先生を講師にお招きし、「季節の木を描こう」と題して、全校児童を対象に絵画の授業を行った。

富本先生からは、事前にワークシートが送られてきて、授業で木とその周りの風景をかくこと、事前に本物の木や植物を見てわくわくイメージを膨らませ、自分がかきたい木について考えておくよう書かれていた。児童は、木に触れたり、観察したりしながら、自分のかきたい木や場면을想像していった。



ワークシート（一部）



木の声を聞いてみよう

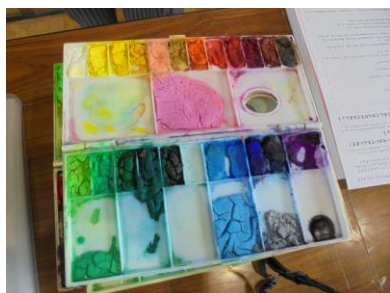
授業当日、事前に書いたワークシートと絵の具セットを持って全校児童が体育館に集まった。初めに、富本先生から「かくことは、見ること、感じること、考えること、かく前によく見てよく考え、イメージを膨らませることが大切だ」というお話があった。また、見たとおりや本物そっくりにかく必要はないといったことをスライドを使ってわかりやすく説明していただいた。

富本先生から「ダーマトグラフ」というワックスを含んだ軟らかくて太い芯の色鉛筆をお借りし、自分のかきたい木の下絵をかいていった。とてもなめらかなかき心地で、児童は自分の使いたい色を選び、思い思いに幹や枝、周りに広がる葉や花、生き物、自然などを夢中になってかき進めていった。アイデアの浮かばない児童には、ワークシートを見返すことで、自分がかきたかった場面を振り返って確認することができた。



また、富本先生と話をすることで、想像が膨らみ、新しくかきたいものが広がっていく児童もたくさん見られた。

その後、自分の絵の具セットを使い、好きな色で彩色していった。富本先生がたくさんの色の絵の具が並べられたパレットをいくつかご準備くださり、自由に使っていいとのことであった。児童は、提供されたパレットも使い、楽しみながら色をつけていった。



全校児童での実施は今回が初めての試みであったが、途中で他の学年の絵を見て回ることができ、そこで新たな発見や気づきが得られるのがとてもよいと感じた。児童は、自分のものとは違った形や色の木を見て「すごい」「おもしろい」「きれいな色」などと口々に自然と感想を述べていた。また、全学年一斉にすることで、低学年から高学年と上がるにつれてかけられるものや構図などが、学年の発達段階に応じて変わっていく様子を一度に見ることができ、大変勉強になった。

2時間の授業で、ほとんどの児童の「自分だけの木」が完成した。児童からの感想では、「絵が苦手だったけど、今回の学習で少し絵が好きになった」「とても楽しくてまたやりたいと思った」「木といってもいろいろな木がかけるということがわかった」という声が聞かれた。本校の児童の中には、絵に苦手意識をもった児童が何名かおり、普段の授業でもなかなか筆が進まないといった現状があるが、今回のように事前にかきたいものについて見たり考えたりする活動を確保することで、安心して活動に取り組めるということがわかった。

完成した全作品は、廊下の壁面にまとめて掲示することで、一度に見ることができるようにした。自分の好きな作品を見付けたり、他学年の作品も鑑賞し合ったりすることができ、保護者にも見ていただけるよい機会となった。



(3) スマイルアート集会

ねらい

異年齢集団（スマイル班）で造形的な活動を楽しむことで、個々の児童の感性を伸ばし、表現力の向上を図る。

①第1回スマイルアート集会 ペットボトルキャップアートをつくろう
～ふるさと不動 たなばた祭りにおきて～

活動の実際

- 1 黒いプラスチック段ボールの中央に白いキャップを敷き詰め、天の川をつくった後、その周りに各班が考えた絵柄を好きな色のキャップを並べる。
- 2 木工用接着剤でできた絵柄や文字を貼り付ける。
- 3 振り返りをする。

【活動の様子】



後日行われた「七夕集会」で、各班のキャップアートが披露された。これらは七夕集会で飾り付けた笹飾りと一緒に学校近くの赤池川沿いに設置された。そして、しばらくの間、近くを行き来する地域内外の人に楽しんでもらうことができた。



②第2回スマイルアート集会 手形アートをつくろう
～掲示板を美しく飾ろう～

活動の実際

- 1 スマイル班ごとに、段ボール板に手形で大きな花の絵と「ス」「マ」「イ」「ル」の各文字を手形で作成する。
- 2 振り返りをする。

【活動の様子】



出来上がった8つの大輪の花が、児童玄関を明るく美しく彩った。「スマイル」の文字をめくると、中に楽しい仕掛けもあり、児童が楽しむ様子が見られた



【完成した掲示板】

③第3回スマイルアート集会 しゃぼん玉アートをつくろう
～ようこそ 不動小学校へ～

活動の実際

- 1 集会当日までに、各学級で「しゃぼん玉の絵」をつくり、集会に持ち寄る。
低学年・・・クレパスを使った「ぼかし」の絵で
中学年・・・絵の具を使って「にじみ」の絵で
高学年・・・マーブリングで
- 2 スマイル班ごとに、水色の模造紙に空き容器などを使って円い形（白）をスタンピングする。
- 3 各自がつくったしゃぼん玉をその上に並べる。
- 4 4つの班の作品を合体させて、1枚の作品にする。
- 5 振り返りをする。

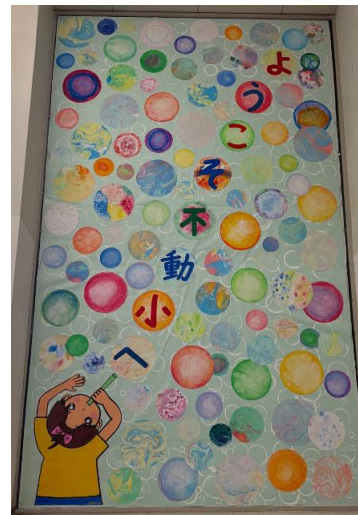
【活動の様子】



できた作品は職員室に上がる階段の踊り場に設置され、不動小学校を訪れた人たちを、明るく出迎えている。



【完成した作品】→



④第1回スマイル鑑賞会

低・中・高学年の各教室・各学年廊下掲示・体育館等に作品を掲示・展覧し、他学年の作品を鑑賞する。

活動の実際

- 1 各教室で活動内容の説明をする。
- 2 クラスごとに、校内に掲示してある作品を鑑賞してまわり、資料「ことばであらわそう」の中にある言葉を参考にしながら、作品を見て感じたことをワークシートに記入する。
- 3 全員、体育館に移動し、高学年が作成した「かがやきオブジェ」の作品を鑑賞する。高学年は自分の作った作品の後方に立ち、見に来てくれた人に工夫したところなどを説明する。最後に電気を消し、暗闇の中で輝くオブジェを鑑賞する。
- 4 振り返りをする。

【活動の様子】



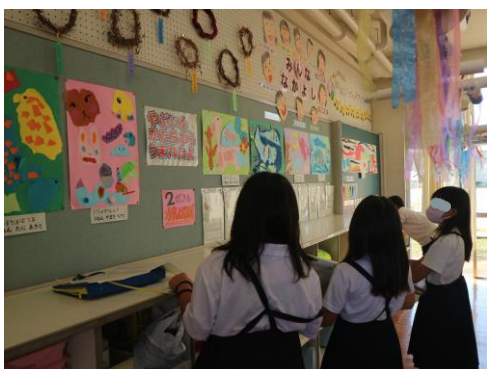


⑤ 第2回スマイル鑑賞会

活動の実際

- 1 児童玄関に集まって活動内容の説明をする。
- 2 低学年、中学年、高学年に分かれて校内に掲示してある作品を鑑賞してまわり、資料「ことばであらわそう」の中にある言葉を参考にしながら、作品を見て感じたことをワークシートに記入する。
- 3 振り返りをする。

【活動の様子】



(4) 県立近代美術館での鑑賞

3・4年生が徳島県立近代美術館を訪れ、展示されている絵画や彫刻・工芸品など様々な美術作品を学芸員の方の解説のもと、鑑賞した。作品のよさや面白さ、表し方などについて考えることを通して、自分の見方や感じ方を広げるきっかけとしたい。

活動の実際

見学者は2グループに分かれ、学芸員の方に案内していただき、作品の鑑賞を行った。
鑑賞①対話型の鑑賞

作品から感じることや思うことを児童からたくさん聞き取りながら、作品の時代や作者・作品の特徴について話してくださった。(以下 ○学芸員 ●児童 の発言)



- 何に見えますか。
 - 人に見えます。
- どんな気持ちだと思いますか。
 - ケンカをしている。
 - 楽をしている。
- 他に何かかかれていますか。
 - 文字が見える。
 - 「P」みたいな。
 - ぼうしみたい。
- この絵は90年前に描かれた…(解説)

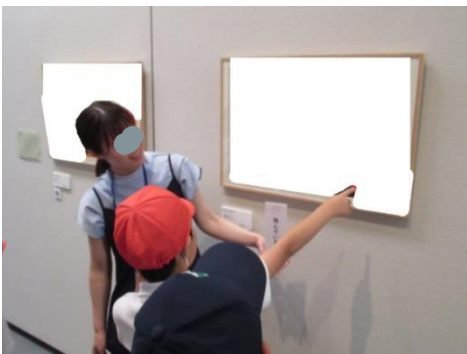


- 作者と作品名について…(解説)
絵を見てどう思いますか。
 - 目や耳がへんです。
 - 前か横か(向きが)分からない。
 - 鼻の場所も不思議。
- どっちを向いていますか…。
作者は、色んな方向から見た絵を描きたかったそうです…。



鑑賞②ワークショップ型の鑑賞

学芸員の方から受け取った「にぎやかで賞^{しょう}」などといった賞名に合う作品を児童が審査員役となって選び、そう考えた理由について伝え合った。



○「あたたかいで賞」「おながすいで賞」

この賞を置いたのはどうしてですか。

●絵の中にいろんな人がいて、あたたかい（雰囲気）と思ったから。

●食べ物がたくさんならんでいて、おいしそうだったから。

○「飛んでいるで賞」

●白い部分が鳥が飛んでいるように見えるから。
それを赤い人が見ているように見えるから。

○「するどいで賞」

●サメとヘビが合わさったように見えるところが
するどい感じがするから。

学芸員の方は、児童の発言をどれも肯定的に聞いてくださり、それを基に作品の特徴や作者が作品に込めた思いなどを丁寧に説明して下さった。今回、展示されていた作品は他にも、間違い探しとして鑑賞したり、完成品と製作途中の作品を並べて、どの部分が対応するかをクイズにして解説して下さったりもした。それにより、年齢に関係なく、作品の注目するポイントや、作品が完成するまでの過程についても学ぶことができた。

絵画・彫刻・工芸品など様々な作品がある中で、児童は、最後まで関心をもって鑑賞することができた。専門家の方から学ぶことで、児童も様々な作品から感じたことをたくさん発言し、自分の見方や感じ方を広げる貴重な経験となった。



(5) ことばであらわそう

自分の思いや考えを伝える際、表現する言葉が思い付かず、限られた言葉になってしまふことがある。児童がより表現しやすく、感じ方や見方・考え方に広がりをもてるよう、「ことばであらわそう」のカードを見安小学校の事例をもとに作成した。鑑賞や振り返り等の場面において、児童が参考にしやすいよう、言葉ごとにカードにしている。また、分類項目を「かたち・もよう」「いろ」「イメージ」の3つにわけ、鑑賞等で活用している。

【1・2年生】

かたち・もよう	いろ	イメージ
〇〇みたい・〇〇っぽい	あかるい	〇〇のような(たとえ)
あな	あざやかな	あかるい
うすい	あたたかい	あたたかい
うずまき	あやしい	あやしい
おおきい	うすい	いきいきとした
かくかくした	おちついた	うつくしい
かさなった	かがやいた	おだやかな
ギザギザ	かすれた	おちついた
ぐるぐる	キラキラ	おとなしい
ごつごつした	くすんだ	かなしい
さんかく	くらい	かわいい
しかく	こい	きらきらした
しましま	こわい	くらい
せん	さむい・さむそう	こわい
たいら	さわやかな	さわやかな
ちいさい	じみな	しぜんな
ちぢむ	すきとおった	シンプルな
つぶつぶ	すずしい	すっきりした
つるつる	つめたい	たのしい
でこぼこ・ぼこぼこした	どんよりした	ちらかった
てんてん	はでな	つよい
とがった	ピカピカ	どっしりした
とげとげ	ふしぎな	なつかしい
とびでた	ほっとする	にぎやかな
ながい	まぶしい	はくりよくがある
なめらか	やさしい	はげしい
ねじれた		ふんわりした
のびる		やさしい
はながた		わくわくする
ぶあつい		
ふくらんだ		
ふとい		
ふわふわした		
ほしがた		
ほそい		
まがった		
まっすぐ		
まるい		
みかづきがた		
みじかい		

【3・4・5・6年生】

形・もよう	色	イメージ
〇〇みたい・〇〇っぽい	明るい	〇〇のような（たとえ）
あな	あざやかな	明るい
うすい	あたたかい	あたたかい
うずまき	あやしい	あやしい
大きい	いやし（いやされる）	あらあらしい
かくばる	うすい	生き生きとした
かさなった	落ちついた	いきおいがある
ギザギザ	かがやいた	うつくしい
ぐるぐる	かすれた	おくゆきがある
ごつごつした	キラキラ	おだやかな
こまかい	くすんだ	落ちついた
三角	くらい	おとなしい
四角	こい	かなしい
しましま	こわい	かわいい
線	さみしい	きらきらした
たいら	さむい・さむそう	くらい
小さい	さわやかな	高きゅうかんのある
ちぢむ	しぶい	心にひびく
つぶつぶ	じみな	こどくな
つるつる	じょうねつてきな	こわい
でこぼこ・ぼこぼこ	上品な	さびしい
点てん	すきとおった	さわやかな
とがった	すずしい	しぜんな
とげとげ	すんだ	親しみのある
とびでた	せいけつな	シンプルな
長い	つめたい	すっきりした
なめらかな	どんよりした	するどい
ねじれた	はっきりとした	そぼくな
のびる	はでな	楽しい
花がた	ピカピカ	ちらかった
ぶあつい	ふしぎな	強い
ふくざつ	ほっとする	ときめく
ふくらんだ	まぶしい	どっしりした
太い	目立つ	なつかしい
ふわふわした	やさしい	はく力がある
へこんでいる		はげしい
星がた		はなやかな
細い		バランスがとれている
まがった		ひかれる
まっすぐ		ひんやりした
丸い		ふんわりした
三日月がた		まとまった
短い		やさしい
みぞ		ゆったりした
		わくわくする

(6) 特別支援学級での取組

特別支援学級では、手先をしっかりと動かし粘り強く取り組むことができるようにするとともに、相手意識をもった学習活動を重視して、個々の児童の自立活動や生活単元学習の指導内容を充実させている。特に、季節に合わせた製作の学習活動を行い、自分たちが製作した学習内容で、まわりの人々を明るく楽しくしていることを経験させる実践を行っている。

4月には入学したばかりの1年生を楽しませたいという児童の思いから、チョウのおもちゃを製作し、廊下に掲示した。楽しんで遊んでもらえるように、製作した児童が各教室に行って遊び方の説明をした。人前で話すのが苦手だった児童も、1年生に喜んでもらいたいという気持ちで一生懸命話していた。



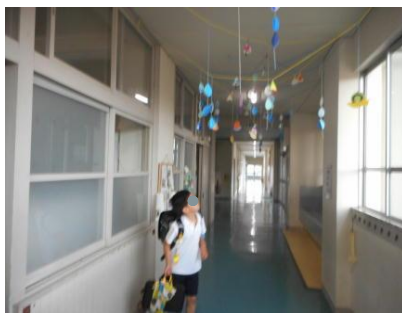
【4月 チョウのおもちゃ】



【5月 こいのぼり】



【6月 あじさいと雨】



【7月 夏の楽しみ（絵手紙）】



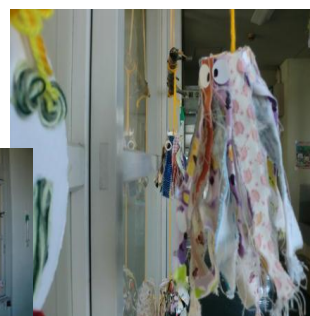
【9月 お月見】



【10月 ハロウィン】



【11月 みのおし】



12月には、みんなで協力して大きなクリスマスツリーを作った。校内で剪定された木々を集め、高学年がのこぎりの扱い方をサポートして楽しみながら取り組んだ。また、ツリーの飾り付けでは、毛糸が緩まないよう枝に巻いたり結んだりする作業を繰り返すことで、コツをつかみ、教師が見守るだけでも仕上げられる児童が出てきた。



【12月 クリスマスツリー】

2月には卒業生の門出を祝う掲示物を作った。これまでの製作の経験を生かして、自分で見通しを持って製作することにした。特に、相手の目を見て「○○ください。」とやり取りすること、困ったときには手を挙げて知らせること、後片付けまできちんとすることを重視した自立活動を行った。普段は、顔を見てコミュニケーションを取ることが難しい児童も、相手の目を見ることを意識して接したり、製作物が仕上がると片付けを忘れてしまう児童も片付けまでが活動だと受け入れたりすることができた。また、指導する教員も児童が困り感を感じる前に手助けしすぎていたことを反省することができた。将来児童たちが、人の手をかりつつ自分の生活を豊かにできることにもつながるような学習活動になった。



【2月 卒業おめでとう】

成果と課題

通常学級での図画工作科の交流において、児童が困り感をもつと考えられる内容を特別支援学級で事前に経験することで安心して交流ができればと考えている。のりの量や付け方など技能面においても、個々の児童によって経験を積む必要があるため、今後どのように指導内容を盛り込んでいけるかが課題である。また児童は苦手なことで困り感をもって相手意識をもつことで、手助けを求めるなど意欲的に取り組むことができた。今後は相手意識をもたせることによって児童一人一人が相互に理解を深められるようなコミュニケーションのとれる学習に取り組んでいきたい。



3 感性を育む環境づくり

(1) 図工室の環境整備

① 用具の整理

使いたい用具の場所が一目で分かり、すぐ取り出せるよう用具類の整理を行った。また、学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い（2 内容の取り扱いと指導上の配慮事項）」で示されたものや、本校で作成した「技能系統表」、教科書に載っている用具などと照らし合わせながら、安全面や数量、適切な配置を考慮しながら整備した。



【使いやすさを考慮した配置や収納】



【安全面で配慮が必要な用具は図工準備室に配置】

② 材料集め

材料については、保護者や教職員に協力を呼びかけ、家庭などで出た空き箱、空き容器、芯材などの身近材を年間を通して集め、ストックしている。また、どんぐりやまつぼっくり、流木、木切れ、竹などの自然物も種類ごとに分けて整理し、いつでも取り出せるようにしている。さらに、地域の企業や施設から譲り受けた段ボール板や、梱包材なども造形活動に活用できるよう図工準備室に常備した。ただ、学校や教職員が何もかも準備するのではなく、児童が自分のつくりたいものややってみたいことに合わせて必要な材料を自ら準備することも大切に行っている。「これは〇〇に使えるそう」と、日頃から児童が造形活動につながることを意識しながら廃棄するの材料として残しておくのか考えられるように声をかけている。児童が進んで材料を集めたり選んだりすることで自分の感じ方や考え方が広がり、主体的な造形活動へと結びつくことを期待している。



【いつでも使えるよう種類ごとに集めた材料】



【地元企業から譲り受けた段ボール板】

③掲示の工夫

図工室の入り口には、「図工って楽しそう」と思えるようにカラフルな教室表示を、教室前面には、「つくり つくりかえ つくる」の言葉や造形活動へ取り組む意欲付けになるメッセージを掲示している。また、教師用指導書に付いている大型図版や児童作品なども掲示し、参考にして自分の作品に生かす手助けとなるようにしている。

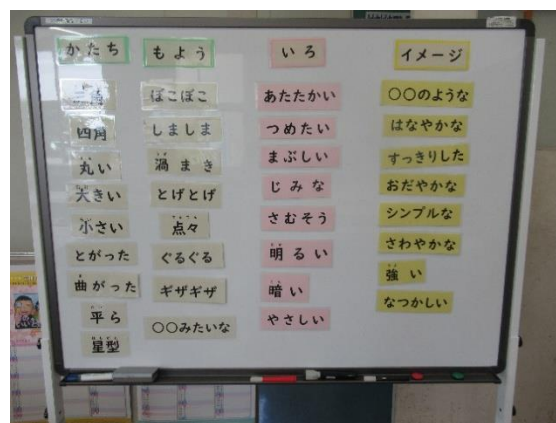
加えて、はさみやカッター、のりなどの用具の扱い方や技法を示した指導用パネルを作り、図工室だけでなく別の教室へと持ち運び可能にした。図画工作科に関する語彙を増やすための本校独自の「ことばであらわそう」は、ことば一つ一つをカードにして黒板やホワイトボードに貼り、作品づくりや鑑賞など様々な場所や場面で活用できるように工夫している。



【造形活動への意欲が高まるような掲示物】



【大型図版や児童作品を掲示した様子】



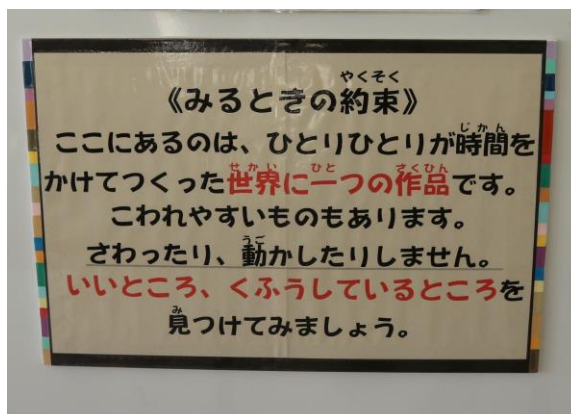
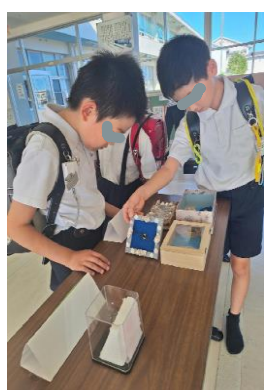
【移動可能な指導用パネルと「ことばであらわそう」のホワイトボード】

(2) 児童玄関のスマイル美術館

本校は、児童数の減少により一昨年３月に、児童玄関あった下駄箱を撤去し、簡単な集会や展示などを行えるスペースを確保した。低・中・高学年の作品を児童玄関に展示することで、他学年や保護者、来校者にも作品を鑑賞してもらうことができるようにした。また、児童が日常的に多くの作品に触れることで図画工作科への意欲を高めたいと考えた。

登校後や下校前、教室移動の際や休み時間などの時間に他学年の作品を鑑賞したり、参観日には保護者の方にも見てもらったりした。高学年が低学年の作品を見て、「かわいい」「私たちもつくったなあ」と昔を懐かしんでいたりと、低学年は、高学年の作品を見て工夫しているところや細かな作業に感心したりしていた。保護者の方は、我が子だけでなく、様々な学年の作品にも触れることができた。各学年で仕上がった作品を入れ替えながら展示することで、図工に親しみ楽しむことができている。

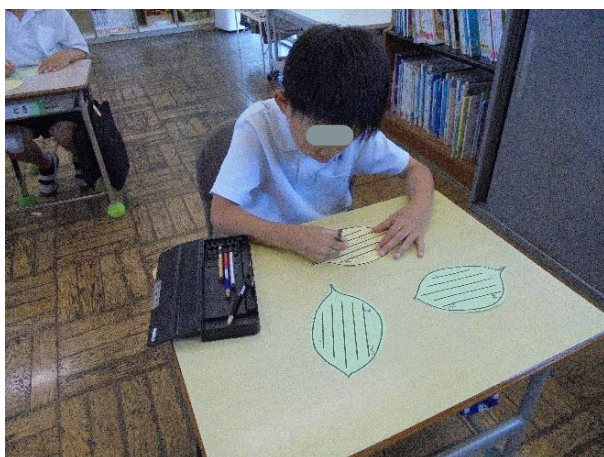
【鑑賞の様子】



(3) 校内掲示

① いいねの木

児童玄関に通年掲示している「いいねの木」には、児童が異学年の友達に対して、縦割り班活動のときなどに頑張っていたことや自分が言われて嬉しかったことなどを「ほめらレター」に書き、掲示している。季節ごとに変わる葉の色や好きな形の紙を自分で選んで書いている。これらは靴箱の周りに掲示しているため、誰でも登校してきたときに目に入るようにしている。いいねの木を見た児童からは、様々な形や色の紙が貼ってある様子を見て、色合いを楽しむ様子が見られる。また、自分が書いたものが貼られていたり、友達が自分のことを書いてくれているのを見付けたりすると嬉しそうにする姿が見られ、微笑ましい光景である。



【ほめらレターを書く児童の様子】



【児童玄関に掲示しているいいねの木】

② あったかいだん

校内の2か所の階段には、色画用紙に色の名前と児童の考えたふわふわ言葉を書いてラミネートしたものを貼り、「あったかいだん」と称して児童が色を意識したり関心を向けたりできるようにしている。色の濃淡や明暗が少し変わるだけで色の名前が変わることに気付き、色づくりなどの参考になるように考えた。また、日頃からここに書いてあるふわふわ言葉を友達に使っていくよう、学校全体として進めている。



【あったかいだんの一部】



【好きな言葉を選ぶ児童】

③教室プレート

教室名が一目で分かるように表示を製作し、表示した文字の周りにはスタンプやローラーを使ってカラフルな模様をつけた両面紙貼スチレンボードを取り付けた。模様は、スチレンボードにアクリル絵の具の赤、青、黄の3色を、下学年はスポンジ製のスタンプを使って、上学年はスポンジ製のローラーを使って付けた。



【下学年が作成している様子】



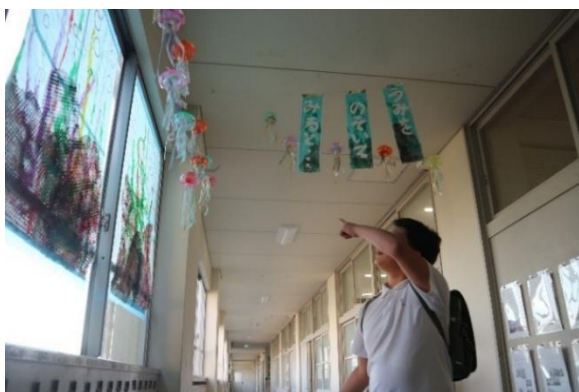
【上学年が作成している様子】



できあがったスチレンボードを切り抜き、教室プレートにはめ込んだ。表はスタンプで作成したもので、裏がローラーで作成したものというように、様々な模様を見て楽しめるようにした。

④吊るし飾り

特別支援学級前の廊下には、毎月季節に応じた製作物を掲示している。壁面だけでなく天井から吊るして飾ることで、風に揺られたり光を通したりして色や形が変化し、廊下を通る人たちを楽しませている。6月は梅雨の雨つぶ、8・9月は海を漂うクラゲ、10月はハロウィンのおばけと毎月かわる度に、「かわいい」「これはぼくがつくったよ」と鑑賞を楽しむ会話が飛び交う様子も見られた。



【自分の製作した作品を探す児童】



【下から見上げて鑑賞を楽しむ様子】

4 こども園・中学校・家庭・地域とのつながり

(1) 不動学園としての取組

不動地区では、こども園・小学校・中学校が連携し、「不動学園」として、年間を通して様々な行事を共に行っている。

その中で、年に数回不動学園で授業公開を行い、それぞれの教員が別の校種の授業参観に足を運んでいる。今年度は、小学校が図画工作科の授業を公開し、こども園や中学校の教員がたくさん来校し、児童の造形活動の様子を参観した。このような取組を行うことで、発達段階に応じた指導を見ることができ、就学前教育・中学校教育との接続がスムーズとなり、系統性を踏まえた指導計画を立てることができると考える。



【こども園・中学校の教員が参観している授業公開】

(2) こども園とのつながり

① 楽焼き作品展の鑑賞

全校児童がつくった楽焼き作品を見童玄関に展示し、こども園の園児に紹介したり、一緒に鑑賞したりする活動を行った。



【こども園の3・4・5歳児と一緒に鑑賞する様子】

② 1・2年生工作「スルスルビューン」でいっしょに遊ぼう

空き箱や紙皿などの身近材とクリップを使って滑る仕組みをつくり、自分がイメージした「滑ると楽しいもの」を思い思いにつくった。飛行機やロケットなどの乗り物や、たこやクラゲといった生き物など楽しい作品がたくさん出来上がったので、こども園の5歳児を招待して一緒に遊び、交流を図った。

自分の作品の工夫したところやおすすめポイントなどを紹介しながら、一緒に楽しく遊んだ。滑るときにひらひらとテープが揺れる様子に歓声が上がり、勢いよく滑る飛行機を何度も繰り返して滑らせたりするなど、園児と一緒に楽しむ姿が見られた。

1・2年生の児童は、自分がつくった作品で遊んでもらい、みんなが喜んでくれたことで、自己肯定感が高まり、「またつくってみたい」「もっと面白いものを考えたい」という造形活動への意欲もさらに高めることができた。

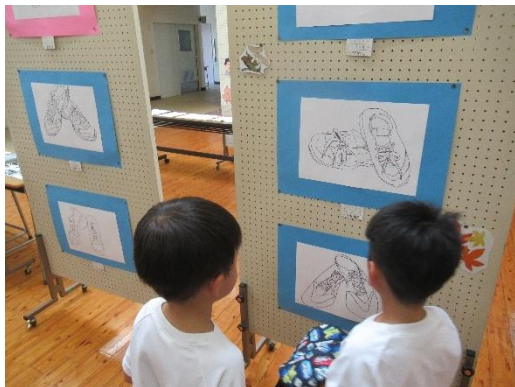


【こども園の5歳児と一緒に遊ぶ様子】

(3) 中学校とのつながり

不動中学校文化祭見学

9月に行われる不動中学校の文化祭に、全児童が参加している。体育館での発表を見た後、玄関前に展示された中学校生徒の作品展を見学している。中学校の美術の時間に製作されたデッサンや木工作品等に触れ、6年生は美術の学習内容を知ることができ、次年度からの学習へのイメージをもつ助けとなっている。



【文化祭の展示作品見学】

3 家庭・地域とのつながり

①PTA 授業参観日

本校は、低・中・高の複式で図画工作科の授業を行っているため、これまで参観日での授業の実施が難しかったが、今年度は全学年 PTA 参観日で図画工作科の授業を保護者に参観していただくこととした。2学年合同で座席も入り交じり、異学年の児童同士で相談したり、意見を出し合ったりしながら学習している様子など、単学年とは違った学習形態を知っていただくよい機会となった。複式学習をすることによって人数が増えた分、児童の発想や感じ方にも広がりが出て、それを共感し合いながら授

業が進められており、児童も自分の思いを自由に表現したことを認められる様子を保護者に見ていただくことができ、自信につなげることができた。



【PTA 授業参観の様子】

②地域での三大祭りにおける作品展示と工作コーナー

不動町では、「三大祭り」と呼ばれる地域の祭りが年に 3 回あり、飲食のコーナーやその他子どもたちが喜ぶようなゲームやイベントが催される。その中で、不動学園の園児・児童・生徒の作品が展示されたり、工作教室も行われたりしている。作品展示では、町内外の人々に児童の日頃の成果を見ていただくよい機会となっている。工作教室では、講師先生に教えていただきながら、5 月のさつき祭りでは「アニマル風船をつくろう」、8 月の夏祭りでは「オリジナルうちわをつくろう」という企画があり、たくさんの児童が製作を楽しむ様子が見られた。児童にとっては、地域の中でこのような取組がされていることは、学校以外でもいろいろな材料に触れ、ものをつくりだすことの楽しさを味わうことのできる貴重な機会となっている。



【児童の作品展示】



【工作コーナー（アニマル風船をつくろう）】

③さつき祭りでの「フラワーボードをつくろう」の取組

「人とつながる 地域とつながる」取組の一つとして、さつき祭りで「スマイルアートコーナー『フラワーボードをつくろう』」と題して、みんなで製作を楽しむ取組を行った。小学校児童だけでなく、こども園園児、中学生、高校生、保護者、地域の方、地域にある不動文化会館や児童館の職員の方、不動学園の先生方、地域外から来られた皆さんにも声をかけ、白い段ボールの板に色画用紙でつくったバラの花を貼り付けていってもらった。色を貼り分けることで、「ようこそ ふどうへ」という文字が浮かび上がってくるようにした。花を作る作業は少し難しいため、高学年児童に担当してもらい、低学年児童や園児、その他大人の来客者にはできたバラを好きなところに貼

り付けていってもらったようにした。「フラワーボードをつくりに来てください。」と勧誘もして、祭りに来た多くの人が賛同し、共同作品製作に協力してくださった。出来上がったボードは、小学校や三大祭りが行われる不動文化会館の玄関に飾られ、不動を訪れた人々を温かく迎えている。



【完成したフラワーボード】

④地域の各所での児童作品掲示

特別支援学級の児童が、製作した作品を町内の各施設へ届けに行った。たくさんの人の目に触れるところに掲示していただくことで、施設を利用する地域の人たちに自分たちの作品を見ていただくよい機会となり、多くの人に喜んでもらえることで自信を深めると共に、造形活動への意欲をさらに高めることができた。また、これらの取組をすることで、児童自身が学校と地域とのつながりを実感することができた。



【不動文化会館へ】



【児童館へ】



【コミュニティーセンターへ】



【お世話になった地域の方へ】



【作品例】

5 教職員研修

(1) 主題研究・実技研究

「徳島県小学校図画工作科研究主題説明及び造形遊びの実技研修」

講師 大塚 芽依 先生（吉野川市立知恵島小学校）

藤本 賢春 先生（徳島市新町小学校）

図画工作科の研究を進めるにあたり、県図工部会の研究主題について、実践事例も交えながら説明していただいた。表現活動において、児童が、「表現内容」（何を）「表現材料」（何で）「表現方法」（どのように）の3つの要素をしっかりとつか

むことが大切であるとお話を聞き、題材や材料との出会わせ方の重要性を再認識できた。また、造形的な資質・能力の育成には、「ひと」「もの」「こと」と十分につながることが必要で、対話や児童のつぶやきを拾うこと、そして材料の選定についても考えさせられる、大変有意義な研修となった。



研修の後半は、大判の不織布を使った造形遊びの実技研修を行った。教職員はみんな、子どもの頃に帰ったかのように、不織布を思い思いに結んだりつなげたりしていた。大塚先生の、どんな活動も肯定的に捉える声かけにより活動が広がっていき、室内があっという間に不織布で埋め尽くされた。教師の声かけにより、安心して活動を進めていくことができたり、発想が広がったりすることを実感し、図画工作科における言葉かけの意識が高まった貴重な時間となった。

【声かけの例】

- ・こんなところにも結べるんだね。
- ・こんなふうにつなげると面白いね。
- ・中に入って見てみると、感じ方が変わるね。
- ・合体させると大きくなったね。
- ・そこから、どうなっていくのかな。



（２）教材研究・教材準備

研究授業に向けて、授業者だけではなく、教職員で全学年の教材研究を行った。その際、複数の教員で実際につくってみることによって、活動する際の児童の困り感や必要とする技能等を予想することができ、指導上の留意事項や材料の量、場の設定の仕方等について考えることができた。また、校内の環境整備についても、複数の教員でアイデアを出し合い、児童の感性がより豊かになるような環境づくりに努めた。



(3) 言葉かけ集

図画工作の授業では、児童への声かけや働きかけが重要だと言われる。対話をする中で、児童の学びを深めたり、新たな見方や感じ方を広げたりすることができるからだろう。だが、実際授業をしていて声かけに悩んだり迷ったりすることは少なくない。意欲的になる声かけや指導の方法は、これが絶対というものがあるわけではないので、いろいろと試してみても試してみるより方法はないのかもしれない。教師が、声かけをしようと考えている時間は、一人の児童の活動の様子に目を向けながら、「今、こんなことを思っているのかな。」「次はこうするのかな。」と想像している時間なので、一人一人に合った声かけができるように研究を進めた。

考えていることを引き出す声かけ

- ・どんなことを考えたの？
- ・どんなイメージなの？
- ・どんなことを表したいと思ったの？
- ・何ができてきたのかな？
- ・この後どうなるの？
- ・何の形に見えてきたかな？
- ・どこが気に入ってる？
- ・どこから見るといいかな？
- ・どういうふうになる予定？ など

価値付け・共感する声かけ

- ・おもしろそうなことをしているね。
- ・いろいろ試しているね。
- ・なるほど。そういうことだったんだね。
- ・ああ、そうだったんだ！
- ・すてきな工夫だね。
- ・動きだしそうだね。
- ・この後がたのしみだなあ。
- ・つづきがもっと見たいなあ。
- ・考えがかわったんだね。
- ・ほかのだれも見つけてないね。
- ・いいひらめき ・アイデアだね。
- ・かっこいい！ ・すごい！ ・びっくり！
- ・〇〇さんらしいね。
- ・先生には思いつかなかったなあ。
- ・あなたは〇〇にこだわって、つくって（かいて）いましたね。 など

動きだせない子への働きかけ

- ・何の形に見えるかな。
- ・いろいろ試してみていいからね。
- ・思うようにやってみていいんだよ。
- ・どんなことを伝えたいかな？
- ・友達にアドバイスをもらってもいいよ。
- ・次にどんな形を合わせたら楽しくなるかな。
- ・先生と一緒に材料を探しに行ってみよう。
- ・先生と一緒に友達の作品を見に行ってみよう。
- ・失敗しても大丈夫。やりなおしていいからね。
- ・アイデアスケッチしてみてもいいよ。
- ・どの色の組み合わせがすきかな。 など



声かけ・働きかけの際に、教師の見方や価値観・思い込みを押しつけてしまわないことも大切である。「〇〇を作ったんだね」と話しかけるのではなく、児童に教えてもらうような気持ちで接することを心がけている。また、児童が活動に夢中になっている際には、すぐに声をかけず、活動の様子に注目したり、待った後、児童が手を止めた際に声かけをしたりする場合もある。共感することを意識し、「ここは青色で、三角にしたんだね。」のように児童がしていることを具体的に言葉にして声かけできるように努めている。さらに、意欲的でない、どうすればいいか分からない児童には、どういうふうにしたいのかを聞いたり、友達の活動を見るように声かけをしたり、一緒に試したり、するなど、教師が教えすぎないように配慮している。

(4) 図画工作科だより「パレット」

図画工作科の研究を進めるにあたり、教科の特性や指導のポイント・スキル等を全教員で共有したいと考え、教職員向けの図画工作科だよりを不定期に発行した。

図画工作科だより

パレット

NO. 2

題材について考えよう

★図画工作では「題材」が大きな鍵

「育てたい資質・能力」があり、その上で「題材」が設定されます。

三つの柱

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

はじめに目の前の子どもの実態→「子どもは何を育てるか」をはっきりさせた上で題材を考えることが大切です。「(見栄えの良い作品づくり)」「作品主義」にならないよう

年間を通して各領域「絵・立体」「工作」「造形遊び」「鑑賞」の題材がバランスよく計画されるように配慮してください。

※「絵・立体」と「工作」の割合は、およそ等しくします。
※「造形遊び」も敬遠せずに実施しましょう。

★「わくわく感」を大切に、題材名を考えよう

題材名はおおよそその授業内容がイメージできることはもちろんですが、つくり出す喜びを期待させる「わくわく感」も大切です。

また、題材名は子どもたち一人一人のよさを生かす豊かな学習活動に誘う働きをしています。決まらなくなった「運動会の絵」などという題材名ではなく、「忘れられないあの瞬間!」など、子ども一人一人の心に響く題材名が大切です。

題材名の板書も、イメージがふくらむように色やイラスト等を加えて書くとなお一層効果的です。

教科書以外の題材を学習する場合は、ぜひ楽しい題材名を考えてみてください。

(カワフルに書かれていました)

PS 附属小研究会 (4年 造形遊び)

PS 久保小統一大会 (2年 造形遊び)

参考資料『小学校図工指導スキル大全』岡田京子 (明治図書)
『題材のABC』文・絵 阿部宏行 (日本文芸出版)

図画工作科だより

パレット

NO. 4

図画工作科における児童への教師の声かけ・働きかけ

図画工作の授業では、児童への声かけや働きかけが重要だと言えます。対話をする中で、児童の学びを深めたり、新たな見方や感じ方を広げたりすることができます。また、自分の活動に価値付けされたり、つくり出す喜びをさらに高めることもできます。ですが、実際授業をしていて声かけに悩んだり迷ったりすることは少なくありません。意図的に声かけや指導の方法は、これが絶対というものがあるわけではないので、いろいろと試してみてもよい方法はないのかもしれない。教師が声をかけようと考えている時間は、一人の児童の活動の様子に目を向けながら、「今、こんなことを思っているのかな。」「次はこうするのかな。」「想像している時間なので、一人一人に合った声かけができるように研究を進めていきたいと思います。」

声かけ・働きかけのポイント

○教師の見方・価値観や思い込みを押しつけない。
→「これは海なんだね。」「これはロケットみたいだね。」
→子どもに教えてもらうくらいの気持ちで接して、聞き出す。

○児童が夢中になっているときには声をかけない。
→全身の感覚を働かせて感じ取っている時なので、一歩下がって時々様子を見よう。
ふっと顔を上げ、目が合ったときに話しかける。
→すぐに声をかけずら秒待つ
(教師の思考を広げ、子どもの気持ちを温めだす声かけになる)

○「ほめる」というよりも「共感する」ことを意識する。
→「この子にも「いいね」「すごいね」と言うよりも、その子がしていることを具体的に言葉にして語りかける。(事実だけを述べる)
「そこを青い色でぎざぎざにしたいだね。」

○やる気が見られない子どもや活動が止まっている子どもに教えずに。
→まずはどんなふうに見ているのか聞く。
→友達の話や作品を見に行く。
→一緒に試してみよう。

参考文献『全話形式で学ぶ 図画工作科の授業づくり』岡田京子著、明治図書
『小学校図工の授業づくり はじめの一歩』南有子著、明治図書
『成長する授業』岡田京子著、東洋館出版社

県の研究主題「豊かにかかわり つながり『わたし』が広がる造形活動」に迫るために図画工作科の授業づくりのはじめの一步から題材開発、教材研究、子どもの学びを深める声かけなど、参考文献をもとにまとめたものを全教員に配付し、授業力向上につなげた。

本校では、これまで図画工作科の研究授業を経験したことがない教員も多い中、手探りで研究を始めた。日々の授業をしながら、互いの悩みを相談したり、アイデアを出し合ったりするなかで、「こんなこと知らなかった。」「この考え方を大切に授業を考えよう。」といった内容を共有することで、児童が生き生きと活動する楽しい授業づくりのヒントや手助けになればと考えている。

図画工作科だより

パレット

NO. 6

図画工作科の授業のつくりかた

①子どもたちの実態、育成を目指す資質・能力を考える。(年間指導計画も参考に)

↓

②子どもの姿を思い浮かべて題材を考える。(教科書通りでなくよい、発展・アレンジ)

↓

③教師が事前にやってみて、見通しをもつ 回工の授業は 準備8割! 準備で決まる

↓

④題材を実施し、反省、改善を行う。

↓

⑤できた作品や活動の様子の写真などを掲示する。(自己肯定感の醸成)

※ あくまで「作品主義」「作品作り」にならないように。
※ 個人で買う「学習キット」に頼らず、子どもの発想が広がるような材料を考えてください。(足りない材料、欲しい材料は、図工主任・教頭先生に相談してください。)

引用・参考文献 明治図書『小学校図工 指導スキル大全』岡田京子 2019年

6 年間指導計画の作成

第1・2学年(A年度) 図画工作科年間指導計画(1年68時間・2年70時間)

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	下	【2年のみ】 きせつをかんじて	絵	2	身近な自然の形や色の面白さを楽しく、不思議さを自分なりに感じ取り、感じ取ったことを表すことを楽しむ子ども。	○外に出て春を感じるものを見付け、絵に表す活動に関心をもち、 ○自分が見付けた春を絵にかく。 ○絵を通して互いの見付けた春を紹介し合い、楽しさを味わう。	教師:画用紙 児童:クレヨン・パス、色鉛筆、スケッチボードなど	【2年】 他教科 生活:(5)季節の変化と生活 道徳:D自然愛護
	上	すきなかたちやいろいろなあに どんどんかくのはたのしい な～すきなもののあに～	絵	2	自分の好きな形や色を使って、思い浮かべたものを表す楽しさを味わい、さらに表現への意欲をもつ子ども。	○自分の好きなものや好きなことを思い浮かべ、自由にかく活動に関心をもち。 ○自分の好きなものの形を考えたり、色を選んだりしてかく。 ○絵にかいた好きなものを紹介し合ったり、友人の作品のすてきなどところを話したりして、自分たちの作品を楽しく見る。	教師:画用紙 児童:クレヨン・パス、ペンなど	【1年】 こども園との接続 【1・2年】 他教科 道徳:A個性の伸長
	下	にぎにぎねんど	立	2	手や体全体の感覚を働かせながら材料と関わり、自らの働きかけて変化する形を楽しむながら、新しいイメージが生まれていく楽しさを味わう子ども。	○粘土を握って形を変えることを知る。 ○いろいろな握り方を試して、いろいろな形をつくる。 ○握った形を基に、ひねり出したり、つまみ出したりして自分の気に入った形にしていける。 ○互いの作品を見合いながら、友人と形の面白さや、表現の工夫などを伝え合う。	教師・児童:粘土板 児童:油粘土、粘土べら、雑巾など	【1年】 こども園との接続 【1・2年】 他教科 体育:体づくりの運動
5	上	ちよきちよきかざり	工	2	いろいろな形をつくることや、つくったもので身の回りの場所やものを飾ることを楽しむ子ども。	○はさみの安全で適切な使い方を確かめながら、紙を切ることを楽しむ。 ○紙を折ったり、重ねたりして切ると、いろいろな形ができていくことに気付く。 ○紙の折り方や切り方を工夫して、いろいろな飾りをつくる。 ○教室の入り口や窓など、身の回りの飾り方を工夫する。 ○飾りを見て、面白さや楽しさについて友人と話したり、聞いたりする。	教師・児童:色紙、セロハンテープなど 教師:紙テープ、画鋏など 児童:はさみ、のりなど	【1年】 こども園との接続 【1・2年】 他教科 道徳:Cよりよい学校生活、集団生活の充実
	上	すなやつちとなかよし	造	2	手や体全体の感覚を働かせて、材料に進んで関わり、思い付いたことをどんどん試すことを楽しむ子ども。	○砂場や運動場で安全に活動するためのきまりを確認する。 ○砂や土に触れた感覚を味わいながら、手や体全体、用具を使って思い付いたことを試す。 ○個人やグループで、好きな形やつくりたいものをつくる。 ○活動中の思いや工夫したことを発表し合い、活動を振り返る。	教師・児童:空き容器、ペットボトル、雑巾、タオルなど 教師:小型のジャベル・スコップ、ノケツ、型抜き用の容器、水など 児童:汚れてもよい服装、帽子など	【1年】 こども園との接続 【1・2年】 他教科 道徳:D自然愛護
	上	おってたてたら	工	4	材料に働きかけて工夫したり新たな面白さを見付けたりしながら、形や色で表すことを楽しむ子ども。	○紙の折り方によって立たせることができていることを知る。 ○いろいろな折り方や切り方、立たせ方を試しながら、表したいことを見付ける。 ○置き方や並べ方を考えたり、友人の作品からさらに発想を広げてつくったりする。 ○展示した様子を見て、自分や友人の作品の楽しいところを伝え合う。	教師:画用紙、色画用紙、模造紙など 児童:はさみ、クレヨン・パス、ペンなど	他教科 道徳:D自然愛護、Cよりよい学校生活、集団生活の充実

6	上	楽焼き (いっしょにおさんぽ)	立	2	粘土を使って表し方を工夫し、自分の願いを実現させようと材料に働きかけ、創造することに喜びを見いだす子ども。	○だれとどこに「おさんぽ」に行きたいか、教師や友人と交流しながらイメージを膨らませる。 ○散歩の情景を思い浮かべながら、自分と仲間の表情や動きなどを工夫して表す。 ○置き方や並べ方を工夫して作品を飾り、作品を見ながら友人と交流し、面白さや楽しさを伝え合う。	教師・児童：粘土板、雑巾、新聞紙など 教師：土粘土、竹ぐし、霧吹きなど 児童：油粘土、粘土べらなど	他教科 道徳：B友情、信頼
	上	カラフルいろみず	造	2	手や体全体の感覚を働かせて、材料に進んで関わり、思い付いたことをどんどん試すことを楽しむ子ども。	○色水づくりの方法を知り、活動への関心をもつ。 ○絵の具を使ったり、色水同士を混ぜたりして、いろいろな色の色水をつくる。 ○つくった色水から、思いついた活動に取り組む。 ○友人と互いの活動を見て回る。	教師・児童：ペットボトル、雑巾、タオルなど 教師：共用絵の具、透明なプラカップなど 児童：汚れてもよい服装など	他教科 道徳：B友情、信頼、Cよりよい学校生活、集団生活の充実
	上	人権ポスター (せんせいあのね)	絵	6	絵をかくことで、生活の中のいろいろなことを大切にしようと考えたり、話したいことを伝える楽しさを味わったりし、表現への意欲をもつ子ども。	○自分の日々の生活や、生活の中で感じたことを発表したり、思い浮かべたりする。 ○生活の中でしたことや感じたことから絵に表したいことを見付ける。 ○自分が話したいことを中心に、形や色などを考えながら表す。 ○作品を紹介し合いながら、絵に表したことや表現の工夫などについて友人と話し合う。	教師：画用紙、色画用紙、共用絵の具など 児童：クレヨン・パス、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
7	上	やぶいたかたちから うまれたよ	絵	4	偶然できた形から面白さを見いだし、発想を広げて自分の表現につなげようとする子ども。	○紙をいろいろな方法で破くことを試し、破いてできる形の面白さを感じる。 ○破いた紙の形や色に着目しながら、いろいろな置き方を試して表したいことを考える。 ○画用紙に貼り、思い付いたことをかき加えたり、紙を貼ったりして表す。 ○友人と作品を見合いながら、表したかったことや工夫したことについて話し合う。	教師・児童：包装紙、新聞紙など 教師：画用紙、色画用紙、ワラフ紙など 児童：クレヨン・パス、ペンのりなど	
	下	ひかりのプレゼント	造	2	材料に積極的に働きかけ、形や色が映し出される面白さを感じ取り、さまざまな見え方の変化を試していくことを楽しむ子ども。	○光を通す材料を集め、材料を自由に選び、光を通して映る形を試す。 ○材料を通して壁や床などに映し出される形や色の面白さを感じる。 ○光を通す材料を並べたり積んだり、色を塗ったりして映り方の変化を見付け、活動を広げる。 ○友人と、映る形や色を見合い、面白さや楽しさを話し合う。	教師・児童：透明な材料など 教師：色セロハン、ペンなど 児童：セロハンテープなど	他教科 道徳：D感動、畏敬の念
	上	いっしょにあそぼう ぱくぱくくん	工	2	試しながら表すことを楽しみ、つくったものに愛着をもとうとする子ども。	○手を使った動きで遊ぶことを楽しみながら、つくりたいもの考える。 ○自分のイメージに合わせて、形を変えたり、材料で飾ったりする。 ○つくったもので遊び、またつくりかえる。 ○自分や友人が作ったもので遊び、面白さや楽しさを感じ取る。	教師：紙コップ、色紙、お花紙、紙袋、綴衝材、ペン、木工用接着剤など 児童：はさみ、のり、ペンなど	他教科 生活：(1)学校と生活

10	上	たいせつボックス	工	6	自分にとって大切なものを入れる箱を自分なりにつくることに喜びを感じ、作品を学校や家庭で使うことで楽しく豊かな生活を自らつくりだそうとする子ども。	○箱に触ったり見比べたり、入れたいものを思い浮かべたりしながら、自分のつくりたいものに合わせて、箱の使い方を試しながら、工夫して表す。 ○友人と見せ合いながら、作品の形や色の楽しさや面白さを感じ取る。	教師・児童：空き箱、身辺材、セロハンテープ、ペンなど 教師：色画用紙、両面テープ、木工用接着剤など 児童：はさみ、のりなど	他教科 生活：(1)学校と生活 (2)家庭と生活 行事 オープンスクール
	上	ならべてならべて	造	2	材料に働きかけて並べる活動に取り組み中で生まれる形や色などの造形的な面白さを感じ、工夫しながら活動を自ら展開していく子ども。	○並べられそうなものを探しながら、どのような活動ができて考えられる。 ○並べながら、材料のいろいろな形や色に気付く。 ○材料の形や色などを生かしながら、工夫して並べる活動を広げる。 ○活動を通して気付いたことや感じたこと、工夫したことについて友人と伝え合う。	教師：図工室や教室などの活動場所と並べる活動に使ってよいもの 児童：道具箱や筆箱、算数セットなどの中にある並べてみたいもの	
11	上	おなほはだいすき	絵	4	物語の場面を思い浮かべることを楽しみながら絵に表すことで、思いに合う形や色を見付け、さらに想像を広げていこうとする子ども。	○物語を聞いたり読んだりして、感じたことや思ったことを話す。 ○かきたい場面から想像を広げて楽しく表す。 ○互いの作品を見て、その面白さや表し方の工夫を味わう。	教師：画用紙、色画用紙、共用絵の具など 児童：クレヨン・パス	他教科 国語：(3)我が国の言語文化に対する事項B書くこと、C読むこと
	下	であってうまれる いろのせかい	鑑	2	色と色が出合うことで新しい色になることを知り、そのことを楽しんだり、新しい色からイメージを豊かに広げたりする子ども。	○小さい紙の上で絵の具を混ぜ、生まれる色や形を楽しむ。 ○できあがった色や模様を見て、感じたことを言葉にしたり色の名前をつけたりする。 ○友人とつくった色や形を見合い、感じたことを伝え合う。	教師・児童：新聞紙など教師：白段ボール、画用紙、共用絵の具など 児童：汚れてもよい服装、雑巾	他教科 道徳：D感動、畏敬の念
12	上	わくわくおはなしすごろく	工	6	身近な材料を使ってみんなで楽しめるものをつくり、生活を豊かにしようとする子ども。	○どんなイメージや世界のすごろくだったら楽しくなりそうか、想像を膨らませる。 ○すごろくの中のストーリーや、マスで起きる出来事などを考え、ペンなどを使っていったりつくったりする。 ○できたすごろくで遊びながら、互いの表したかったことや工夫を感じ取る。	教師・児童：空き箱、ペンなど 教師：ペットボトルキャップ、割りピンなど 児童：はさみ、のりなど	他教科 生活：(6)自然やものを使った遊び、(9)自分の成長
1	上	うつしたかたちから	絵	4	シンブルな形でも並べたりつないだりすることによっていろいろなことを表せることを知り、楽しむ子ども。	○教科書に掲載されている参考作品例を見て、気付いたことを話し合う。 ○いろいろな形を写す。 ○写した形や色から思い付いたことを絵に表す。 ○互いの作品を見て、面白いところや工夫しているところを友人と伝え合う。	教師・児童：スタンプしたい身辺材など 教師：画用紙、色画用紙、段ボール片、共用絵の具、トナーなど 児童：クレヨン・パス、雑巾など	
	上	いっぱいつかって なにしよう	造	2	材料に働きかけて思い付いた活動に取り組み、できる形や色の面白さを感じ取り、工夫しながら自ら活動を展開していく子ども。	○紙コップを思い思いに並べたり積んだりする。 ○並べたり積んだりしながら、紙コップの形などに気付く。 ○紙コップなどの形を生かして、並べたり積んだりする。 ○紙コップの並べ方や積み方をどのように工夫したのかを友人と伝え合う。	教師：紙コップ 児童：タブレット端末	他教科 算数：A数と計算、B図形

2	上	スルスルビューン	エ	4	何度も試しながらいメージを広げ、つくったりつくりかえたりする楽しさを味わう子ども。	○紙コップなどとクリップで、滑る仕組みをつくれることを知り、活動に関心をもつ。 ○材料を滑らせたり、滑らせたものを考えたりして、試しながらつくる。 ○つくったものを滑らせたり、友人の作品の滑る様子を見たりして楽しむ。	教師：紙コップ、紙皿、紙筒、空き箱、クリップ、色画用紙、紙テープ、たこ糸やPEロープなど 児童：セロハンテープ、ペンなど	他教科 生活：(6)自然やものを使った遊び
	上	いろいろなかたちのかみ～はこをひらいたかたちから～	絵	2	いろいろな見方をする中で新しい見え方になる面白さや、イメージをもつて表現することの楽しさを感じる子ども。	○箱を自分で開いたり、開いた箱の形を見たりする。 ○思い付いたことを、用具の使い方を工夫して表す。 ○友人と作品を見合い、表したかったことや工夫したことについて話し合う。	教師・児童：空き箱、ペンなど 教師：共用絵の具など 児童：クレヨン・パス、色鉛筆、のりなど	他教科 算数：B図形
3	上	【1年】はこでつくったよ	立	4	箱の使い方を繰り返し試しながら、新しい価値を見付け、つくいだすことに喜びを見いだす子ども。	○箱を積んだり、並べたり、つなげたりする活動を楽しみながら、自分のつくりたいものを考える。 ○自分のつくりたいものに合わせて、箱の積み方やつなぎ方、立たせ方を試しながら、工夫して表す。 ○友人と遊びながら、作品の形や色の楽しさや面白さを感じる。	教師・児童：空き箱、身辺材、ペンなど 教師：粘着テープ、ビニルテープ、両面テープ、木工用接着剤など 児童：はさみ、のり、セロハンテープなど	【1年】 他教科 算数：B図形 行事 新1年生体験入学 ことも園との接続
	下	【2年】まどをあけたら	工	4	新たな用具を意欲的に使い、自ら工夫してつくることが楽しみながら想像を広げていく子ども。	○カッターナイフの使い方を知る。 ○色画用紙などにいろいろな形の窓を開けていく。 ○折って立てるなどして、形をつくっていく。 ○思い付いたことを付け加えたりかき加えたりする。 ○友人と互いの作品を紹介し、工夫したことなどを伝え合う。	教師：カッターナイフ、カットマツ、カラー工作用紙、色画用紙、ボール紙、木工用接着剤など 児童：色鉛筆、ペン、はさみ、のりなど	【2年】 他教科 算数：B図形
	上	ざわりごちちはっけん	鑑	2	身の回りのいろいろなものに触れながら、触り心地の面白さや違いを見付ける楽しさや喜びを味わう子ども。	○身近なものの触り心地を見付ける活動の見通しをもつ。 ○いろいろなものの触り心地を見付け、友人と伝え合う。 ○活動について振り返り、感じたことや考えたことを伝え合う。	教師：ワークシート、バインダー	

第1・2学年（B年度） 図画工作科年間指導計画（1年68時間・2年70時間）

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	下	【2年のみ】 きせつをかんじて	絵	2	身近な自然の形や色の面白さや楽しさ、不思議さを自分なりに感じ取り、感じ取ったことを表すことを楽しむ子ども。	○外に出て春を感じるものを見付け、絵に表す活動に関心をもち、 ○自分が見付けた春を絵にかく。 ○絵を通して互いの見付けた春を紹介し合い、楽しさを味わう。	教師：画用紙 児童：クレヨン・パス、色鉛筆、スケッチボード	【2年】 他教科 生活：(5)季節の変化と生活 道徳：D自然愛護
	下	すぎなかつちやいろいろなあにふしぎなたまご	絵	2	自分なりの発想で想像を広げて表すことを楽しむ子ども。	○教科書の参考作品などを見ながら、どのようなたまごからどのようなものやお話がでてきているのか話し合う。 ○どのようなたまごがあったら面白いかな想像し、たまごをつくる。 ○たまごから生まれるものやお話について想像を広げ、たまごの割れ方や飛び出し方なども考えて表す。 ○互いの作品を見合いながら、どのような想像をしたのか友人と伝え合う。	教師：画用紙、色画用紙、共用の絵の具 など 児童：クレヨン・パス、はさみ、のり など	【1・2年】 他教科 道徳：A個性の伸長 【1年】 こども園との接続
	上	ねんどでごちそう なにつくろう	立	2	手や体全体の感覚を働かせて形をつくらせたり、つくりかえたりすることや、友人と互いに見合うことを楽しむ子ども。	○「粘土体操」で粘土をさまざまな形に変えながら、形を変えることに興味をもつ。 ○好きな食べ物や食べてみたい食べ物などを交流し、「ごちそう」のイメージを広げる。 ○思い付いた「ごちそう」のつくり方を考え、工夫して表す。 ○盛り付けたり並べたりしてパーティーの準備をする。 ○自分や友人のつくった「ごちそう」を選んで取り分けたりしながら、作品の面白さを感じ取る。	教師・児童：粘土板、雑巾 など 教師：紙皿、紙コップ、竹ぐし、スプーン、フォーク など 児童：油粘土、粘土べらなど	【1年】 他教科 生活：(1)学校と生活 こども園との接続
	下	でこぼこはっけん	鑑	2	自分の身の回りにある形に目を向け、その面白さを感じ、新しい形を見付けたり、見付けた形から自分の見方や感じ方を広げたりすることができると。	○自分たちの身の回りにあるでこぼこに興味をもつ。 ○粘土ででこぼこを写し取ることができていることを知る。 ○身の回りのさまざまなものや場所からでこぼこを探し出し、粘土に写し取る。 ○自分が写し取った粘土を見て感じたことを友人と伝え合い、身の回りにはさまざまなでこぼこがあることを確認する。 ○集めたでこぼこを並べたり貼り付けたりしてコレクションし、鑑賞し合う。	教師：紙粘土、色画用紙、空き箱ポリ袋（紙粘土が乾かないように持ち歩くためのもの）など 児童：雑巾	
5	下	①しんぶんしとかよし 【選択】	造	2	①限られた材料でも工夫することやいろいろなことのできることを知り、新しいことを見付けたりするために繰り返し試す子ども。	○たくさん新聞紙に出合う。 ○新聞紙を並べたり、まったり、丸めたり、破いたりしながら、紙の大きさや感触などを全身で味わう。 ○活動したことや活動の中で気付いたことなどを友人と伝え合う。	教師・児童：新聞紙、セロハンテープなど	他教科 道徳：B友情、信頼

下	②つないでつるして【選択】	造	2	②自分で工夫したり、友人とつながったりして新しい形が生まれることに喜びを感じ、協力しながら新しいことをつくりだそうとする子ども。	○紙を細長く破いたり切ったりする。 ○破いたり切ったりした紙を、どんどんつないでいく。 ○友人とつながったり、協力したりしながら、つるしたりつないだりしてできる形を工夫する。 ○つないでできた形を見て回り、面白さを感じる。	教師・児童：新聞紙、チラシ、包装紙、セロハンテープなど 教師：色画用紙の切れ端など 児童：のりなど	他教科 道徳：B友情、信頼	
下	どんなうごきにみえるかな	工	4	仕組みを使っていろいろなことを思い付いたり、同じ仕組みでも人によって思い付くものが違うことを感じ、さらにいろいろなとつくりうとする子ども。	○紙で開いたり閉じたりする仕組みをつくれることを知り、活動に関心をもつ。 ○動きから発想を広げ、動かして確かめながらつくる。 ○つくったもので友人と遊び、面白さを味わう。	教師・児童：ホチキス、ペンなど 教師：カラー工作用紙、色画用紙 など 児童：はさみ、のり、セロハンテープなど	他教科 生活：(6)自然や物を使った遊び	
6	下	くしゃくしゃぎゅっ	立	4	体全体で材料に関わって表現することで、表現したものに愛着をもち、大切にしようとする子ども。	○紙をくしゃくしゃにして、感じの変化を味わう。 ○紙を袋状にして中に新聞紙などを詰めたり、紙の形をさらに変えたりしながら表現したいものを考える。 ○縛って形を変えたり、材料を貼ったりして、表現を深める。 ○作品の感触を全身で味わったり、友人と互いに見合ったりして、楽しさを感じ取る。	教師・児童：新聞紙 教師：クラフト紙、紙ひも、色紙、お花紙、木工用接着剤、両面テープ、共用の絵の具など 児童：ペン、はさみ、のりなど	他教科 道徳：B友情、信頼 【1年】 子ども園との接続
7	下	人権ポスター (こんなことあったよ)	絵	6	生活の中で心に残ったできごとや、そのときの感じを表すことで、生活を振り返り大切にしようと感じる子ども。	○毎日の生活の中から、体全体で感じたことや心に残っていることなどを思い出し、話す。 ○そのときの様子を思い出しながら絵に表す。 ○友人と作品を見合いながら、どのようなことを表したのか、どのように表したのかを伝え合う。	教師：画用紙、色画用紙、共用の絵の具など 児童：クレヨン・パス、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
	下	とろとろえのぐで	絵	2	表現を通して材料の感触を楽しみ、その面白さをたづねたりと感じながら表すことを楽しむ子ども。	○とろとろ絵の具をつくり、指や手を使って絵に表す活動への関心や見通しをもつ。 ○思いのままに指や手で塗ったり、かいたりすることを楽しむ。 ○いろいろ試しながら思い付いたことを、表し方を工夫して表す。 ○題名を付け、友人と作品を紹介し合う。	教師・児童：雑巾 など 教師：板段ボール、黄ボール紙、液体粘土、共用の絵の具、カップ など 児童：汚れてもよい服装など	他教科 体育：A体づくり運動系 多様な動きをつくる運動遊び
9	下	ともだちハウス	立	4	つくってあげたい相手への思いを大切に、喜び姿を想像しながらつくることを、自分にとっての喜びとすることのできる子ども。	○「小さな友だち」に出会い、顔をかくなどして愛着をもつ。 ○空き箱などの材料を生かして、「小さな友だち」が喜ぶ家を考えながらつくる。 ○友人と互いの家を「小さな友だち」と一緒に訪問し合いながら、面白さや楽しさを味わう。	教師・児童：空き箱、身辺材 教師：小石、貝殻、ペットボトルキャップ、色紙、お花紙、粘着テープ、木工用接着剤など 児童：クレヨン・パス、ペン、はさみ、のり、セロハンテープなど	他教科 算数：B図形

上	上	ぺったんコロコロ	造	2	体全体を使っていろいろな材料の形を写し、自分の感覚や気持ちを生かしながら形や色を生みだす楽しさを感じ、積極的に試したり工夫したりして表す子ども。	○写してできる形や色、触った感じの面白さを感じる。 ○指や手、身近な材料などを使い、いろいろな形を写して楽しむ。 ○思い付いたことを試し、いろいろな形や色を見付け、新しい形をつくりだすことを楽しむ。 ○つくったものを鑑賞し、形や色の面白さや楽しさについて感想や考えを友人と伝え合う。	教師・児童:スタンプの材料(紙筒、片面波段ボール、緩衝材など) 教師:共用の絵の具、ローラー、スポンジ、トレーなど 児童:汚れてもよい服装、雑巾	他教科 体育:A体つくり運動系 多様な動きをつくる運動遊び
下	下	わっかでへんしん	工	4	自分の力で変身していくことに楽しさを感じ、自分に自信をもっていく子ども。	○細長い色画用紙を輪にすると身に付けることができることを知る。 ○輪をつくって身に付けた様子を確かめたり、友人と見合ったりしながら、飾りを考える。 ○思いに合わせて材料の使い方を工夫して、飾りをつくる。 ○変身した姿を友人と見せ合い、面白さや楽しさを伝え合う。	教師・児童:木工用接着剤、ペンなど 教師:色画用紙、輪ゴム、PEテープ、色紙など 児童:ホチキス、セロハンテープ、はさみ、のりなど	他教科 生活:(6)自然や物を使った遊び
下	下	音づくりフレンズ	工	4	使えるものをつくる喜びや、つくったものを使って友人と同じ時間を過ごす楽しさを感じる子ども。	○いろいろな材料を使って、どのような音が鳴るのかを試す。 ○楽しいと感じた音や材料を使って、音の鳴る仕組みをつくる。 ○音の感じに合わせて飾る。 ○音楽に合わせてたり、歌ったりしながら音を鳴らして、つくったものの面白さや楽しさを味わう。	教師・児童:空き箱、ペットボトル、空き容器、身辺材など 教師:色画用紙、輪ゴム、ビニルテープ、割り箸、ビーズ、小石、木工用接着剤など 児童:はさみ、のり、セロハンテープなど	他教科 音楽:A表現(3)音楽づくりの活動
上	上	すきまちゃんのすきなすきま	鑑	2	すきまちゃんの目で隙間という場所の面白さを感じながら、日常の生活空間への関心をもち子ども。	○教師が教室の隙間に隠したすきまちゃんを探し、隙間があることに気付く。 ○すきまちゃんをつくる。 ○つくったすきまちゃんと一緒に好きな隙間を探してすきまちゃんを置く。 ○見付けた隙間を紹介したり、友人のすきまちゃんがいる隙間を探したりする。	教師:隙間テープ、片面波段ボール、モール、ビニルテープ、ペン、モニターなど 児童:はさみ、タブレット端末など	
下	下	おはなしからうまれたよ	絵	4	形や色を使って想像したことや色をしながら、さらに想像を膨らませていくことを楽しむ子ども。	○物語を読んだり聞いたりして、好きなところを思い浮かべたり話したりする。 ○思い浮かべた様子から絵に表したいことを考える。 ○想像を広げて絵に表す。 ○友人と互いの作品を見せ合いながら、どのような様子を表したのか、どのような想像をしたのかを伝え合う。	教師:画用紙、色画用紙、共用の絵の具など 児童:クレヨン・パス、ペン、色鉛筆など	他教科 国語:(3)我が国の言語文化に関する事項 B書くこと C読むこと
下	下	とびだせばよーん	工	6	動きから自分なりの発想や想像を広げ、試しながらさらに思い付いたことを実現したり、つくったもので遊んだりすることを楽しむ子ども。	○紙コップと輪ゴムで飛びだす仕組みを作れることを知る。 ○飛びだす動きから発想を広げ、動きを試しながら、色画用紙などを使ってつくる。 ○友人と互いの作品で遊びながら、発想や表し方の面白さを味わう。	教師:紙コップ、輪ゴム、空き箱、紙筒、色画用紙、木工用接着剤、両面テープなど 児童:はさみ、のりなど	他教科 生活:(6)自然や物を使った遊び 行事 なかよしフェスタ 地域 こども園

1	下	下のしくうつして	絵	4	自分でつくった形を何度も使って表すことで、どんどん変化していくことを楽しむ子ども。	○型紙のつくり方や刷り方を知る。 ○どのようなことを表すのか考え、型紙をつくる。 ○形を写す位置や色を考えながら刷る。 ○思いに応じて刷りたり、かき加えたりする。 ○友人と互いの作品を見せ合いながら、表したことや工夫を伝え合う。	教師・児童 ：新聞紙など 教師 ：画用紙、共用の絵の具、カッターナイフ、カッターマット、スポンジローラー、雑巾など 児童 ：クレヨン・パスなど	他教科 算数：B図形
	下	だんボールに入ってみると!?	造	2	大きな材料に働きかけ、思い付いたことを試し、時には友人と協力しながら形にしている喜びや達成感を味わう子ども。	○段ボール箱の中に入れて大きさを味わう。 ○いろいろな入り方を試しながら、活動を考える。 ○形を変えたり、友人と協力したりしながら、活動を広げる。 ○つくったものを友人と互いに見合いながら、感じたことや工夫を伝え合う。	教師 ：段ボール箱、段ボールカッター、粘着テープ、色画用紙など 児童 ：はさみ、セロハンテープなど	
	下	はさみのあーと	絵	2	無心になって用具を扱う楽しさを味わい、自由に切ることから生まれてくる形に面白さを見いだし、発想を広げて自分の表現につなげる子ども。	○はさみで思いのままにどんどん切ることを楽しむ。 ○切った形を見たり並べたりして、表したいことを見付け、のりで貼る。 ○切りたしたり、貼りたしたりする。 ○表したのを見て、題名を考える。 ○作品を見合い、自分たちの作品の面白さを味わう。	教師 ：画用紙、黒画用紙など 児童 ：はさみ、のりなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと B書くこと
2	下	おもいでをかたちに	立	4	楽しかった思い出など自分の記憶を形に表すことを通して、そのときの気持ちを大切にしようとする子ども。	○生活の中で心に残ったことを思い浮かべ、発表する。 ○思い浮かべたことから表したいことを考える。 ○つまみ出したりひねり出したり、粘土べらや竹ぐしを使ったりしながら表す。 ○友人と互いの作品を見合いながら、そのときの気持ちや思いを伝え合う。	教師・児童 ：雑巾、タオルなど 教師 ：土粘土、粘土板、竹ぐし、霧吹きなど 児童 ：粘土べらなど	他教科 道徳：B親切、思いやり、友情、信頼
	上	【1年】はこでつくったよ	立	4	箱の使い方などを繰り返し試しながら、新しい価値を見付け、つくりだすことに喜びを見いだす子ども。	○箱を積んだり、並べたり、つなげたりする活動を楽しむながら、自分のつくりたいものを考える。 ○自分のつくりたいものに合わせて、箱の積み方やつなぎ方、立たせ方を試しながら、工夫して表す。 ○友人と遊びながら、作品の形や色の楽しさや面白さを感じ取る。	教師・児童 ：空き箱、身辺材、ペンなど 教師 ：粘着テープ、ビニルテープ、両面テープ、木工用接着剤など 児童 ：はさみ、のり、セロハンテープなど	【1年】 他教科 算数：B図形 行事 新1年生体験入学 こども園との接続
3	下	【2年】まどをあげたら	工	4	新たな用具を意欲的に使い、自ら工夫してつくることが楽しみながら想像を広げていく子ども。	○カッターナイフの使い方を知る。○色画用紙などにいろいろな形の窓を開けていく。 ○折って立てるなどして、形をつくっていく。 ○思い付いたことを付け加えたりかき加えたりする。 ○友人と互いの作品を紹介し、工夫したことなどを伝え合う。	教師 ：カッターナイフ、カッターマット、カラー工作用紙、色画用紙、ボール紙、木工用接着剤など 児童 ：色鉛筆、ペン、はさみ、のりなど	【2年】 他教科 算数：B図形
	下	草花のおしゃべり	鑑	2	自然がもつ形や色に関心や愛着をもち、その面白さを味わったり、自分なりのイメージや想像の世界を広げることが楽しむ子ども。	○草花のおしゃべりを想像しながら見ることを知り、活動の見通しもつ。 ○外に出て、草花の形や色を鑑賞し、どんなおしゃべりをしていいのか想像する。 ○想像したことを友人と話したり、絵にかいて伝えたりする。	教師 ：モニター、小さく切った画用紙など 児童 ：色鉛筆、スケッチボード、タブレット端末など	他教科 生活：(5)季節の変化と生活(7)動植物の飼育・栽培

第3・4学年(A年度) 図画工作科年間指導計画(60時間)

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	上	かいて見つけるわたしのすきなもの	絵	2	何度も試したり、いろいろなことを思い浮かべたりしながら、自分の好きなものを見付け、自分の好きなものを見付けることを楽しむ子ども。	○クレヨン・パスなどの経験について振り返る。 ○表し方を試したり、自分の好きなものや楽しみなことを思い浮かべたりして絵にかく活動に意欲をもつ。 ○これまでの経験を生かしながらかく。 ○互いの作品を見合い、よさを味わう。	教師：画用紙、割り箸、竹串など 児童：クレヨン、パス、色鉛筆など	他教科 道徳：A個性の伸長
	上	絵の具+水+ふで=いいかんじ！	絵	2	自分が「いい感じ」と思う色、形、表し方を見付けてかく楽しさを味わい、自分の思いをもつことに喜びを感じる子ども。	○水彩絵の具の基本的な使い方を知る。 ○絵の具と水を使っていろいろな色をつくったり、筆の使い方を工夫したりして、表し方を試す。 ○思いのままにかくことや感覚を通して自分の色や形を見付け、表したいことを考える。 ○思いに合わせて表し方を工夫する。 ○自分や友人の表現した色や形のよさや面白さについて話し合う。	教師：画用紙など 児童：水彩用具一式など	
	下	組んで立ててつなぐぐんぐん	造	2	細い材料でも、工夫次第で大きな形や複雑な形をつくらることができ、ことに喜びを感じ、新しい意味や価値をつくりだそうとする子ども。	～新聞紙で～ ○棒状の新聞紙をつなぎ、形をつくっていく活動に意欲をもつ。 ○友人と協力し、アイデアを共有しながら、つくっていく。 ○互いのつくったものを見合い、よさを味わう。 ～木のえだで～ ○木のえだをつなぎ、形をつくっていく活動に意欲をもつ。 ○友人と協力し、アイデアを共有しながら、つくっていく。 ○互いのつくったものを見合い、よさを味わう。 ～竹ひごやわりばしで～ ○竹ひごや割り箸をつなぎ、形をつくっていく活動に意欲をもつ。 ○いろいろな組み合わせを試しながらつくっていく。 ○互いのつくったものを見合い、味わう。	～新聞紙で～ 教師・児童：新聞紙、セロハンテープなど ～木のえだで～ 教師・児童：えだ、麻ひも、軍手など 児童：はさみなど ～竹ひごやわりばしで～ 教師：竹ひご、割り箸、輪ゴムなど	他教科 道徳：B友情、信頼
5	上	うごいて楽しいわりピンワールド	工	6	簡単な仕組みを使って、動きの感じに合う形や色を考えたり、試しながらかつくりたいものを考えたりし、楽しく想像を広げることに関心をもつ子ども。	○割りピンを使って形を動かす仕組みを知り、活動に興味をもつ。 ○つくった仕組みを動かしながら表したいことを考える。 ○思いに合わせて材料や用具を選び、工夫して表す。 ○動かしながら友人と互いの作品を見合い、よさや面白さを感じ取る。	教師：色画用紙、工作用紙、割りピン、画鋏や目打ち、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤 など 児童：はさみ、のり、色鉛筆、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと

6	上	楽焼き (ねん土マイタウン)	立	2	自分の思いを大切に、友人と関わりながら、町や未来をつくっていくことを楽しむ子ども。	○自分が行ってみたり、住んでみたりしたい町や、町にあるものを思い浮かべて発表する。 ○思い浮かべた様子や試してできた形から表したい町を考えよう。 ○友人と見合ったり、つなげたりしながら、町を広げていく。 ○みんなで行った町を見合って、よさや面白さを伝え合う。	教師・児童：油粘土、土粘土、粘土板、雑巾など 児童：粘土べらなど	他教科 社会：A 身近な地域や市区町村の様子について 道徳：B友情、信頼
	上	人権ポスター (あの日あの時の気持ち)	絵	6	形や色を工夫することで、感じたことや思ったこと、気持ちに合う表し方ができることを知り、より深く生活を見つめ、楽しさや喜びを味わおうとする子ども。	○生活の中で心に残っていることを思い浮かべ、表したい様子や気持ちに合う形や色などを考える。 ○表したい様子から、感じたことや思ったこと、気持ちに合う表し方を考え、工夫しながら絵に表す。 ○友人と互いの絵を見ながら、そのときの感じや気持ちを感じられるところを見つけて伝え合う。	教師：画用紙、色画用紙など 児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
9	上	①お気に入りの葉 【選択】	鑑	2	身近な自然がつくりだす形や色の多様さに気付き、そのよさや面白さを感じながら、大切にしたいと思う子ども。	○外で自分がいいなと思う葉を集める。 ○集めた葉を並べながら、形や色などについて気付いたことを話し合う。 【絵に表す活動を関連付けて指導する場合】 ○混色していろいろな緑色をつくる。 ○つくった緑色や集めた葉を生かして絵に表す。 ○自分の作品や友人の作品を見て、感じたことを伝え合う。	教師：画用紙、模造紙、トレー、透明なシールなど 児童：はさみなど 【「お気に入りの葉から、感じた色をつくろう」を実践する場合】 児童：水彩用具一式、ペンなど	他教科 理科：B生命・地球（1）身の回りの生物
	上	②土をかんじて 【選択】	鑑	2	土の色や触った感じの多様さに気付き、そのよさや面白さを感じながら、大切にしたいと思う子ども。	○学校で土を集めたり、あらかじめ集めた土を見たり、土に触ったりする。 ○ふるいにかけたり、容器に入れたりしながら、土の色や組合せのよさや面白さを味わう。 ○互いに見せ合いながら、感じたことを伝え合う。 【絵に表す活動を関連付けて指導する場合】 ○土のりのりを混ぜ、土の絵の具をつくる。 ○指や手、筆などで試しながら表す。	教師・児童：土、雑巾など 教師：トレー、透明な容器、ふるい、小さいスコップ、シヤベルなど 児童：汚れてもよい服装など 【「土の絵の具をつくってみよう」を実践する場合】 教師：白い板段ボール、洗濯のり、木工用接着剤、筆など	SDGs 11：住み続けられるまちづくりを、12：つくる責任つかう責任、13：気候変動に具体的な対策を、14：海の豊かさを守ろう、15：陸の豊かさを守ろう
6	上	空きようきのへんしん	工	6	自分の生活を基に発想し、身の回りのものを組み合わせながら、生活を豊かに楽しくするものをつくることに喜びを感じる子ども。	○家で使いたい小物入れなどについて、どのようなものを入れたいか、どこで使いたいかなどを発表し合う。 ○空き容器の形を変えたり組み合わせた形をつくりたい形を考える。 ○紙粘土を貼り付けるなどして、思いに合わせた小物入れをつくる。 ○実際に物を入れるなどしてよさを味わう。	教師・児童：空き容器、身近な材など 教師：紙粘土、粘着テープ、リサイクルばさみなど 児童：絵の具、粘土べらなど	SDGs 11：住み続けられるまちづくりを、12：つくる責任つかう責任、13：気候変動に具体的な対策を、14：海の豊かさを守ろう、15：陸の豊かさを守ろう

上	①ぬのでえがく 【選択】	絵	2	材料の色や模様、形、触った感じや、組み合わせたり重ねたりして生まれる感じなどを味わい、試しながら、自分のイメージに合った表し方を模索する子ども。	○布に触れて、形や色、感触などを感じ取る。 ○触れた材料から表したいことを考える。 ○材料を組み合わせた、用具の使い方を工夫したりしながら、表現を深める。 ○表したのを見て、題名を考える。 ○友人と互いの作品を紹介し合いながら、材料の使い方や面白さを伝え合う。	教師：段ボール、布、木工用接着剤、刷毛、共用の絵の具など 児童：はさみ、水彩用具一式など	行事 オーブンスクール
上	②だんボールの形をかえて 【選択】	立	2	日常的に利用している素材に新たな価値を見だし、手を動かしながら試す中で形を見付けたり、つくりかえていくことを楽しみ追求する子ども。	○段ボールを濡らすと、形を変えられることを知り、立体的につくる活動に関心をもつ。 ○段ボールや用具を使って、試しながら形をつくっていく。 ○互いの作品を見合い、よさを味わう。	教師・児童：段ボール 教師：段ボールカッター、木工用接着剤、トレー、洗濯ばさみ、プラカップ、絵の具など 児童：はさみ	行事 オーブンスクール
上	顔を出したら なんだからワクワク	工	4	身近な材料や用具を使い、友人や身近な人にも楽しく使ってもらうことを想像しながら、生活を豊かにするものをつくることに意欲をもつ子ども。	○顔を出したくなるパネルをつくる活動に意欲をもつ。 ○段ボールに穴を開けて顔を出したり、好きなことを思い浮かべたりしながら表したいことを考える。 ○確かめながらつくる。 ○実際に顔を出し合って友人と互いの作品を見合う。	教師・児童：段ボール 教師：段ボールカッター、ローラー、木工用接着剤 児童：水彩用具一式、タブレット端末	他教科 特別活動：(1)学級や学校における生活づくりへの参画
上	ここがすみか	造	2	場所の特徴に着目して自らの想像を膨らませるとともに、自然の材料を生かしながらイメージを形にしていけることを楽しんだり味わったりする子ども。	○学校にあるすみかから想像を広げてつくる活動に関心をもつ。 ○すみを探し、活動場所を考える。 ○自然材を使って場所をつくりかえる。 ○互いのつくったものを見合い、感じたことを伝え合う。	教師：ひも、土粘土（接合用）など 児童：タブレット端末など	SDGs 11：住み続けられるまちづくりを、13：気候変動に具体的な対策を、15：陸の豊かさも守ろう
上	ことばから思いうかべて	絵	4	詩や物語から思い浮かべた様子や雰囲気、イメージを、試しながら少しずつ表現していくことを楽しむ子ども。	○詩や物語から思い浮かべた様子や感じた雰囲気を感じ合おう。 ○詩や物語から想像した様子や感じた雰囲気合う表し方を考え、絵に表す。 ○友人と活動途中の絵を見合い互いの表し方のよさを感じ取り、それをヒントにするなどして自分なりに工夫して表す。 ○表した様子や表し方の工夫を味わいながら鑑賞する。	教師：画用紙、色画用紙など 児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、ペンなど	他教科 国語：(3)我が国の言語文化に関する事項B書くこと、C読むこと

1	上	これがかきたい	エ	2	身近な材料を組み合わせ自分で使うものを自分つくり、使うことに喜びを感じる子ども。 ～小刀を使って～ 木を削ったり身近な材料を組み合わせたりして自分で使うものを自分つくり、使うことに喜びを感じる子ども。	○身近な材料に触れ、触り心地のよさや違いなどを味わう。 ○材料を組み合わせてつくる。 ○かき味を確かめながら、つくりかえていく。 ○完成した筆や、かいた線などを見合う。 ～小刀を使って～ ○小刀の使い方を知る。 ○小刀を使って枝を削ったり、材料を組み合わせたりにつくる。 ○かき味を確かめながら、つくりかえていく。 ○完成した筆や、かいた線などを見合う。	教師・児童：枝、身辺材、雑巾 教師：木工用接着剤、化学接着剤、新聞紙、共用の絵の具、画用紙など 児童：はさみ ～小刀を使って～ 教師・児童：枝、身辺材、雑巾など 教師：小刀、作業板、木工用接着剤、化学接着剤、新聞紙、共用の絵の具、画用紙など 児童：軍手、はさみなど	教師・児童：枝、身辺材、雑巾 教師：木工用接着剤、化学接着剤、新聞紙、共用の絵の具、画用紙など 児童：はさみ ～小刀を使って～ 教師・児童：枝、身辺材、雑巾など 教師：小刀、作業板、木工用接着剤、化学接着剤、新聞紙、共用の絵の具、画用紙など 児童：軍手、はさみなど
2	下	ねんどの板を立ち上げて	立	2	材料に働きかけ、試行錯誤しながら自らの意思で形を立ち上げたことに自信をもつ子ども。	○用具を使って、粘土を大きく立ち上げることに興味をもつ。 ○板状にした粘土の形を変えたり、組み合わせたりして粘土を立たせる。 ○立った粘土の形から思い付いたものを、手と用具の使い方を工夫して表す。 ○友人と互いの作品を見合いながら、よさや面白さを感じ取る。	教師：土粘土、のし棒、たた板、かきべら、切り糸、粘土べら、粘土板、雑巾など 児童：汚れてもよい服装など	
1	上	マグネットマジック	エ	6	他教科で学んだことを生かすことで、よりよいものをつくりだせることを実感し、楽しむ子ども。	○磁石の性質を生かした仕組みをつくり、動く様子から表したいことを考える。 ○材料を組み合わせながら、思いに合うものをつくっていく。 ○動きを試しながらつくりかえて表現を深める。 ○動かしながら友人と互いのよさや面白さを感じ取る。	教師・児童：空き箱、身辺材、セロハンテープなど 教師：磁石、段ボール板、色画用紙、色紙、割り箸、たこ糸、ペン、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤など 児童：水彩用具一式、ペン、はさみ、のりなど	他教科 理科：A物質・エネルギー (4)「磁石の性質」
2	上	【3年】 ひもでつないで	造	2	ひものような細い材料でも工夫すれば自分たちの力で場所の感じを変えていくことができることに喜びを感じる子ども。	○広い空間でひもをつないで場所の様子を変える活動に興味をもつ。 ○ひものつなぎ方や結び方を工夫していろいろな場所にひもを結ぶ。 ○場所にあるものを使ったり、友人と協力するなどして、活動を深める。 ○外から見たり、中に入ったりしながら、自分たちがつくったものや変化した場所の様子を味わう。	教師・児童：毛糸、リボンなど 児童：はさみなど	【3年】 他教科 道徳：B友情、信頼

2	上	【3年】 いろいろうつつして	絵 (版)	4	材料や版の組合せ、色などを試しながら、少しずつ思いを広げ、実現しようとする子ども。	○教科書の参考作品などを見て、材料や写し方、色などを工夫して版に表すことを知る。 ○材料に触れながら表したことを考え、版をつくり、刷る。 ○刷ったものを見て、さらに刷りたしたりかき加えたりして表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合って、よさやいろいろな工夫を伝え合う。	教師・児童：新聞紙、身辺材など 教師：版画用紙、版画用具一式、片面波段ボール、木工用接着剤など 児童：クレヨン・パス、水彩用具一式、はさみ、のりなど	
	下	【4年】 ほってすって見つけて	絵 (版)	6	新しい用具や表現方法に触れ、そのよさを味わいながら表現を広げていくことに喜びを感じる子ども。	○彫刻刀の安全な扱いについて知る。 ○版にいろいろな線や形を彫りながら、表したいことを考える。 ／表したいことを下絵にかき、版木に写して彫る。 ○彫った形を刷って、さらに彫りたすなどして表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合って、彫りの工夫や作品のよさや面白さを伝え合う。	教師・児童：新聞紙など 教師：版木、版画用紙、作業版、版画用具一式、トレーシングペーパーなど 児童：彫刻刀、ペンなど	
3	上	トントン どんどん くぎうって	立	2	新しい用具を積極的に使い、全身の感覚を働かせながら、用具を生かした表し方を思い付き、それを楽しむ子ども。	○金づちの扱いや、釘の打ち方などを知り、釘を打つことに興味をもつ。 ○木に釘を打ちながら、できた形を基に表したいことを考える。 ○思いに合わせてさらに釘を打つ。 ○自分たちの作品を紹介し合いながら、よさや面白さについて話し合う。	教師：木切れ、金づち、釘、釘抜き、ペンチなど 児童：水彩用具一式、ペンなど	
	下	体でかんししょう	鑑	2	全身の感覚を働かせながら対象と関わることで感じるこどがあることを知ったり、他者の感じ方や見方の違いに気づき認め合おうとする子ども。	○人物が表現されている美術作品に出会う。 ○ポーズをとったり、様子や形や色などの感じを基に話し合ったりしながら、登場人物が何をしているのか、どのような気持ちなのかを考える。 ○考えたことを発表し合い、見方や感じ方、考え方を広げる。	教師：美術作品の拡大掲示資料、モニターなど 児童：筆記用具など	他教科 体育：F表現運動系、表現系

第3・4学年（B年度） 図画工作科年間指導計画（60時間）

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	下	まどをのぞいて	造	2	見慣れたいつもの景色にある形や色を生かしながらつくりかえることで、新しい価値をつくりだす喜びを感じる子ども。	○窓から景色を見ながら、つくりかえたいところを探す。 ○窓から見える景色を生かして、窓に材料を貼りながら様子を 変える。 ○確かめながらつくりかえる。 ○つくりかえた様子を友人と紹介し合い、互いの表現のよさや面白さを味わう。	教師・児童：セロハンテープなど 教師：色セロハン、お花紙、メンディングテープなど 指導：はさみ、タブレット端末など	他教科 道徳：日友情、信頼
	下	ようこそ！ゆめのまちへ	立	4	材料に働きかけ、友人と協力しながら、思い付いたつくりたい形に向かって、工夫しながら取り組む子ども。	○みんなで協力して夢の街をつくることを知り、どのようなものがあたら楽しいか考える。 ○段ボールの組合せ方を工夫したり、形を変えたりしながらつくる。 ○思いに合わせて色を塗ったり、形を変えたりする。 ○建物を並べて街をつくり、みんなで見て回り、よさや面白さを味わう。	教師・児童：段ボール箱 教師：段ボールカッター、粘着テープ、共用の絵の具、ローラー、色画用紙、木工用接着剤など 児童：はさみ、水彩用具一式など	他教科 社会：(4)県内の伝統や文化、先人の働きについて (5)県内の特色ある地域の様子について
5・6	下	絵の具でゆめもよう	絵	2	試すことが新しい発見につながるものの楽しさを感じ、どんどん試したり、他者のしていることに興味をもったりする子ども。	○用具を使うことでいろいろな表し方ができることを知る。 ○試したり、技法を組み合わせたりしながら、いろいろな模様の紙をつくる。 ○友人と見合ったり、気に入ったものをまとめて本にしたりして、よさや面白さを味わう。	教師：画用紙、ボール紙、段ボール、片面波段ボール、マーブリングセット、ローラー、ビー玉、トレ、金網、歯ブラシなど 児童：水彩用具一式、はさみ、のりなど 【「もう図かんをつくったよ」を実践する場合】 教師：色画用紙、段ボールなど	
	下	コロコロガーレ	工	6	自分の意思と見通しをもって材料に働きかけ、何度も試しながら楽しいことを実現しようとする子ども。	○つくった簡単なコースや、段ボール箱の中でビー玉を転がしながら、表したいことを考える。 ○形や色の組合せを考えながらコースをつくる。 ○より楽しくなるようにコースの周りの飾りも考えてつくる。 ○友人と遊びながら、互いの作品のよさや面白さを伝え合う。	教師・児童：ビー玉、身辺材など 教師：色画用紙、工作用紙、片面波段ボール、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤、セロハンテープ、両面テープなど 児童：はさみ、のり、水彩用具一式、ペン、タブレット端末など	プログラミング

7	下	人権ボスター (わすれられない気持ち)	絵	6	形や色を工夫すること、感じた気持ちに合う表し方ができることを知り、より深く生活を見つめ、心に残っていることを大切にしようとする子ども。	○自分の心に残っていることから、表したいことを考える。 ○そのときの気持ち表れるように、材料や用具の使い方を工夫しながら表す。 ○友人と作品を見せ合いながら、表したかったことやそのときの気持ちについて伝え合う。	教師:画用紙、色画用紙、コシテ、パステルなど 児童:水彩用具一式、クレヨン、パス、ペン、色鉛筆など	他教科 国語:A話すこと・聞くこと、B書くこと
9	上	絵を見て話そう	鑑	2	美術作品を見て話したり、想像したことを簡単な絵に表したものを見合ったりしながら、いろいろな感じ方や考え方に触れることを楽しむ子ども。	○美術作品と出会い、鑑賞する活動に関心をもち。 ○美術作品を見て感じたことや考えたことを、友人と伝え合う。 ○作品の気に入った部分や、自分が想像したことを簡単な絵に表し、伝え合う。	教師:鑑賞する美術作品の 大判掲示資料、モニター、 画用紙など 児童:タブレット端末、筆記用具、色鉛筆など	他教科 国語:A話すこと・聞くこと、B書くこと 道徳:B相互理解、寛容
	下	のこぎりギコギコ	立	4	全身の感覚を働かせながら自然の材料を味わい、新しい用具を扱えることに喜びを感じる子ども。	○のこぎりや木をどんどん切っていく活動に意欲をもつ。 ○のこぎりの安全な使い方を学ぶ。 ○木を思いのままに切っていく。 ○切ってきた形を組み合わせてつくる。 ○互いの作品を見せ合い、よさを伝え合う。	教師:のこぎり、金づち、釘、 クランプ、軍手、紙やすり、木 工用接着剤 児童:(水彩用具一式)	
10	下	光とかげから生まれる形 ～明るいうちで～	造	2	いつもと違う見方をすること、新しい見え方を見付け、よりよい見え方をつくりだそうとする子ども。	○いろいろなものの影を確かめながら、どのようなことができて うかがえる。 ○友人と協力して、できる影の形を確かめながら、材料を組み 合わせたり体を使ったりして活動を工夫する。 ○タブレット端末で撮影するなどして、自分たちのつくった影を 発表し合い、互いの表現のよさや面白さを味わう。	教師:体育用具、傘など 児童:帽子、タブレット端末 など	他教科 理科:A物質・エネルギー (3)光と音の性質 行事 オープンスクール
	下	①おもしろダンボール ボックス 【選択】	工	6	自分の発想や考え方を基に表したものを生活の中で活用すること、生活を豊かに楽しくできることに喜びを感じる子ども。	○段ボールの形や開き方、特徴を生かした自分なりの入れ物 を考える。 ○材料や用具の使い方を工夫してつくる。 ○実際に使うなどしてよさを味わう。	教師・児童:段ボールなど 教師:色画用紙、段ボール カッター、カッターナイフ、 カッターマット、木工用接着 剤、粘着テープなど 児童:はさみ、のりなど	SDGs 11:住み続けられるまち づくりを、12:つくる責任 つかう責任、13:気候変 動に具体的な対策を、 14:海の豊かさを守 う、15:陸の豊かさを守 ろう
	下	②きって楽しいきって使 える 【選択】	工	6	自然の材料に触れる楽しさを感じながら使えるものをつくることや、実際に使って生活を豊かにすることに喜びを感じる子ども。	○のこぎりの安全な使い方を学ぶ。 ○つくりたいものを考え、板材や角材を切って、いろんな形をつ くる。 ○切った木を組み合せながらつくる。 ○材料を組み合せたり色を塗ったりする。 ○できたものを飾ったり使ったりしてよさを味わう。	教師・児童:身辺材など 教師:板材、角材、のこぎり、 釘、金づち、きり、クランプ、 紙やすり、木工用接着剤な ど 児童:水彩用具一式など	

11	下	①言葉から感じて 【選択】	絵	4	詩や物語などから、いろいろな様子や雰囲気を思い浮かべながら絵に表すことで、さらに想像を広げることが出来る子ども。	○詩や物語などから思い浮かべた様子や感じた雰囲気を話し合う。 ○詩や物語などから想像した様子や感じた雰囲気に合う表し方を考え、絵に表す。 ○互いの表し方の工夫を見付け、ヒントにしながら表現を深める。 ○表した様子や表し方の工夫を味わいながら、友人と互いの作品を鑑賞する。	教師・児童：詩や物語など 教師：画用紙、色画用紙、コンテ・パスデールなど 児童：水彩用具一式、ペン、はさみ、のりなど	他教科 国語：(3)我が国の言語文化に関する事項B書くこと、C読むこと
	下	②まぼろしの花 【選択】	絵	4	少しずつ自分の中に広がっていく思いや想像を大切に する子ども。	○「まぼろしの花」という言葉から、自分なりの想像を広げる。 ○球根や種をつくったり、画用紙に色を塗り込んだりしながら、自分の中のまぼろしの花の世界を育てていく。 ○想像したことを基に、材料や用具の使い方を工夫して使い、まぼろしの花の世界を表す。 ○友人と作品を紹介し合いながら、よさや面白さを味わう。	教師：画用紙、段ボール、ローラー、紙粘土など 児童：水彩用具一式など	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
12	上	切っけてかき出しくつつけて	立	2	用具を使うことでできる表現があることに気付く、そのよさを生かしながらつくりだそうをする子ども。	○用具の基本的な扱いについて知り、使うことに興味をもつ。 ○用具を使ってできることをいろいろと試しながら表したいことを見付ける。 ○できた形を組み合わせたり、手や用具でさらに形を変えたりしながら表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合って、用具の使い方の違いや、表現の面白さを味わう。	教師・児童：粘土板、雑巾、新聞紙、歯ブラシなど 教師：土粘土、切り糸、かきべらなど 児童：粘土べらなど	
	下	幸せを運ぶカード	工	4	相手の気持ちを考えながら、より喜んでもらえるものをつくろうと工夫して表し、自分の気持ちを伝えようとする子ども。	○教科書などを見て飛び出す仕組みを知り、つくる。 ○仕組みを動かしたり、伝えたい相手や伝えたいことを考えたりしながら表したいことを考える。 ○気持ちが伝わるように材料や用具の使い方を工夫して表す。 ○できたカードを友人と見合ったり、相手に渡したりしてよさや工夫を感じ取る。	教師・児童：身辺材、色紙など 教師：画用紙、色画用紙、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤など 児童：クレヨン・パス、ペン、色鉛筆、はさみ、のりなど	【3・4年】 他教科 算数：B図形 道徳：B感謝、親切、思いやり
1	下	ゴムでゴー！ゴー！ ゆめの乗り物	工	6	生活や他教科での経験や学習を生かしながら、自分の思いをよりよく実現させていくことに喜びを感じる子ども。	○ゴムの力で動く車の仕組みを知り、つくる。 ○仕組みを動かしながら、表したい車を考える。 ○確かめながら、材料や用具を工夫して、自分だけの車をつくる。 ○友人と互いの作品を見合って、よさやいろいろな工夫を伝え合う。	教師・児童：空き箱、ペットボトルキャップなど 教師：色画用紙・厚紙、片面波段ボール、段ボール、輪ゴム、ストロー、たこ糸、竹ひご、カッターナイフ、カッターマット、きり、木工用接着剤、化学接着剤など 児童：ペン、はさみ、のりなど	他教科 理科：A物質・エネルギー (2)風とゴムの働き

2	上	【3年】 ひもでつないで	造	2	ひものような細い材料でも工夫すれば自分たちの力で場所の感じを変えていくことができることに喜びを感じる子ども。	○広い空間でひもをつないで場所の様子を変える活動に興味をもつ。 ○ひものつなぎ方や結び方を工夫しているいろいろな場所にひもを結ぶ。 ○場所にあるものを使ったり、友人と協力するなどして、活動を深める。 ○外から見たり、中に入ったりしながら、自分たちのつくったものや変化した場所の様子を味わう。	教師・児童：毛糸・リボンなど 児童：はさみなど	【3年】 他教科 道徳：日友情、信頼
	上	【3年】 いろいろなうつつして	絵 (版)	4	材料や版の組合せ、色などを試しながら、少しずつ思いを広げ、実現しようとする子ども。	○教科書の参考作品などを見て、材料や写し方、色などを工夫して版に表すことを知る。 ○材料に触れながら表したいことを考え、版をつくり、刷る ○刷ったものを見て、さらに刷りたしたりかき加えたりして表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合って、よさやいろいろな工夫を伝え合う。	教師・児童：新聞紙、身辺材など 教師：版画用紙、版画用具一式、片面波段ボール、木工用接着剤など 児童：クレヨン・パス、水彩用具一式、はさみ、のりなど	
	下	【4年】 ほってすって見つけて	絵 (版)	6	新しい用具や表現方法に触れ、そのよさを味わいながら表現を広げていくことに喜びを感じる子ども。	○彫刻刀の安全な扱いについて知る。 ○板にいろいろな線や形を彫りながら、表したいことを考える。 ／表したいことを下絵にかき、版木に写して彫る。 ○彫った形を刷って、さらに彫りたすなどして表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合って、彫りの工夫や作品のよさや面白さを伝え合う。	教師・児童：新聞紙など 教師：版木、版画用紙、作業板、版画用具一式、トレーシングペーパーなど 児童：彫刻刀、ペンなど	
3	上	クミクミックス ～ボール紙で～	造	2	平面のものでも組み合わせることのできる立体的なものに変化する面白さを味わい、友人と協力することで大きいものをつくりだすことができる喜びを感じる子がたくさんいる。	○ボール紙をはさみでいろいろな形に切る。 ○切ったボール紙に切込みを入れて形を組み合わせる。 ○組み合わせてできた形を見ながら、次に組み合わせたい形や場所を考え、形をつくりかえていく。 ○友人とできた形を紹介し合いながら、互いのつくった形のよさや面白さを感じる。	教師：ボール紙 児童：はさみ	他教科 道徳：日友情、信頼
	下	写真をとったらみえてきた	鑑	2	いつもと違う見方をすること、新しい見え方を見付け、自分や友人の多様な気付きや感じ方を大切にしようとする子ども。	○身の回りにあるものをいつもとは違った見方で見て、写真を撮る活動に関心をもつ。 ○身近な場所で写真を撮る。 ○撮った写真を見合い、よさや面白さを味わう。	教師：鑑賞作品2枚程度 (校内や教室内で事前に撮っておくか、教科書の掲載写真を使用する) 児童：タブレット端末、筆記用具など	

第5・6学年（A年度） 図画工作科年間指導計画（50時間）

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	上	心のまよう	絵	3	材料や用具に触れながら自分の気持ちを考えたり、生み出した形や色の中から自分の気持ちを表現したりしながら、今の自分を見つめる子ども。	○いろいろな描画材を使いながら、思いのままにかき、できた形や色からイメージする「気持ち」を考える。 ○かいたものを使ってアートゲームなどをして感じ方の違いを楽しむ。 ○かいたものを並べたり形を変えたりかき加えたりして「心」を表す。 ○互いの作品を見合うなどして、よさや美しさを感じ取る。	教師：小さく切った画用紙、基底材（画用紙・段ボールなど）、コンテ、パステル、ぼかし網など 児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、はさみ、のりなど	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
5	上	①ミラクル！ミラーワールド【選択】	立	6	材料がもつ特性によって表現の幅が広がることに興味をもち、試しながら発想を広げ、工夫して意欲的につくり続けていく子ども。	○鏡やミラーシートを使って映り方を試し、よさを感じ取る。 ○ステージをつくり、試しながら表したいもの考える。 ○材料や用具を活用しながらつくる。 ○鏡に映る世界の楽しさや工夫したところなどを伝え合う。	教師：ミラーシート、段ボール、紙粘土、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤など 児童：水彩用具一式、はさみ、のり、タブレット端末など	他教科 理科：A物質・エネルギー (3)光と音の性質
	上	②のぞいてみると【選択】	立	6	「穴をのぞく」という行為をきっかけにしながら想像を広げていき、学んだことを生かしながら思いを形にすることに喜びを感じる子ども。	○段ボール箱に穴を開けて、光の差し込む様子を味わう。 ○光の差し込む様子を基に表したいことを考える。 ○材料を活用しながらつくる。 ○友人と互いの作品をのぞいてみながら、表現の違いや工夫を味わう。	教師・児童：段ボール箱、身辺材など 教師：段ボールカッター、カッターナイフ、カッターマット、目打ち、木工用接着剤、針金、ペンチ、色セロハン、アルミホイル、懐中電灯など 児童：はさみ、のりなど	
6	下	楽焼き (使った楽しい焼き物)	工	2	自分がつくったものに愛着を感じ、使うことを楽しみ、よりよい生活をつくりだそうとする子ども。	○粘土の成形の方法について知る。 ○生活のどの場面で使うのか考え、つくりたいものやつくり方を考える。 ○つくりたいものに合うように手や用具を活用しながらつくる。 ○実際に使うなどして、作品のよさを味わい、友人と伝え合う。	教師・児童：粘土板、新聞紙など 教師：焼成用の粘土、かきべら、釉薬、切り糸、たたら板、のし棒など 児童：粘土べら、雑巾など	他教科 社会：(2)我が国の歴史上の主な事象について 道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
7	上	人権ポスター (あの時あの場所わたしの思い)	絵	5	生活の中で心に残ったことを、そのときに感じた印象や思いを表したり伝えたりしながら大切にしようとする子ども。	○生活の中で心に残ったことを思い浮かべたり、表したいことを整理したりする。 ○思い浮かべた様子から、感じたことや思ったこと、気持ちに合う表し方を考え、工夫しながら絵に表す。 ○友人と互いに作品を見合い、表した様子や表し方の工夫を味わう。	教師：画用紙、色画用紙、金網、歯ブラシなど 児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くことB書くこと 道徳：C国際理解、国際親善

9	上	あんなところがこんなところ	造	3	見慣れたものやことも見直したり、視点を覚えて見たりし、働きかけることによって新しい見え方になることを知り、さまざまな見方を試そうとする子ども。	○形や色、あるものなどを確かめながら、いろいろな場所を見て回る。 ○気に入った場所を、場所の形や色などの特徴、あるものなどを生かしながら、材料や用具を工夫して使いつくりかえる。 ○友人と互いがつくりかえた場所を見て回り、よさを伝え合う。	教師：色画用紙、色セロハン、カッターナイフ、カッターマット、ペンなど 児童：タブレット端末、セロハンテープ、のりなど	他教科 社会：(2)我が国の歴史上の主な事象について 道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
10	下	墨と水から広がる世界	絵	4	限られた材料や用具、色だけでなく、豊かな表現ができることを楽しみ、試しながら表現を追求しようとする子ども。	○墨と水を使って、いろいろな表現を試す。 ○試したことを基に表したいことを考える。 ○墨と水、筆などの使い方を工夫して表現を深める。 ○友人と互いの作品を見合いながら、工夫やよさを感じ取る。	教師・児童：新聞紙など 教師：墨、和紙、筆、刷毛、小皿など 児童：雑巾、書写用具一式など	他教科 理科：A物質・エネルギー (3)光と音の性質 道徳：C伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D感動、畏敬の念
11	上	①美しく立つはり金 【選択】	立	6	単一の材料のみでも、特性を生かして工夫すると自分にとっての美しい形を生みだせることに興味をもち、試しながら思いを実現しようとする子ども。	○針金に触れて、いろいろな立たせ方を試す。 ○いろいろな表現を楽しみながら立ち上がる形を工夫してつくる。 ○表したいものを見て題名を考える。 ○互いの作品を紹介し合い、自分や友人の作品のよさや美しさを感じ取る。	教師：針金、ペンチ、ラジオペンチなど 児童：軍手	
	上	②紙から生まれる すてきな明かり 【選択】	工	6	限られた材料でも、経験を生かすことで生活を豊かに彩るものをつくることができ、感じる子ども。	○和紙や材料に光を当てて、光の通る感じを味わいながら、表したいことを考える。 ○紙のできることを試し、工夫して表す。 ○実際に使うなどして作品のよさや美しさを味わう。	教師：白画用紙、色セロハン、お花紙、和紙、カッターナイフ、カッターマット、LEDライトなど 児童：はさみ、のり、セロハンテープなど	他教科 理科：A物質・エネルギー (3)光と音の性質 道徳：C伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D感動、畏敬の念
12	上	水から発見!!ここきれい!	鑑	2	いつも見慣れているものを新たな視点で見たり、手を加えたりしながら、よさや美しさを発見することを楽しみ、自分の見方や感じ方を広げ、深めることができる子ども。	○透明な容器に水を入れるなどしながら、変化する形や見え方の違いを見付ける。 ○水に色を付けたり、いろいろな用具を使ったりしながら、より美しく見えるように工夫する。 ○よさや美しさを感じたところを撮影する。 ○写真などを見せながら、美しさを感じたところなどを友人と紹介し合う。	教師・児童：ペットボトル、透明容器、雑巾など 教師：スポイト、染料(カラーインク、食紅など)、ミラーシート、懐中電灯、三脚、白模造紙、ビニルシート、ワークシート、モニターなど 児童：タブレット端末、筆記用具など	他教科 道徳：B相互理解、寛容、D感動、畏敬の念
	上	①言葉から思いを広げて 【選択】	絵	5	詩や物語に触れ感じたことを形や色で表すことで、思いを深めることを楽しむ子ども。	○詩や物語、随筆などを読んで、感じたことや思い浮かべたことを小さな紙に簡単にかく。 ○かいたことや読んで感じたことを基に表したいことや表し方を考えて表す。 ○友人と互いの作品を紹介し合い、どのようなことを表したのかを伝え合う。	教師：画用紙・色画用紙、コピー・パステルなど 児童：水彩用具一式、鉛筆、ペンなど	他教科 国語：(3)我が国の言語文化に関する事項 B書くこと C読むこと

12	上	②まだ見ぬ世界 【選択】	絵	5	見ている物から見ええないものを想像し、豊かにイメージを広げ、少しずつ形にしていることとする子ども。	○心に留まる写真を選ぶ。 ○写真から、「まだ見ぬ世界」の色や形や様子を想像し、工夫して表す。 ○自分たちの作品を鑑賞して、互いのよさや表し方の違いを感じ取る。	教師・児童：写真など 教師：基底材(画用紙・色画用紙・黄ボール紙・白ボール紙など)、コンテ・パステル、ローラーなど 児童：水彩用具一式、はさみ、のりなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと B書くこと
1	上	ほり進めて刷り重ねて	絵 (版)	5	見通しをもって順番を考えながら、偶然や予想外のことでも楽しんだり、失敗も生かそうとしたりする子ども。	○彫り進み木版の方法について知り、表したいことを考える。 ○下絵をかき、色の付け方や彫る順番を考える。 ○彫刻刀の使い方を工夫しながら彫って刷ることを繰り返す。 ○友人と作品を見合いながら、表現の工夫やよさなどを伝え合う。	教師・児童：新聞紙、雑巾など 教師：版木、版画用紙、作業版、版画用具一式、トレーシングペーパーなど 児童：彫刻刀、筆記用具など	
2	上	光と場所のハーモニー	造	3	互いの考えを尊重し合いながら、材料の特徴を効果的に生かし、身の回りに働きかけることで環境や状況をよりよく変えてみようとする能動性をもった子ども。	○いろいろな材料に光を当てて、壁や天井などに映る形や色を試す。 ○映した場所の様子や、材料と光の組合せからイメージをもち、互いにアイデアを出し合いながら、場所の様子をつくりかえる。 ○みんなでつくりかえた場所の様子を味わい、よさや美しさを感じ取る。	教師・児童：光を当てる材料(ペットボトル、プラ容器、かご、身辺材など)、セロハンテープなど 教師：LEDライト、懐中電灯、色セロハン、ミラーシートなど 児童：タブレット端末	他教科 理科：A物質・エネルギー (3)光と音の性質
	上	感じたことを伝え合う	鑑	2	知らないものに出会ったときに、自分なりに意味や価値を見いだし、自分と違う考えに触れて意味や価値を更新していくことを楽しむ子ども。	○教科書の二つの美術作品を見て、感じたことを基に作品に名前を付ける。 ○考えた名前や名前を付けた根拠を友人と伝え合い、感じ方の違いやよさ味わう。 ○改めて作品を見たり、友人の意見も考え合わせたりしながら、再度名前を考える。	教師：美術作品の大判掲示資料、モニター、ワークシートなど 児童：筆記用具、タブレットなど	
3	上	【5年】 ①ふれて伝えるストーリー 【選択】	工	4	触れるからこそ感じられることがあることや、触れ方によって感じ方が変わることを知り、見るだけでなく形や色などとの関わりを楽しむ子ども。	○教科書掲載の美術作品の動画像を鑑賞し、触れて伝える作品があることに興味をもつ。 ○材料に触れ、材質感の違いに気付いたり、触った感じからイメージを広げたりする。 ○材料を並べながら、表したいストーリーを考える。 ○構成を考えながらつくる。 ○互いの作品に触って鑑賞し、よさ味わう。	教師・児童：身辺材(いろいろな触り心地のもの) 教師：段ボール、木工用接着剤、粘着テープ、カッターナイフ、カッターマットなど 児童：はさみ、セロハンテープなど	【5年】 他教科 道徳：C公正、公平、社会正義
	上	【5年】 ②形に命をふきこんで 【選択】	工	4	身の回りのさまざまなものの「動き」に着目することで、世界に対して興味や関心、好奇心をもつて接しようとする子ども。	○コマ撮りアニメーションの仕組みを知る。 ○撮影によってどのような動きに見えるか試してみる。 ○動きを表す言葉を考えて、その動きに見えるように撮影してみる。 ○表したことを基にテーマを考えるなどしてさらに表現を深める。 ○適宜友人と見合いながら、よさや工夫を感じ取る。	教師：タブレット端末、モニター、身辺材など 児童：タブレット端末、身辺材など	

下	【6年】 ①あったらいいなプロジェクト 【選択】	エ	4	自分たちが生活する学校や町の在り方について考え、主体的・創造的に関わろうとする意欲や、地域や社会の一員としての意識をもつ子ども。	○身近な社会の環境や問題について話し合い、よりよい学校や町づくりへの思いを膨らませる。 ○アイデアスケッチをしながら、よりよい学校や町づくりの計画を立てたり、表現方法を考えたりする。 ○身近な材料や今までに経験した方法を活用して、計画を模型や設計図などに表す。 ○作品を基に思いや願い、考えたことについてプレゼンテーションする。	教師・児童：空き箱、身辺材、セロハンテープ、木工用接着剤など 教師：色画用紙、工作用紙、お花紙、カッターナイフ、カッターマット、化学接着剤など 児童：水彩用具一式、ペン、はさみ、のり、タブレット端末など	【6年】 SDGs 5:ジェンダー平等を実現しよう、8:働きがいも、経済成長も、9:産業と技術革新の基礎をつくろう プログラミング
下	【6年】 ②未来のわたし 【選択】	立	4	自分自身を見つめ、将来の自分について願いと希望をもち、想像力を発揮し試しながら、未来をつくっていかうとする子ども。	○未来の自分がしたいことや様子を思い浮かべたり話し合ったり調べたりする。 ○表したい様子を考え、ポーズなどを考えながらつくる。 ○材料や用具を活用して、周りの様子もつくる。 ○作品を友人に見せて、将来の夢やしたいことなどをどのように表したのかを紹介し合う。	教師・児童：身辺材、セロハンテープなど 教師：紙粘土、アルミ針金、ペンチ、ラジオペンチ、麻ひも、台木、金づち、ステープル、色画用紙、木工用接着剤など 児童：水彩用具一式、はさみ、のりなど	【6年】 他教科 道徳:A希望と勇気、努力と強い意志

第5・6学年（B年度） 図画工作科年間指導計画（50時間）

月	上下	題材	分野	時数	育てたい子どもの姿	主な学習内容	主な材料・用具	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
4	下	音の絵	絵	3	音という目に見えないものを形や色に置き換える楽しさや難しさを感じたり、生活へと目を向けよさを感じたりしようとする子ども。	○教科書のQRコンテンツから音を聞き、簡単な絵に表す。 ○生活の中で音を探し、簡単な絵に表す。 ○さらに音を聞いたり、簡単な絵に表したのを見たりしてイメージを広げて絵に表す。 ○互いの作品を見合い、感じ方や表し方の違いや、よさを味わう。	教師：画用紙、色画用紙、コンテ・パステル、色セロハン、お花紙など 児童：水彩用具一式、クレヨン・パス、ペン、タブレット端末など	他教科・行事・地域・こども園・中学校との関連
5	上	①糸のこすいスイ 【選択】	立	6	偶然できた形を生かして、自分がよいと感じることを追求しようとして何度も試行する子ども。	○電動糸のこぎりの安全な使い方を知る。 ○電動糸のこぎりで思いのままに板を切り形をつくる。 ○切り分けた板に切込みを入れてつなげる方法を知り、いろいろな組合せを考える。 ○板に着色したり、さらに切り分けたり、切込みを入れたりしてつくる。 ○表したのを見て題名を考える。 ○作品を友人と一緒に見合い、切り分けた形や組み合わせた面白さについて話し合う。	教師：電動糸のこぎり、ベニヤ板、紙やすり、ニス、刷毛など 児童：水彩用具一式、鉛筆など	他教科 音楽：B鑑賞（1）鑑賞の活動
6	上	②切り分けた形から何つくる？ 【選択】	工	6	いろいろな人に楽しんでもらうことを想像しながら、材料の特徴を生かして遊ぶものの自らつくりだすことに喜びを感じる子ども。	○電動糸のこぎりの安全な使い方を知る。 ○自由に切り分けた板を一回り大きな段ボールや板などに並べ、ゲームを考える。 ○板をさらに切ったり、色を付けた材料を組み合わせたたりするなど、工夫してつくる。 ○つくった作品で友人と遊び、互いの作品のよさや工夫したところを話し合う。	教師・児童：ビー玉、身辺材など 教師：電動糸のこぎり、金づち、釘、ざり、紙やすり、ベニヤ板、厚めの段ボール板、木工用接着剤など 児童：水彩用具一式、ペン、色鉛筆、はさみなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
7	下	人権ポスター （わたしの大切な風景）	絵	5	毎日の生活の中や身の回りにおける大切なものやことに気付くとともに、それに思いを寄せたり自分を見つめたりする子ども。	○自分の生活や身の回りの回りを見つめ、大切な風景を思い浮かべる。 ○思いが表れるように表し方を構想して、自分が大切に思う風景を表す。 ○友人と互いの作品を紹介し合い、感じたことや考えたことを伝え合う。	教師：画用紙、色画用紙など 児童：水彩用具一式、クレヨン・パス、ペンなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと
7	下	この筆あと、どんな空？	鑑	2	さまざまな美術作品の表現方法の違いや特徴によるよさや美しさを感じ取り、表現した人の思いや考えに思いを巡らせる子ども。	○空のかかれた美術作品を見て、その表現方法の特徴や違いについて話し合う。 ○空の表現の特徴などをまねたり試したりしながら確かめる。 ○確かめたことをさらに話し合い、改めて作品を見て、よさや美しさを味わう。	教師：鑑賞する美術作品の掲示資料、モニター、画用紙など 児童：タブレット端末、水彩用具一式など 【「自分の空をかこう」を実践する場合】 教師：画用紙など 児童：水彩用具一式、クレヨン・パスなど	他教科 国語：A話すこと・聞くこと、B書くこと

9	下	くるくるクランク	工	6	仕組みを工夫することで新たな動きをつくりだせることを知り、生活や社会での活用について関心をもつ子ども。	○クランクの仕組みを知り、つくる。 ○仕組みを動かしながら表したいことを考える。 ○材料や用具の使い方を工夫して表す。 ○作品を動かして見合いながら、よさや表現の工夫を味わい伝え合う。	教師・児童：空き箱、身辺材など 教師：針金、ペンチ、ラジオペンチ、きり、色画用紙、ストロー、竹ひご、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤など 児童：ペン、はさみ、のり、セロハンテープなど 他教科 理科：A物質・エネルギー(3)でこの規則性	
10	上	消してかく	絵	4	画面の中に生まれる自分にとってのよい形を探しながら、納得のいくまで試し、イメージを立ち上げる感覚を味わえる子ども。	○体全体でコンテで画用紙を塗り込めて、何もない画面をつくる。 ○消しゴムで消して生まれた形から、表したいことを見付ける。 ○消した形を生かしながら、工夫して表す。 ○作品の題名を考える。 ○友人と互いの作品を見合いながら、よさや美しさを感じ取る。	教師・児童：雑巾など 教師：コンテ・パステル、画用紙、木炭紙、定着液(フィキサチーフ)など 児童：消しゴム、汚れてもいい衣装など 他教科 道徳：A個性の伸長	
	下	①固まった形から【選択】	立	4	対象の形をいろいろな方向から見ることで見え方が変化することを知り、多様な見え方から面白さを感じ取りイメージを広げ、表現を深めようとするとする子ども。	○布に触れて、いろいろな形を見付ける。 ○液体粘土に布を浸して、つるしたりねじったりいろいろな形を試して、よいと思った形で固定する。 ○固まった形をいろいろな向きから見て思い付いたことを表す。 ○自分の作品を置きたい場所を探し、置いてタブレット端末などで撮影するなどし、紹介し合う。	教師：布、空き缶、空き瓶、ペットボトル、段ボール箱、洗濯ばさみ、ハンガー、液体粘土、トレー、新聞紙など 児童：水彩用具一式、雑巾、タブレット端末など	
11	下	②ここから見ると【選択】	工	4	自分たちの力で周りの人を楽しませることができると有用を感じ、よりよいものにしていこうとする子ども。	○教科書などを参考にしながら、ある場所から見るとつながって見える造形があることを知る。 ○校内の場所などを見て回りながら、活動できそうな場所や、活動を考える。 ○場所の特徴を生かしたり、材料や用具を活用したりして、確かめながらつくる。 ○友人と互いがつくったものを見合い、その面白さや工夫を伝え合う。	教師・児童：セロハンテープなど 教師：画用紙、色画用紙、ビニルテープ、養生テープなど 児童：はさみ、のり、タブレッツ	
	下	自然を感じるすてきな場所	造	2	自然にあるものや自然現象を生かすことで、すべてが思い通りになるわけではないことを感じながら、大切にしようと思える子ども。	○自然村を生かしながら、場所をすてきにつくりかえる活動に意欲をもつ。 ○活動場所を探す。 ○グループでアイデアを出し合いながら、場所をつくりかえていく。 ○互いのつくった空間を見合い、よさを感じあう。	教師：*落ち葉の庭で：落ち葉や枝などの自然材、麻ひもなど *雨の行方を想像して：プラスチックカップ、ビニル袋、洗濯ばさみなど *風の通り道で：ビニルシート、PEテープ、紙テープなど 児童：汚れてもいい服装、軍手、タブレット端末 SDGs：11：住み続けられるまちづくりを、12：つくる責任、13：気候変動に具体的な対策を、14：海の豊かさを守ろう、15：陸の豊かさを守ろう 他教科 道徳：B友情、信頼、愛護	

	下	①言葉から想像を広げて【選択】	絵	4	詩や物語などから広がるイメージを形や色で捉え、より深くその言葉を味わい、新たな価値を見いだす子ども。	○詩や物語などを読んで、感じたことや思い浮かんだことを小さな紙に簡単にかく。 ○かいたことや読んで感じたことを基に表したいことや表し方を考えて表す。 ○友人と互いの作品を紹介し合い、どのようなことを表したのかを伝え合う。	教師：画用紙、色画用紙、黄ボール紙、コンテ、パスティルなど 児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、色鉛筆、ペン、鉛筆など	他教科 国語：(3)我が国の言語文化に関する事項B書くこと、C読むこと
12	下	②感じて考えて【選択】	絵	4	材料などから得た感覚を基に自らの思いをもったり、思いを表すために材料などに働きかけたりすることを繰り返しなが、思いを深めて表現していく子ども。	○体全体の感覚を働かせながら、材料に働きかけ、表したいことを考える。 ○表したいことに合わせて材料や用具を活用し、働きかけて変化したことからさらに考えを深めて表現する。 ○表現したものを見て題名を考える。 ○友人と互いに作品を見合いながら、表現の変化や工夫、感じたことなどを伝え合う。	教師・児童：身辺材など 教師：基底材（板材・厚紙・段ボール、画用紙、色画用紙など）、液体粘土、段ボールカッター、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤など 児童：はさみ、筆記用具など	
	下	糸から生まれるわたしの空間	造	2	限られた材料しかない中でも周囲にあるものを活用したり協力したりして、よりよくしていこうと努力する子ども。	○場所の特徴を生かして、糸を張って新たな空間をつくる活動に意欲をもつ。 ○グループでアイデアを出し合いながら、糸を張っていく。 ○つくりつつある空間を確かめ、さらにつくりかえる。 ○できあがった空間を見合い、よさや美しさを味わう。	教師：毛糸など、トレヤ箱、作業台 児童：タブレット端末、はさみ	他教科 算数：B図形
	下	もようから見つけて	鑑	3	伝統の中にある模様やデザインのよさや美しさを感じ取り、それらを受け継ぎ、発展させていこうとする子ども。	○生活の中にある文様を探す。 ○見たり実際に触れたりしながら、見付けたことを話し合い、よさや美しさを感じ取る。 ○版の技法を生かして自分たちでも文様をつくることで、文様を見て感じたこと、考えたことを確かめる。	教師・児童：伝統的な紋様が入った身の回りのもの 教師：参考図版、モニター 【「もようをつくらう」を実践する場合】 教師：【木版で】版木、版画用具一式、和紙／【型紙で】インク、布、画用紙、たんぽ／【消しゴム版で】インク、消しゴムなど 児童：汚れてよい服装、彫刻刀、水彩用具一式など	他教科 社会：(2)我が国の歴史上の主な事象について 算数：B図形
2	下	版で広がるわたしの想い	絵 (版)	5	自分の思いに合った表現を見付け、試しながら表すことを楽しみ、何度も表現することによって喜びを見いだす子ども。	○版に表したいことを考え、これまでに学習した版づくりの経験や基に、どのような版表現にするか決める。 ○選んだ版表現の手順を確認し、アイデアスケッチや下絵をかく。 ○版をつくり刷る。思いに合わせて繰り返し加えたりする。 ○友人と互いの作品を紹介し合い、よさや表現の工夫を伝え合う。	教師・児童：新聞紙など 教師：版木・ゴム板・スチレンボードなど、版画用具一式、版画用紙、作業板、色画用紙など 児童：彫刻刀、水彩用具一式など	他教科 道徳：A個性の伸長、C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

上	【5年】 ①ふれて伝えるストーリー 【選択】	エ	4	触れるからこそ感じられること とがあることや、触れ方によ って感じ方が変わること を知り、見るだけでなく形や色 などとの関わりを楽しむ子 ども。	○教科書掲載の美術作品の動画を鑑賞し、触れて伝える作品 があることに興味をもつ。 ○材料に触れ、材質感の違いに気付いたり、触った感じからイ メージを広げたりする。 ○材料を並べながら、表したいストーリーを考える。 ○構成を考えながらつくる。 ○互いの作品に触って鑑賞し、よさを味わう。	教師・児童:身辺材(いろいろな 触り心地のもの) 教師:段ボール、木工用接着 剤、粘着テープ、カッターナイ フ、カッターマットなど 児童:はさみ、セロハンテープ など	他教科 道徳:C公正、公平、社会正義 など
上	【5年】 ②形に命をふきこんで 【選択】	エ	4	身の回りのさまざまなものの 「動き」に着目することで、世 界に対して興味や関心、好 奇心をもって接しようとする 子ども。	○コマ撮りアニメーションの仕組みを知る。 ○撮影によってどのような動きに見えるか試してみる。 ○動きを表す言葉を考え、その動きに見えるように撮影して みる。 ○表したことを基にテーマを考えるなどしてさらに表現を深め る。 ○適宜友人と見合いながら、よさや工夫を感じ取る。	教師:タブレット端末、モニ ター、身辺材など 児童:タブレット端末、身辺 材など	
下	【6年】 ①あったらいいなプロジェクト 【選択】	エ	4	自分たちが生活する学校や 町の在り方について考え、主 体的・創造的に関わろうとす る意欲や、地域や社会の一 員としての意識をもつ子 ども。	○身近な社会の環境や問題について話し合い、よりよい学校 や町づくりへの思いを膨らませる。 ○アイデアスケッチをしながら、よりよい学校や町づくりの計画 を立てたり、表現方法を考えたりする。 ○身近な材料や今までに経験した方法を活用して、計画を模 型や設計図などに表す。 ○作品を基に思いや願い、考えたことについてプレゼンテー ションする。	教師・児童:空き箱、身辺 材、セロハンテープ、木工用 接着剤など 教師:色画用紙、工作用 紙、お花紙、カッターナイフ、 カッターマット、化学接着剤 など 児童:水彩用具一式、ペン、 はさみ、のり、タブレット端末 など	SDGs 5:ジェンダー平等を実現し よう、8:働きがいも 経済成 長も、9:産業と技術革新の 基礎をつくろう プログラミング
下	【6年】 ②未来のわたし 【選択】	立	4	自分自身を見つめ、将来の 自分について願いと希望を もち、想像力を発揮し試しな がら、未来をつくっていくこ うとする子ども。	○未来の自分がしたいことや様子を思い浮かべたり話し合っ たり調べたりする。 ○表したい様子を考え、ポーズなどを考えながらつくる。 ○材料や用具を活用して、周りの様子もつくる。 ○作品を友人に見せて、将来の夢やしたいことなどをどのよう に表したのかを紹介し合う。	教師・児童:身辺材、セロハ ンテープなど 教師:紙粘土、アルミ針金、 ペンチ、ラジオペンチ、麻ひ も、台木、金づち、ステープ ル、色画用紙、木工用接着 剤など 児童:水彩用具一式、はさ み、のりなど	他教科 道徳:A希望と勇気、努力と 強い意志

不動小学校 図画工作科 技能系統表

	1・2年上 (A) ↔ 1・2年下 (B)	3・4年上 (A) ↔ 3・4年下 (B)	5・6年上 (A) ↔ 5・6年下 (B)		
色	クレヨン・パスの使い方 ○持ち方 ○いろいろな表し方 ・色を混ぜてみると ・点を打ってみると ・絵の具をはじく ・こすってばかす ・スクラッチ ○使い方と片付け方 共用絵の具 ○使い方と片付け方 ペン(水性)(油性) 色鉛筆	水彩用具一式 絵の具と筆の使い方 ○準備の仕方 ○絵の具の出し方 ○筆の持ち方 ○筆の動き(混色) ○筆の動き(にじみ) ○適切な水の量 ○片付け方	絵の具の表現効果 ○デカルコマニー ○にじみ ○スパッタリング ○スクラッチ ○ローラー テクニック ○マーブリング ○ドリッピング コンテ パステル	色の組み合わせ ○色の持つ力 ○印象の違い 色を混ぜると ○絵の具の色や水の 量を変えて試しなが ら、思いにあった色を つくる。	墨で表す ○いろいろな濃さの表 し方 ○筆、刷毛、荒縄等 ○水の量を変えて ・グラデーション ・にじみ等
用具 (切断・接合・ 安全と片付け)	のりの使い方 (でんぶんのり) (液体のり) 木工用接着剤 セロハンテープ 粘着テープ 両面テープ ビニルテープ	接着剤 ○使い方と片付け方 ホチキス	木工用接着剤 刷毛 化学接着剤 グルーガン	接着のいろいろ 接着剤の使い分け	化学接着剤 ○ビニル系 ○合成ゴム系 ○ビニル樹脂 ○エマルジョン系 ○溶剤系接着剤など の特徴を知る。
			金づち げんのう 釘 くぎ抜き 千枚通し 目打ち きり 割りピン 画鋏	きり ○使い方 釘 ○釘の種類 ○釘の打ち方 紙やすり	針金 ペンチ ラジオペンチ
	はさみの使い方 ○持ち方 ○切り方 ○片付け方 粘土べらの使い方	カッターナイフ カッターマット 段ボールカッター ○持ち方 ○使い方	のこぎり 小刀	彫刻刀 ○種類 ○持ち方 ○使い方	電動系のこぎり 木取り
材料・その他	油粘土 粘土板 粘土べら 液体粘土 土粘土	油粘土 土粘土 ○ひねりだし 切り系 かきべら	紙粘土 ○絵の具で着色	土粘土 ○扱い方 ○練り方 ○保存の方法 粘土べら・切り系 ○効果的な使い方 ○へらの種類 のし棒 たたら板	粘土で型を作る (土粘土) ○板づくり ○ひもづくり ○ひねりだし ○ドベでの接着
	画用紙 色紙 お花紙 板段ボール	紙について 新聞紙 包装紙 クラフト紙 ○もんでやわらかく カラーセロハン カラー工作用紙	いろいろな紙 ○紙の特徴を生かし た使い方の工夫 布	紙 ○種類 ○紙の性質 和紙 トレーシングペーパー	紙ひもを編む
	スポンジ・たんぽ・ロー ラー ○スタンピング ○こすり出し	紙版画 ローラー	スポンジローラー	木版画 彫刻刀	版画の種類と表し方 ○一版多色刷りの技 法
	タブレット 写真撮影 動画撮影 QRコード読み取り		写真を活動に生かす インターネットを活用 する		LEDライト プログラミング ICTで広がる美術鑑 賞 クランクの仕組み
共通	○使った道具はもとの場所に返す。 ○まだ使える材料などは、分けて置いておく。(種類・素材・色別に分けておく。) ○余った紙は、小さく折りたたんだり、まとめたりしておく。 ○使えなくなったものは、けがの元になるので決められた入れ物に入れておく。 ○光を使った題材では、太陽や反射光などの強い光を直接見ない。 ○土粘土や液体粘土は、直接排水口に流さない。				

IV 研究の成果と課題



I 育成する造形的な資質・能力を明確にした指導計画の工夫

(1) 成果

- ① 教師が、各題材で児童にどのような力を付けさせたいかをしっかりと捉えて教材研究を行ってきた。材料や道具に十分慣れるためのお試しの時間を確保したり、活動の方向性を児童と共有したりするなど、導入を工夫することで、児童はかきたいものやつくりたいものへのイメージをもちやすくなったようである。また、それぞれの材料でどんなことができそうかなどと友達と共有することで、イメージを膨らませることができた児童も多い。導入で題材についてしっかりつかませたことで、児童は安心して活動に取り組むことができた。絵をかくことに苦手意識を感じていた児童が自分の思いをしっかりと絵に表し、意欲的に活動するという成長を感じた場面も見られた。
- ② 2年間での学習の関連性を考慮し、複式年間指導計画を作成した。そうすることで、前年度の経験を生かし、工夫して表す児童の姿が見られた。下学年の児童にとってはその姿が手本となり、新たな技法に挑戦したり、「あんなことをやってみたい」「こんなふうになるとどうなるかな」などと活動が広がったりしていた。教師から教えるのではなく、児童同士での学び合いが自然に行われる様子が見られた。
- ③ 友達と協力して活動する楽しさを味わえるようにするため、令和6年度より、スマイルアート集会をスタートさせた。異年齢集団である「スマイル班」で活動し、異学年交流もできるようにした。高学年がサポートしながら活動を進め、つくる楽しさやできあがったときの感動を全校で共有できた。振り返りでは、「みんなでできて楽しかった」「またしたい」という感想もあり、友達と協力してひとつのものをつくることのよさを感じることができた児童も多かった。このよさを今後も感じ続けることができるように、集会のみならず、授業でもこのような活動の計画をさらに立てていく必要がある。

(2) 課題

- ① 表したいことのイメージはできても、それをどうすれば思い通りに表すことができるのか、悩む児童は少なくない。特に高学年は、「こんなふうになりたい」という思いをもっているが、思い通りにでき上がらないことから、「やっぱり図工は苦手だ」と感じてしまうケースもある。しかし、図工に関するアンケートによると、70%以上の児童が、思い通りにかいたりつくったりできるようになりたいと願っていることが分かった。その思いに応えるべく、どうすれば技能を高めることができるのか研究を続け、今後も授業やアートタイムを通して技能を高める時間を確保していきたい。また、児童の技能面でのつまずきや困り感を予め想定し、十分な手立てを講じることで、自分の表したいことを表したりつくりだしたりする喜びを味わえるようにしていきたい。
- ② 各題材、各授業においてめあてを提示しているが、児童が、意図せずそのめあてからはずれていることがある。児童は自由に発想しながら活動しているため、児童の思いを尊重しつつめあてに沿った活動に戻す手立てや声かけが難しいと感じる。児童が、活動の方向性をしっかりとつかむことができるようにするためにも、今後も導入の仕方を研究していく。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(1) 成果

- ① 本校は毎年、全教員が公開授業を行い、授業力の向上に努めている。R6・7年度は、統一大会に向けて主に図画工作科の公開授業を行った。児童の間で自然に対話が生まれるような手立て、児童が題材へのイメージを膨らませ主体的に活動していくことができるような導入の工夫などを全教員で考え、日々の実践に生かしてきた。これらの授業改善により、表現の幅が広がった児童が増えた。様々な技法を用いたり組み合わせたりしながら、自分の表したいことを表すための工夫を考える姿が見られるようになってきている。前年度の経験が生かされていることに加え、授業の中で友達らの活動を見たり友達と話したりすることが、お互いにより刺激となっていると考える。
- ② 自分が感じたことを豊かに表現したり、見方や感じ方を深めたりするために手立てとして、「ことばであらわそう」のワードリストを作成した。図工室のホワイトボードに常に掲示し、日常的に言葉に触れるとともに、鑑賞する際にも児童が言葉を意識して使うことができるようにした。スマイル鑑賞会では、ワークシートの右半分に「ことばであらわそう」のワードリストを印刷し、自分の感じたことを表す言葉を選び、表現できるようにした。この手立てにより、鑑賞の際には、「〇〇みたい」「〇〇の形がすてき」など、色や形に着目して作品を見ることができている児童もいた。また、「いろいろな色を使っていて、楽しそうな感じがする」などと作品を見て感じる自分のイメージをもっている児童もあり、見方や感じ方を広げるきっかけになったようである。
- ③ 児童の思考や活動を妨げず、児童がイメージを膨らませたり意欲的に活動したりできるように、「言葉かけ集」を作成し、教師による声かけの工夫を心がけた。「これは何をイメージしているの?」「ここからどうなっていくの?」などと声をかけることにより、児童はそれまで考えていなかった細かい設定も考え始めるようになり、「ここに穴を空けて窓をつくりたい」「楽しいイメージに合うように、ここは明るい色にしてみよう」などと、工夫につながっていった。また、イメージはあるものの形に表すことが難しく活動が滞っている児童には、「こんな方法もあるよ」「こうしてみたらどうかな」などと提案した。そうすることでかき方やつくり方がわかり、諦めずに最後まで取り組み、自分の納得のいく表現をすることができていた。

(2) 課題

- ① 児童同士の対話をいかに増やすかが課題である。自分の作品づくりに没頭し、周りの友達の活動に意識を向けにくい様子が見られた。製作活動の中で相互鑑賞が自然に行われ、友達の活動を参考にしたり、困ったときに「これはどうやってやったの?」と尋ねたりする姿を目指し、指導を行ってきた。友達の活動や作品を見ることができるよう、児童の動線を考え、座席や材料置き場などの配置の工夫をしたり、活動が滞っている児童に「〇〇さんが同じようなことをしていたから見てきたら?」「みんながどんなことをしているか見てみよう」などと声をかけたりしてみたが、なかなか上手いかなかった。図工だけでなく他の教科でも児童同士の対話を増やしていき、自分の思いを伝えたり友達に尋ねたりすることができるような環境をつくっていく必要があると考える。自分や友達の作品を鑑賞することで、さらに豊かな表現へとつながる。表現と鑑賞の往還をさらに充実させていきたい。

- ② 本校は失敗を恐れる児童が多く、活動の途中でうまくいかないことがあると、「失敗した」と感じており、「やっぱり絵（工作）は苦手だ」という意識につながっているようである。そこで教師が「こうしたらいい感じになりそうだよ」「これも素敵に見えるよ」などと、自分らしさを認める声かけや、うまくいなくてもまたつくりかえていけばよいという意識を育てていくことが重要である。普段の生活や他の授業でも、自分らしさや、多様な表現や意見を認め合えるような雰囲気づくりを心がけたい。そうすることで、新たな工夫が生まれたり、「つくり つくりかえ つくる」ことができたりするのではないか。これらの手立てが、児童が主体的に活動に取り組む姿につながっていくと考える。

3 指導と評価の一体化

（１）成果

- ① タブレット端末を活用し、児童の表現の過程や変容を見取ることができるようにした。アプリ上に学習の過程が残るため、個々の学習状況が把握でき、支援につなげることができた。振り返りでは、写真を貼ったり、そのときに感じたことや工夫したこと、次はどうしていきたいかなどをかき込んだりしており、教師は次時の手立てに生かすとともに、評価にも生かすことができた。
- ② 本校では、図工を含む技能教科において、TTでの指導を行っている。統一大会に向けてTTの在り方を研究していく上で、T2は単にT1のサポートではなく、二人ともがT1のつもりで授業をしていくことを大切にしている。複数の目で児童への声かけや活動の見取りなどを行うことで、困っている児童へのよりよい支援を行うことにつながってきている。
- ③ 表現を広げたり深めたりする手立てとして、材料のよさに気付いて生かしている児童を教師が全体に紹介したり、活動の途中でお互いの作品を鑑賞し合う時間を意図的に設けたりした。「〇〇に見えるね」「〇〇のようになっているのが面白い」などと友達から聞き、そこからイメージが広がっていく児童の姿が見られた。活動が進んでいない児童も「もう完成した」という児童も、友達から刺激を受けることで、「こんなふうにやってみようかな」「ここはもっとこうしてみようかな」などと、活動を続けていく手助けとなっていた。その様子を教師が見取っていくことで、評価に生かすことができた。

（２）課題

- ① TTによる授業は児童への支援を行いやすくなる一方で、題材についての事前の打ち合わせが重要になってくる。題材の方向性や授業内での役割分担、児童のどのような工夫を全体に紹介するのか、こういった基準で評価をするのかなど、さまざまなことについて共通理解をしっかりと図る必要がある。また、授業後も児童の様子を共有し、次時のよりよい指導につなげなければならない。それぞれが全ての児童に関わりながら、対話や表現の変容から児童の思いを見取り、情報交換をすることでよりよい評価や指導へとつながっていくと考える。授業についての打ち合わせや情報交換を行う時間の確保や方法の工夫が必要である。

- ② 授業の振り返りにおいても、次時の活動への意欲が高まるように、形や色などの造形的な視点に気付くことができるような問い返しをし、児童から気付きを引き出したい。「ことばであらわそう」の言葉を使って自分や友達の作品について述べさせたり、どんな表現や工夫ができるのかを全体で共有したりすることで、目指す子どもの姿に近づき、資質・能力をさらに高められるように指導を続けていきたい。



おわりに

本校では、県の研究主題「豊かにかかわり つながり 『わたし』が広がる造形活動」のもと、本研究大会に向けた準備や研修に取り組んでまいりました。研究開始当初は何もかもが手探り状態でしたが、県事務局や指導助言者の先生方に研究主題や授業づくりの基本からご指導いただいたり、毎年全学級が公開授業に取り組み、教材研究や教師のことばがけ・手立ての工夫について議論したりするなど、地道に研究を積み重ねてきました。

複式授業や集会を重ねるうちに、少しずつではありますが、自分の思いを大切にし、自己の表現や世界を広げていく様子や、他者の表現を認め、共に作りだすことの楽しさや喜びを感じながら活動に没頭する姿が見られるようになりました。また、誰もが鑑賞できる児童玄関での定期的な作品展示や全校で各教室・廊下の作品を観て回る鑑賞会などを通して、作品や活動に対する感想の交流や保護者・地域の方々からのメッセージをいただくことで、新たな発見と温かなつながりを感じ取ることもできました。

徳島県図画工作部会の事務局の方々をはじめ、講師の先生方、徳島市小学校教育研究会図画工作部会の先生方、本校保護者や地域の皆様には、多面にわたり温かいご指導、ご協力をいただきまして本研究大会を行うことができました。様々な形で研究を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、この研究紀要が県の研究主題に沿った図画工作科教育を進めていく為に少しでもお役に立てれば幸いです。本校では、今後も「造形活動を通じたつながりや学びを深めていけるような授業づくり」に取り組み、子どもたちと図画工作科の時間を楽しんでいきたいと考えています。

不動小学校 教頭 井上 博子

研究同人

令和6年度

熊井 美樹	井上 博子	図子 拓記	前原 徳	田中由佳理	三浦美穂子
吉田 紘子	野村 敏之	徳永 裕一	安原 千絵	高松 馨太	小原 樹
長谷部貴子	畠中 達也	南馬越真由美			

令和7年度

橋本 賢治	井上 博子	図子 拓記	前原 徳	田中由佳理	三浦美穂子
吉田 紘子	徳永 裕一	安原 千絵	高松 馨太	小原 樹	宮本 拓海
都築 陽平	畠中 達也	南馬越真由美			